

撒曹 四、〇乃至六、〇

右散三包ニ分チ毎夕頻次連用

アンチヘアリン 〇、二五

白糖 〇、五

右爲一包與四包一日ニ用ユ

アンチピリン 五、〇

右散五包ニ分チ澱粉糞ニ包ミ午

後一乃至三包ヲ用ユ

硫酸タルリン 〇、〇四乃至〇、一

白糖 〇、三

右爲一包與十包毎時一包宛

カイホリン 〇、一

右爲一包與五包一日一包乃至五

包葡萄酒ニテ用ユ

サリシン 各〇、五

茴香油糖 右爲一包與十二包午後ヨリ五乃

至十二包ヲ用ユ

フエナツエチン

白糖 各〇、五

右爲一包與二包毎午後一乃至二

包

下痢アルヲ認ムルニ於テハ左方ヲ處ス

サレツプ煎 二〇〇、〇

阿片丁 五滴

單舎 二〇、〇

右調和飲料毎一時一食匙

次硝酸蒼鉛 一、〇乃至二、〇

右爲一包與十包一日數回一包宛

(一日ノ量一〇、〇迄用ユルモ可

ナリ)

ゴム合劑 二〇〇、〇

水製阿片糖 右毎時一食匙 〇、一

サレツプ煎 二〇〇、〇

阿片丁 二、〇

右調和瀉腸料

腸出血ヲ發シタルトキハ絶對的安靜ヲ

命シ下腹部ニ氷嚢ヲ施シ先ツ阿片丁十

五滴ヲ與ヘ後毎三時三滴宛ヲ與フ其他

左方

粗製明礬 〇、五

阿片末 〇、一

樟腦 〇、三

白糖 二、〇

右研和散五包ニ分チ毎二時一包

鉛糖 各〇、三

阿片末 五、〇

澱粉 右研和散十包ニ分チ毎二時一包

過クロール鐵液 一、〇

腸壁扶斯

桂皮水 一五〇、〇

桂皮舎 二〇、〇

右調和毎時一食匙

一%ゲラチン溶液 二〇〇、〇

右一日三回二日分服

衰弱愈々加ハリ虚脱ノ傾向アルトキハ

「エーテル」ノ皮下注射ヲ行ヒ又シヤン

パン、葡萄酒(一食匙)宛肉羹汁等ヲ匙

ニテ少量ニ頻々與フベシ

樟腦 二、〇

オレーフ油 八、〇

右皮下注射料(一日十筒或ハ以

上)

卵黃 二個

コンニヤック酒 五〇、〇

桂皮水 一二〇、〇

單舎 三〇、〇

五七九

右二回分服(ストーク氏武蘭堊酒)

卵黃 二個

ブランデー酒 三〇、〇

單舎 二〇、〇

餛水 一二〇、〇

右一日六回二日分服

麝香 〇、五

白糖 二、〇

右研和散五包二分チ毎三時一包

便秘ニハ温湯濯腸ヲ行フベシ藥劑ハ患部ヲ刺戟スルノ虞有リ

小兒ニ用ユル處方左ノ如シ

甘汞 〇、一乃至〇、四

乳糖 〇、五

右分二包一日二回一包宛

ナフタリン 〇、〇五乃至〇、二

茴香油糖

右爲二包與三包毎三時一包宛 〇、五

稀鹽酸 一、〇

餛水 一〇〇、〇

單舎 二〇、〇

右毎二時一小兒匙宛

アンチピリン 〇、二五

橙皮舎 二〇、〇

右毎夕數回一茶匙宛

硫酸タルリン

〇、〇一(三才ヨリ四才迄)

〇、〇二(五才ヨリ十才迄)

〇、〇三乃至〇、〇五

(十才ヨリ十五才迄)

〇、三

白糖 〇、三

右爲一包與十包毎二時一包砂糖

水ニテ用ユ

發疹瘰扶斯

Typhus exanthematicus.

チフス、エキザンティチクス

(原因)未詳ナリ著シキ觸接傳染性ヲ有ス

(診候)潜伏期ノ(十日乃至十四日)ノ後頭痛、四肢ノ疼痛、倦怠、食慾不振、嘔吐及不

眠等ノ前驅症ヲ發シ或ハ前驅症ナクシテ卒然寒戰體溫暴騰(四十度乃至四

十一度)、頭痛、眩暈、無感、譫語等ノ腦症ヲ發ス氣管枝加答兒、脾腫ヲ呈ス、

然レドモ腸症狀ハ比較的輕度ナリトス、而シテ第三日乃至第七日ニ多數ノ

薺微疹ヲ全身ニ(軀幹、頸部、四肢、罕ニ顔面ニ)發シ二三日ノ後出血ニ變ス

○輕症ニ在テハ第二週ノ初ニ輕快シ、重症ニ在テハ或ハ第十四日乃至第十

七日ニテ輕快シ或ハ合併症肺炎等ニ由テ死ス

(豫後)熱ノ高低合併症ニ由テ異ナリ死亡數ハ六乃至二十%

(療法)腸瘰扶斯ノ療法ニ同ジク同條下ヲ看ルベシ

回歸瘰扶斯

(再歸熱) Typhus recurrens

(Febris recurrens) チフス、レクランヌム、レクランヌム、レクランヌム

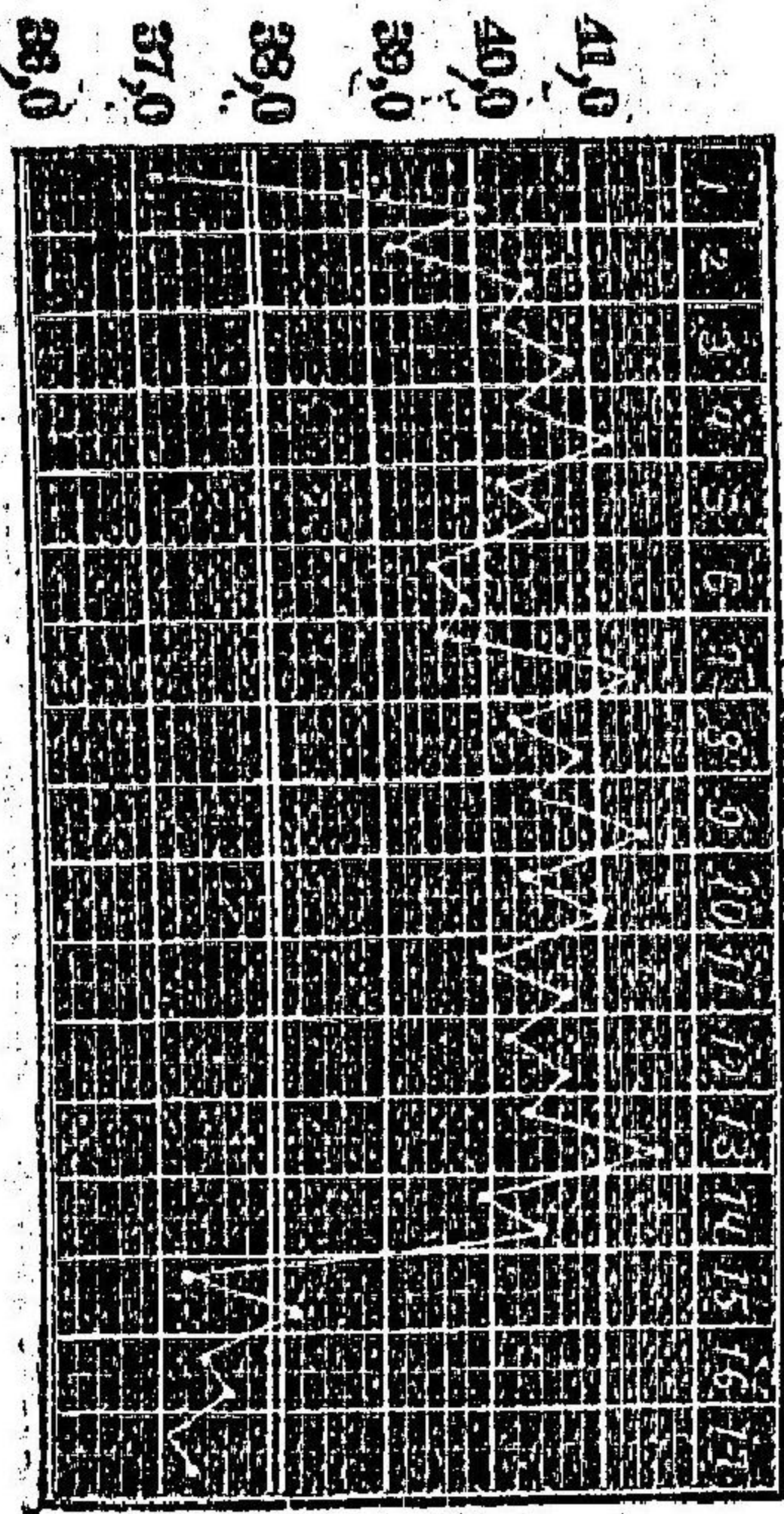
(原因)オーベルマイエル氏螺旋狀菌ノ傳染ニシテ該菌ハ常ニ發熱中ハ血中ニ存在

發疹瘰扶斯 回歸瘰扶斯

ス、無熱期ニハ消失ス本病傳染ハ空氣、介立者、使用物品、蛋、或ハ直接觸接ニ由ル

(診候)潜伏期(五日乃至八日)ノ後寒戰、體溫暴騰(或ハ稽留或ハ弛張著シ)、薦骨部

圖 一 十 五 第

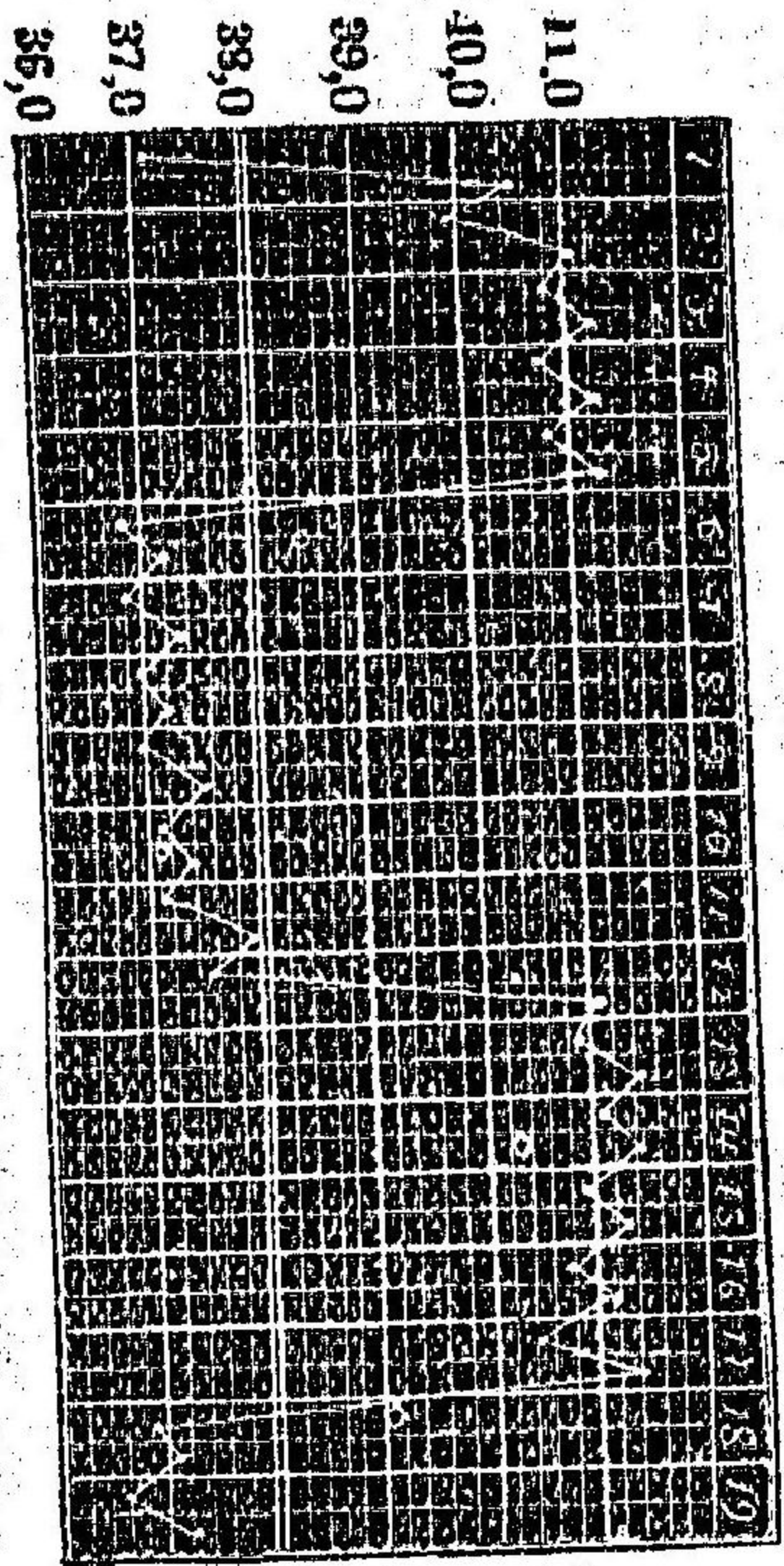


新、共、發、熱、診、候

劇痛、四肢疼痛、頭痛、倦怠、食慾不振(往々嘔吐)、脈搏增加、脾著シク腫大四肢ノ諸筋ハ壓迫スレバ疼痛ヲ發ス(殊ニ腓腸筋、其他口唇ヘルペス、或ハ氣管支炎ヲ發スルコトアリ以上ハ第一回發作ニシテ五日乃至七日間ノ後發汗

シテ三十五度内外ニ下降シ第一無熱期ニ移ル○第一無熱期ハ四日乃至十日間ヲ常トス只ダ脾腫ヲ認ムルノミニシテ第二發作ニ移ル○第二發作ハ第一發作ニ同シ但シ一二日短キモノ多シ○第二無熱期ハ第一無熱期ノ如シ但シ一二日長キモノ多シ○第三發作ハ第二發作ヨリモ更ニ短カク第四第五ハ發セザルヲ常トス○發作中ノ血液ヲ檢シ螺旋菌ヲ明カニスレバ診斷明確ナリ

圖 二 十 五 第

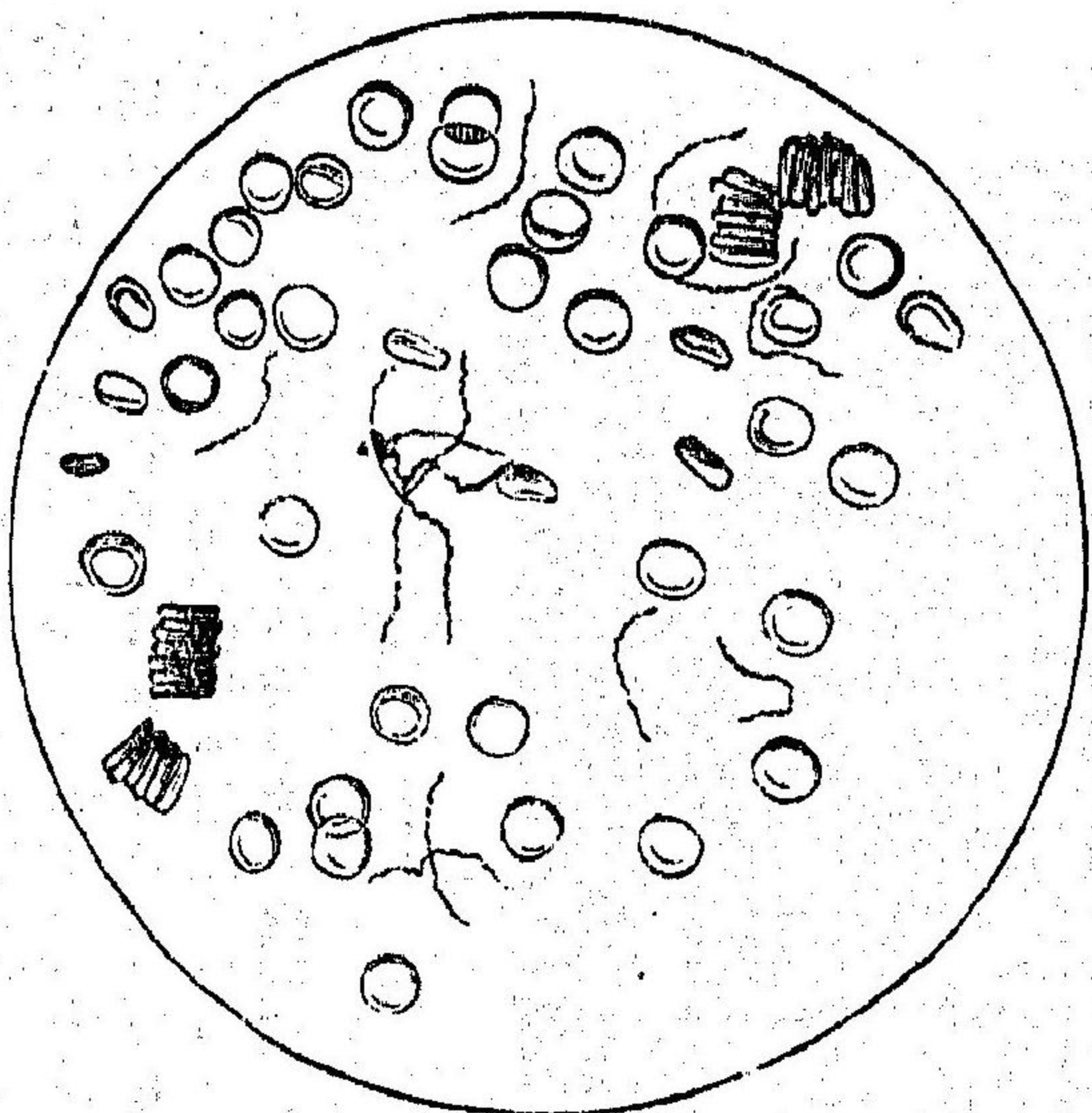


熱 診 候 回

回歸發熱

本病ノ一種類トシテ膿液性窒扶斯様症 Das Biliose Typhoid. ナ算入スル
モノアリ即チ「グリーシンゲル」(Griesinger)氏埃及ニ於テ初メテ觀察セル疾
病ナリ、熱及黃疸アリ且烈シキ腦症アリ出血シ易ク心臟衰弱シ易シ然レ

第 五 十 三 圖



オベールマルエイル氏菌

凡近年ノ研究ハ本症ヲ以テ別症トナスベシト云フ埃及即チグリーシンゲル
氏が經驗シタル地方ニ於テハ血中ニ「スピリルレ」ヲ發見セザレバナリ

(豫後) 概子良

(療法) 特效藥ナキヲ以テ對症療法ヲ施シ他人ニ傳染ノ虞アルヲ以テ萬般ノ消毒ニ

注意スベシ

潰瘍

Ulcera. ソルツェテ

(原因) 外傷、梅毒、腺病、結核、癩病、痛風、失荷兒陪屈、狼瘡等ナリ

(診候) 組織ノ實質缺損其部ノ炎性、諸症、陥没等ヲ認ムベシ

(療法) 患部ノ潮紅腫脹甚シキ者ニハ冷水或ハ鉛水ノ電法ヲ行フコト一般ノ消炎法

ナリトス而シテ潰瘍ニハ軟膏ヲ貼用シ「ヨード」フォルム繃帶ヲ施シ又劇甚

ノ肉芽性潰瘍面ニハ熔製硝酸銀ノ腐蝕法或ハ烙白金燒灼法ヲ行ヒ或ハ腐蝕

カリ「チ」塗布シ或ハ銳匙ヲ用井テ肉芽ヲ去ルベシ○單純潰瘍ニハ晝間絆創

膏條 (マイントン氏法) 或ハ「フ」ラ子ル繃帶或ハ「ゴム」繃帶ヲ用井テ纏絡シ

夜間濕溫電法ヲ施スチ宜シトス但シ荏苒治癒ヲ怠ル者ニハ植皮術ヲ施スコ

トアリ

次醋酸鉛液

二〇、〇

右調和電法料

一〇、〇

留水

二〇〇、〇

粗製明礬末

回歸窒扶斯 潰瘍

五八五

次醋酸鉛液	二〇〇、〇	デルマトール	一〇〇、〇
右調和用法料	二〇〇、〇	黄色ワセリン	九〇、〇
酸化亞鉛	五、〇	右軟膏	
ワセリン	各一五、〇	デルマトール	二〇、〇
右調和軟膏ニ作ル用法同上		滑石	七〇、〇
苛性カリ	〇、五	澱粉	一〇、〇
右調和繻帶料	二〇〇、〇	右撒布料	一〇、〇
アイロフエン	二、〇	アイロール	
オレーフ油	一〇、〇	右撒布料	
右軟膏	八八、〇	壞疽性潰瘍ニハ制腐洗滌性液及義布斯	
赤降汞	〇、二	タール末ヲ用井テ効アリ	
ワセリン	一五、〇	クロール石灰	五、〇
右調和軟膏ニ作ル	五、〇	右調和創面洗滌料	二〇〇、〇
		過マンガン酸カリウム	二、〇
		右調和創面洗滌料	二〇〇、〇
		サリチール酸	五、〇

炭酸ナトリウム	一、〇	右温メテ塗布ス	各四〇、〇
右調和創面洗滌料	二〇〇、〇	イヒチオール	一〇〇、〇
硫酸石灰	五〇、〇	ワセリン	二〇〇、〇
水タール	一〇、〇	右潰瘍面ニ塗布シ綿花ヲ貼ス初	
右研和撒布料(義布斯タール散)	三〇、〇	メハ毎日後ニハ隔日變換ス	
次硝酸蒼鉛	三〇、〇	結核性及腺病性潰瘍ニハ其周縁部ヲ切	
右撒布料、先ヅ創面ヲ洗滌シ而		除シ又鏡匙ヲ用井テ惡性肉芽ヲ搔去シ	
後之ヲ撒布シテ繻帶ヲ用井固定		而シテ「ヨード」フアルム、カ「セ」繻帶ヲ	
ス		施スベシ殊ニ痲鈍性潰瘍ニハ「ヨード	
水醋	二、〇	液ニ浸シタル「ガーゼ」ヲ被覆シ其表面	
右調和創面洗滌料	二〇〇、〇	ニハ更ニ「グツタベル」カ繻帶ヲ施スヲ	
下腿潰瘍ニハ左ノウシナ氏亞鉛膠ヲ用		宜シトス	
ニ		ヨードカリウム	二、〇
酸化亞鉛	各一〇、〇	ヨード	一、〇
膠		右外用	二〇〇、〇
グリセリン		小兒ニハハルライシ氏滷母鹽ノ温浴ヲ	

行ヒ内服ニ肝油ヲ與フ可シ
梅毒性潰瘍ニハ適應ノ局所療法ヲ施シ

且ツ「ヨードカリウム」ノ内服ヲ與フ

喉頭潰瘍

Ulcera laryngis.

ワルツェチンリンギス

(原因) 加答兒性剝脫、望扶斯、梅毒或ハ結核ニ發スルモノ多シ
(診候) 頑固性ノ咳嗽、嘶嘎、喉頭癢痒、喉頭鏡下潰瘍ノ發見ニシテ梅毒ニモ或ハ結核ニモ各之レニ伴フ全身及局處症ノ特異ナル者アリ假令「甲」ニハ腺腫乙ニハ肺結核ノ如シ

(療法) 其原因ノ梅毒ナルカ將々或ハ結核ナルカニ注意シ其原因療法ヲ勉ムベシ
結核性潰瘍ニハ薄荷腦油、オルトフォルム、ヨドール、ソゾヨドール亞鉛
(一、〇乃至二、〇滑石一〇、〇) アリストール、デルマトール、タンニン酸、ブ
ロームアムモニウム等ヲ吹入スベシ、ヘーリング及クラウゼ氏ハ一日二
回宛三〇乃至八〇%ノ乳酸ヲ潰瘍面ニ塗布シタリ、コカイン水ヲ用ユ限局
性ニシテ手術的療法ヲ施シ得ルモノハ之レヲ行フベシ

- 薄荷腦 一〇、〇
- 右吹入料 一〇〇、〇
- オレーフ油 一〇〇、〇
- 右調和喉頭注射料 一〇〇、〇
- オルトフォルム 一〇、〇
- グリセリン 二〇、〇
- 右調和塗布料 一〇、一
- 昇汞 二〇、〇
- 濃厚酒精 二〇〇、〇
- 留水 一〇、〇
- 右吹入料 一〇、〇
- コカイン 一〇〇、〇
- 留水 一〇〇、〇
- 右吸入料(コカイン)ハ「スプレ

一ニテ)
梅毒性潰瘍ニハ有力ノ局所療法ニ併セ
テ全身療法ヲ施スベシ

甘汞

右吹入料

ヨードカリウム

ヨード

- グリセリン 二〇、〇
- 右調和塗布料 一〇、一
- 昇汞 二〇、〇
- 濃厚酒精 二〇〇、〇
- 留水 一〇、〇
- 右吹入料 一〇、〇
- コカイン 一〇〇、〇
- 留水 一〇〇、〇
- 右吸入料(コカイン)ハ「スプレ

結核性腸潰瘍

Ulcera intestini tuberculosa.

ワルツェチンリンギスチニ、ツベルグローザ

(原因) 肺結核、全身結核ノ繼發、結核性牛乳ノ飲用、及結核性ノ母若クハ乳母ヨリ
來ルコトアリ、又肺癆患者トノ接吻又ハ該患者ノ使用シタル食器ヲ用ヒ爲
メニ腸粘膜ニ結核バチルスノ傳染又小兒ニ在テハ腺病質、營養不給ノ者ニ
原發スルコトアリ

(診候) 原發性ノ者ニ在テハ下腹膨滿、腸壁緊張、雷鳴、腹痛、惡心、嘔吐、頑固性下痢
ヲ混ズ) 日晡潮熱及削瘦等ナリ繼發性ノ者ニ在テハ肺癆ノ諸症候ニ兼メル
頑固性カカオ豆色ニシテ血液ヲ混シタル粘液樣便及上圍時ノ疝痛樣疼痛等

喉頭潰瘍 結核性腸潰瘍

小兒ニアリテハ往々腫大セル腸間膜腺ニ觸ル、コトアリ、滑腸ノ部位、小腸ニアルトキハ往々便秘ヲ發スルコトアルモ大腸ナルトキハ劇シキ下痢ヲ起ス、盲腸ナルトキハ盲腸炎或ハ蟲様突起炎ノ症候ヲ發シ若シ直腸ニ轉居スレバ直腸炎若シクハ肛門周圍炎ヲ發ス

(豫後)不頁

(療法)豫防法、肺結核患者ヲシテ咯痰ヲ嚥下セシム可カラズ若シ空腹時ニ咯痰ヲ嚥下シタル時ハ直ニ小許ノ麵包ヲ食セシムレハ直ニ鹽酸ヲ分泌シテ該菌ニ作用ス可シ疑ハシキ牛乳若シクハ生肉ハ食セシム可カラズ、此症ニ在テハ之ト同時ニ認ムル全身結核或ハ肺結核ノ療法ヲ施シ肝油、稀乳汁含鐵鹽泉等凡テ腸ヲ刺激スル藥劑ヲ禁シ食物ニハ牛乳、鶏卵、肉等又可成ハ肉液ヲ與フ可シ

下痢ニハ左方ヲ處シ最モ有効ナリ

- 次硝酸著鉛 三、〇
- 阿片 〇、二
- 白糖 四、〇
- 右研和散十包ニ分チ一日三乃至四回一包
- サリチール酸著鉛 各五、〇
- ザロール 各一〇、〇
- 沈降炭酸カルチウム 各一〇、〇
- 右分三十包毎日三乃至四包オプ
- ラートニ包ミ用ユ
- サリチール酸著鉛 各五、〇
- 乳糖

- 撒著 右分十包毎日二乃至三回一包宛
- タンナルピン 六、〇
- 右分六包一日三回二分 三、〇
- 乳糖 二、〇乃至八、〇
- 縮水 一二〇、〇

右一日數回分服

潰瘍ノ直腸ニ在ル者ニハ澱粉溶液或ハ

軟性下痢

Ulcus molle. マルケンセル
Weicher Schanker. ワインハンヤンケル

サレツプ煎ニ阿片丁幾チ和セル者或ハ左方ヲ灌腸ニ用ユ可シ

硝酸銀 〇、五
縮水 二〇〇、〇
右調和二回灌腸料
尙ホ慢性腸加答兒ノ條下ニ就テ本症ノ治法ヲ參考スベシ

(原因)大抵不潔ノ交接ニ起ル下疳毒ノ傳染ナリ(チエクレイ氏ウシナ氏連鎖菌)
(診候)多クハ陰部ニ發生スル潰瘍ニシテ周圍柔軟着面低ク着面豚脂様ノ不潔ナル滲出物ヲ被ムリ大抵疼痛アリ鼠蹊腺ノ腫起醜膿ヲ致スコトアリ

(豫後)頁

(療法)先ヅ二%ヨカイン或ハ「オイカイン」液ヲ塗布シテ局部ヲ麻酔セシメ「フオルマリン」或ハ石炭酸液ヲ以テ創面ヲ腐蝕シ「プロー」氏液電法ヲ施スコト一日ニシテ後ヨードフォルム等ノ撒布療法ヲ行フヘシ又炎勢周圍ニ瀾漫増進シテ

結核性腸潰瘍 軟性下疳

浮腫浸潤等ヲ致ストキハ冷電法ヲ行フ可シ
 ヨードフォルム末 五、〇
 右撒布料一日二乃至三回
 ヨードフォルム末 五、〇
 右撒布料一日二乃至三回
 カイロフェン 三、〇
 右撒布料
 ヨドール 三、〇
 グリセリン 六五、〇
 酒精 三五、〇
 右調和塗布料
 ヨドール 五、〇
 白糖 一〇、〇
 右研和塗布料
 アイロール 五、〇

右撒布
 次安息香酸蒼鉛 一〇、〇
 右撒布料先ヅ潰瘍ヲ消毒洗滌シ
 タル後撒布スベシ(一日一乃至
 二回ヲ度トス)
 石炭酸 一、〇
 留水 一〇〇、〇
 右洗滌料
 ヨードフォルム末 二、〇
 薄荷油 二滴
 ラノリン 八、〇
 ソセリン 二、〇
 右調和軟膏ニ作ル

角膜潰瘍

Ulcus corneae.

ウルクス、コルネヘ

(原因)外傷(最モ腰々木竹ノ枝、稻麥ノ葉又ハ額瓜、石片等ニヨリ睫毛亂生又ハ手

術ノ際ニ來ルコトアリ)結膜炎(化膿性、顆粒性、實扶的里性ニ多シ)水疱性
 角膜炎、角膜營養不給、疱疹、痘瘡ニシテ細菌ノ組織内ニ入ルニ依ル〇下等
 社會及ヒ老人ニ多シ

(診候)角膜周圍ノ充血、羞明、流涙、膿汁分泌、疼痛、患部ノ實質缺損其潰瘍面ノ透
 明ナルアリ帶黃濁蓄膿等ニシテ化膿性ノモノハ終ニ癍痕或ハ葡萄腫ヲ來
 シ穿孔ス其症重キハ全眼球炎ヲ起シ角膜癆或ハ眼球癆ヲ來スコトアリ

(療法)硼酸溶液等ヲ用井テ結膜囊ヲ洗滌スルカ若クハ「ヨードフォルム末、アリス
 トール、サチニン」ヲ撒布シ防護繃帶ヲ施ス可シ〇其症頑ナルモノハ銳匙ヲ
 以テ搔爬シ或ハ電氣燒灼器ヲ用井テ潰瘍ノ縁界ト下面トヲ燒灼ス可シ縁界
 判然セザルキハ〇、〇五フロレスチン」ヲ二%曹達水一〇、〇ニ溶解シタル
 モノヲ以テ之ヲ染ム可シ上皮缺損部ハ鮮綠色ヲ呈ス〇前房ニ蓄膿シタルモ
 ノハ角膜切開或ハ穿刺術ヲ施シ又劇痛アル者ニハ麻醉劑ヲ用井遲鈍性潰瘍
 ニハ水或ハ「カミル」浸劑ノ濕巻法ヲ行ヒ或ハ熔製硝酸銀ヲ用井結膜天藍
 部ヲ細ク燒灼ス可シ

硼酸 三、〇
 留水 一〇〇、〇
 右調和結膜囊洗滌用 一、〇
 留水 一〇〇、〇
 サリチール酸 二、〇
 右調和用法同上
 クロール水 五〇、〇

角膜潰瘍

鹽水 右調和用法同上 五〇、〇
 ヨードフォルム 五、〇
 右撒布用
 硫酸アトロピン 一〇、〇
 〇、〇五
 〇、〇
 右調和點眼料
 疼痛ニハ左方ヲ用ユ 三、〇
 莨菪越 二〇〇、〇
 鹽水

胃潰瘍或ハ圓形胃潰瘍

Ulcus ventriculi.

ウルクス、ソ、エン、トリ、ク、リ

(原因) 萎黃病、心臟病或ハ肺硬結等ノ爲メニ起ル胃粘膜ノ末梢動脈エンホリー或ハ毛細管溢血ニ來ル婦人ニ多シ胃、酸過多モ亦之ヲ發スルコト有リ
 (診候) 胃加答兒ノ諸症殊ニ食後胃部疼痛、酸性暖氣嘔吐惡心、嘔吐、吐血等ナリ、胃痛ハ灼熱様穿刺様痙攣様ニシテ心窩ニ限局シ、嘔吐ヲ起シ胃内容ヲ失フ時ハ通常止ムモノナリ、又患者ノ位置ニヨリテ増減アリ亦本症ニ必要ナル症

右溫罨法料トナス
 若シ其潰瘍角膜周圍ノ深部ニ浸蝕スルカ或ハ大ニ蔓延スルカ或ハ軟化スルカ或ハ周圍性虹彩炎ヲ起セルトキハ「アトロピン」ヲ禁ジ「エゼリン」ヲ用ユ可シ
 サリチール酸エゼリン 〇、〇五
 鹽水 一〇、〇
 右調和點眼用

候トシテ記載ス可キハ背部ノ疼痛ナリ、(特ニ左側第八乃至第十二胸椎又ハ第一第二腰椎ノ間時ニ兩肩胛骨間ニ發スルコトアリ) 壓痛ハ心窩ニモ背部ニモ發ス、嘔吐ヲ發スルハ通常其疼痛ノ劇シキ場合ナリ、吐血ハ或ハ自然ニ或ハ身體ノ勞働、精神感動ニヨリ又食後ニ發ス、此血色ハ暗黒酸性ナリ其他、風氣、黑色タール様血便、便秘、或ハ下痢也食慾通常亢進シ舌ハ清潔ニシテ食味モ亦良合併症又ハ後遺病トシテハ癩痕性幽門狹窄穿孔性腹膜炎、胃痛ヲ砂漏胃、橫膈膜ト膿瘍、進行性惡性貧血ナリ、○胃痛ノ條ヲ看ルベシ
 (豫後) 其但シ穿孔出血ヲ發スレバ不良ナリ
 (療法) 吐血ニハ其對症療法(吐血ノ條下ヲ看ヨ)ヲ行ヒ且ツ食物ヲ斷然禁ジ其止血ヲ認メタルニ及ンテ冷牛乳ヲ反覆少量ヲ與ヘ漸次增量スベシ然レトモ患者若シ牛乳ニ堪ヘザルトキハロイベ、ローゼンタール兩氏肉溶液或ハ新鮮ナル肉越幾斯ヲ與ヘ若クハ「ペプトン」或ハ肉糜灌腸(新鮮牛膝一五〇、〇細挫肉片三〇〇、〇ヲ煎ジテ小許ノ肉羹汁ニ作り先ヅ清洗灌腸ヲ行ヒタル後之ヲ直腸内ニ注入スルナリ)ヲ用ユ可シ○疼痛ノ發作ニハ麻酔劑ヲ投ジ頑固ノ嘔吐ニハ麻酔劑及氷片ヲ與ヘ風氣ニハ驅風藥ヲ用ユ可シ諸症ノ減退スルヲ待テ始メニ淡泊ノ食物、鶏卵、細截肉片等ヲ與ヘ又藥品ニハ「カル、ス泉」(五、〇乃至一〇、〇ヲ溫湯ニ溶カシ朝夕内服)マリエンバード等ヲ用ユ可シ病後一二年ハ果實ノ生ナルモノ、酸味ノ強キモノ香蜜料ノ多ク加ヘタル

胃潰瘍或ハ圓形胃潰瘍

モノ寒熱ノ強キモノヲ飲食スルコトヲ禁ス○吐血後ハ少ナクモ二週間就褥
静養ヲ要ス而シテ止血後ハ氷灘ニ代フルニ温罨法、毡布ヲ胃部ニ貼スベ
シ
出血ノ甚シキモノ或ハ内科的治療効ナクシテ再發多キモノ或ハ癰疽狹窄ヲ
形成スルモノ或ハ穿孔シテ膿瘍ヲ形成スルモノハ外科的手術ヲ施スベシ
單ニ潰瘍ノ療法ニハ次硝酸蒼鉛或ハ抱水クロラールヲ用井テ効有リ

- 次硝酸蒼鉛 一、〇
- 重曹 各〇、五
- 白糖 各〇、五
- 右爲一包與六包每食前十五分一包宛
- 次硝酸蒼鉛 包宛
- 重曹 各〇、五
- アンチピリン 各〇、五
- 白糖 右爲一包與六包每食前一包(胃
瘧アルトキハ「モルヒネ〇、〇一
ヲ加フ)
- 次硝酸蒼鉛 一、〇
- 阿片末 三、〇
- 白糖 三、〇
- 右十包ニ分チ一日三回每一包
- 次硝酸蒼鉛 一、〇
- 萹蓄越 〇、一
- 茴香油糖 三、〇
- 重曹 右研和散十包ニ分チ朝夕每一包
- ヒヨス越 一、〇
- 次硝酸蒼鉛 〇、三
- 白糖 各二、〇

右十包ニ分チ一日三回每一包

- 硝酸銀 〇、〇五
- 留水 一二〇、〇
- グリセリン 三〇、〇
- 右黑色瓶ニ入レ與フ毎日三回一
食匙
- コカイン 〇、一五
- 白糖 二、〇
- 右散五包ニ分チ毎日三乃至四回
一包
- 嘈囉著シキモノニハ
- 蝦製マガ子シア 三、〇
- 重曹 五、〇
- 右研和分六包一日三回食後三十
分一包宛
- 重曹 六、〇
- 蝦製マガ子シア 三、〇
- 萹蓄越幾斯 〇、一二

右分六包一日三回食後三十分ニ
與フ二日量

- 劇痛アルトキハ「モルヒネ」ノ皮下注射
ヲ行ヒ左方ヲ處ス可シ
- 鹽莫 〇、〇一
- 杏仁水 一〇、〇
- 右調和每回五滴乃至十滴
- 磷酸コチン 各〇、一二
- 萹蓄越幾斯 三、〇
- 炭酸蒼鉛 三、〇
- 乳糖 三、〇
- 右分十包一日三回每一包宛
- 過クロール鐵液 一〇、〇
- 右五滴ヲ一杯ノ砂糖湯ニ和シテ
用ユ
- 嘔吐アルトキハ氷片ヲ與ヘ左方
- 鹽酸コカイン 〇、〇一乃至〇、〇五
- 乳糖 〇、五

胃潰瘍或ハ圓形胃潰瘍

右一包トシテ頓用

修酸セリウム

乳糖

右一包トシテ頓用

下痢ノ劇甚ナルトキハ左方ヲ處スベシ

タンニン酸

阿片

白糖

右研和散五包ニ分チ毎二時一包

近時ノ經驗上凡ソ十四日間朝夕抱水ク

ロウールヲ與ヘ日中ニハ「カル、ス泉

鹽ヲ用ユルコト世ニ稱スル所ナリ

抱水クロラール

餾水

アラビアゴム漿

右調和一夜ノ服量(但シ三分シ

テ二時間毎ニ用ユ可シ)

吐血ヲ發シタルトキハ先ツ絶對的安靜

ヲ命シ阿片丁十五滴ヲ與ヘ胃部ニ氷囊

ヲ施シ氷片ヲ喫セシメ後毎三時阿片丁

五滴ヲ與フ

尿毒症

Uræmia. ユレミア

(原因)尿成分ノ排泄障礙ニ由リテ起ル中毒ナリ腎臟諸病及腎盂以下ノ尿道ノ疾患

ニシテ尿排泄ヲ障害スルニヨル、通常尿排泄減少又ハ閉止ノ時ニ發スルモ

(診候)急性症ハ多クハ頭痛、扁頭痛、眩暈、視力朦朧、耳鳴、嗜眠若シクハ不眠症、食

慾不振、惡心、嘔吐等ノ前驅症ヲ以テ始マリ、稀ニハ忽然瀕瀕様發作ヲ以テ

始マル、而シテ多クハ既ニ一日以内ニ人事不省トナリ或ハ間代性痙攣ヲ發
ス痙攣ハ二三分乃至十五分後消失ス、レトモ人事不省、昏睡、ハ尙持續シ時ニ
再ビ醒覺セズ、チエーン、ストーク氏呼吸現象及心臟衰弱ヲ以テ死アリ、或
ハ醒覺後異常ナキカ、或ハ再ビ發作ヲ來タスコトアリ、或ハ慢性ニ移行スル
コトアリ、發作時ニハ散瞳或縮瞳光線反應徐緩汗若シクハ乾燥體溫上昇
(暫時ニシテ常溫ニ復シ又ハ常溫以下ニ下ルコトアリ)時ニ不全發作ニシテ
昏睡ノミ存シ或ハ痙攣ノミ存シ或ハ譫妄及癡狂狀發作或ハ精神發揚後ハ沈
鬱ヲ來タスコトアリ或ハ失語症(半身不隨ヲ伴フコトアリ)ヲ發スルコトア
リ、壓黑内障ヲ發シ、時ニ蛋白尿性網膜炎ヲ發見スルコトアリ又内痔ヲ見ル
コトアリ、殊ニ舌、口莖、咽頭粘膜炎ニ於テ最モ多シ、慢性ニハ消化不良、頭痛、
アンモニア性嘔吐、下痢、嗜眠精神恍惚、耳聾昏睡等喘息症候ヲ發シ、呼吸ニ
尿臭ヲ帶アルコトアリ、時トシテ苦惱ナル皮膚癢痒ヲ發ス

(療法)尿毒症ノ兆即尿量大ニ減少比重甚ダ下リ且頭痛惡心嘔吐無慾不安ニハカフ
イン或ガウレンチンヲ與フ心力弱キハチキタリス葉劑灌腸ヲ伍用ス急性尿毒
症發作ニ食鹽溫液ノ皮下、靜脈内ノ注射或灌腸(五〇〇、〇〇—一〇〇〇、〇〇)
若脈強實ナレバ食鹽注入前刺絡(一五〇、〇〇—二〇〇、〇〇)或吸角ヲ用ユ心衰
弱ニカフエインカンフル油エーテル精皮下注射其他頭部氷罷法皮膚刺劇、
痙攣ニハ抱水クロラール灌腸ヲ行フ〇腎臟炎ノ條ヲ參照スベシ

尿毒症

蕁麻疹 Urticaria. ヲルチカリン

(原因) 蕁麻疹、蚊刺、蚤咬、魚鰓ノ中毒或ハモルヒ子、キニ一子、テレピンテ油等ノ消化器刺戟、寒冷、蜜尿病、黃疸、消化器病、間歇熱、女子生殖器病等ナリ

(診候) 急性皮膚病ニシテ赤色或ハ白色平坦大豆大ノ硬隆起疹ナリ痒痒灼熱ス時ニ熱發或ハ浮腫ヲ起スコト有リ其來去速カナルヲ以テ特徴トス

(療法) 原因療法ヲ第一トシ而シテ曹達浴、明礬、冷水浴及濯水法等ヲ行ヒ時ニ或ハ澱粉ヲ外用スルコトアリ其頑固ナル者ニハ「アトロペン」ヲ内服セシムベシ

硫酸マグネシウム 二〇〇〇
グリセリン 適宜
右丸ト大シ毎二時ニ乃至二丸

苦丁 二〇〇〇
留水 硫酸アトロペン 〇〇〇一

醋酸 五、〇
酒精 二〇〇〇
グリセリン 適宜
トラガカンタ末 各二、〇

右調和洗滌料 右調和丸十五粒ニ作り毎日三粒

鹽規 各一、〇
エルゴチン 〇、〇二
薄荷腦 二、〇
再調酒精 〇、〇〇

岩茂越 〇、〇二

右塗布料
アランデー酒 一〇〇、〇
右痒痒部ニ塗布ス
撒曹 五、〇
米粉 二〇、〇

水痘 Varicella. ヲリツヘルラ

(原因) 未詳、專ラ小兒ニ發スル流行病ナリ本病ハ空氣、介達者又ハ物品、又ハ直達接觸ニヨリ蔓延シ一回患フルトキハ多クハ免疫性ヲ獲取ス

(診候) 潜伏期(十四日)ノ後輕熱ヲ發シテ全身ノ處々(初メ顔面漸次軀幹四肢ニ)ニハ紅斑ヲ生ズ該紅斑ハ速ニ水泡ニ變ズ大サ大小豆粒ノ如ク内ニ水様透明ノ液ヲ容ル而シテ三日後ヨリ結痂シ一二週ニシテ治ス大陰唇及大腿内面ニ紅斑ヲ生スルコトアリ、大小陰唇ハ脂肪ヲ以テ被ムルコトアリ

(療法) 藥劑ヲ要セズ消化シ易キ食物ヲ與ヘ二三日間就寢セシムベシ口腔ノ清拭含嗽等ハ缺クベカラズ

陰門腫痛 Vaginitis. ヲキニヌムス

(原因) 陰門狹隘ニ關スル交接的或ハ手淫ノ刺戟過度、外科的疾患等ニシテ妙齡ノ

痔瘡 水痘 陰腫痛

女子ニ多シ

(診候) 陰門ノ知覺過敏瘰癧狹窄等ナリ

(療法) 原因解剖的變常ニ在ルカ或ハ病的變常ナルカナ明ニシテ各局部ノ病狀ニ應

ジ或ハ擴張法ヲ行ヒ或ハ炎症潰瘍等ノ療法ヲ施シ又微溫坐浴ヲ用井或ハ鐵

劑、ブロームカリウム等ヲ内服セシム可シ

鹽酸ニコカイン

一、〇

時ニ或ハ弱硝酸銀溶液五十倍ノモノヲ

餾水

二〇、〇

塗布シ或ハ「ヨードフォルム」ヲ吹入シ

テ良効ヲ奏スルコトアリ

痘瘡

Variola.

ヴァリョラ

(原因) 天然痘毒ノ感染ニシテ觸接性流行性ナリ又空氣、介立人體又ハ物體ハ本病

傳染ヲ旺盛ナラシム、罹患後ハ免疫性ヲ獲得シ得ベシ

(診候) 潜伏期(十日乃至十四日)ノ後序期(三日)ニ移リ寒戰、體溫昇騰(四十度乃至

其以上ニ達シ稽留ス)頭痛、嘔吐、薦骨痛、譫語、痲痺(小兒ニ於テ)第二日ニ

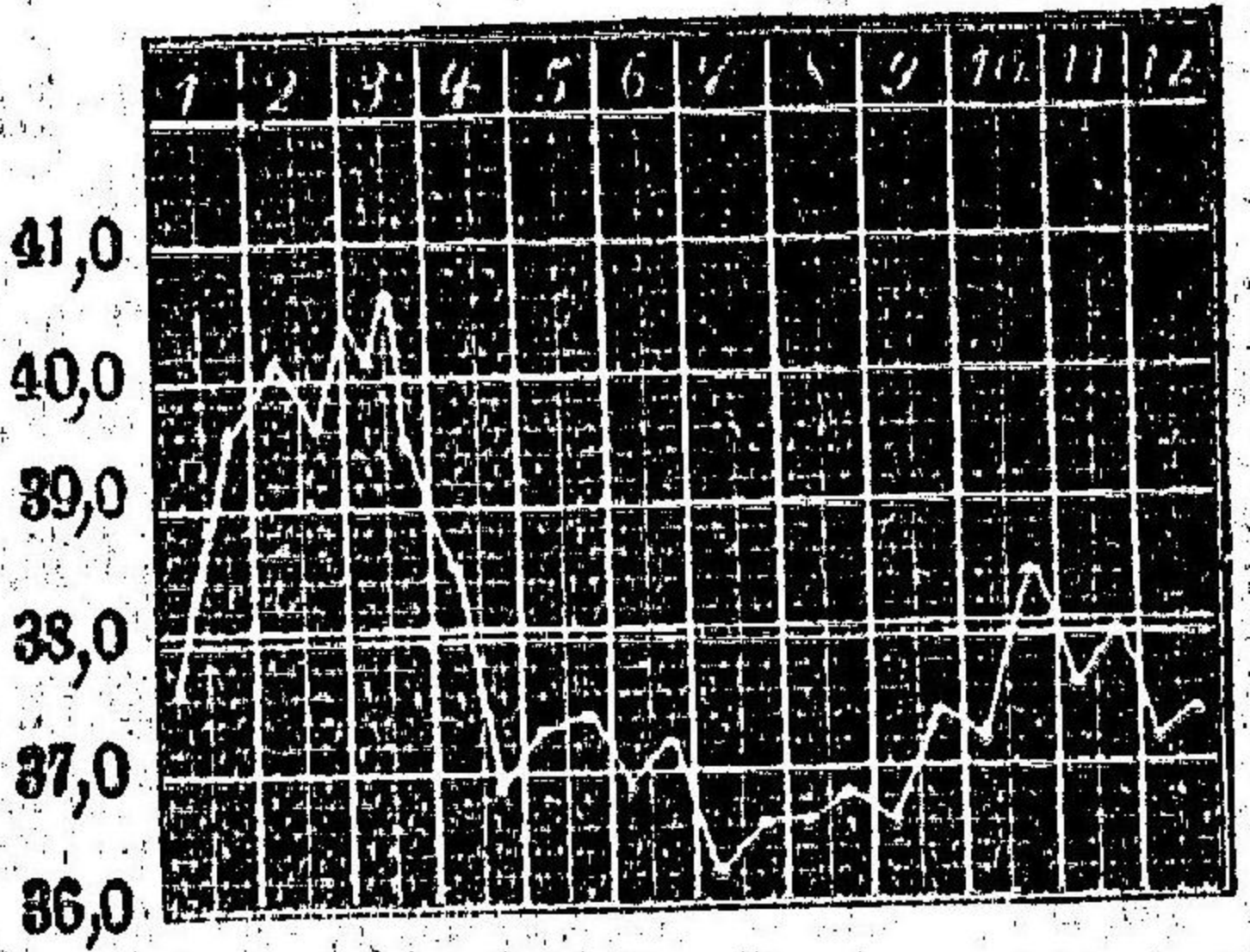
於テ前驅發疹即チ紅斑性或ハ出血斑性疹ヲ下腹及大腿ノ内面ニ多發ス第三

日ノ終リ若クハ第四日ノ始メニ於テ發疹期ニ終リ全身症狀輕快ス其後ノ經

過ニ從ヒ二種ニ分ツ

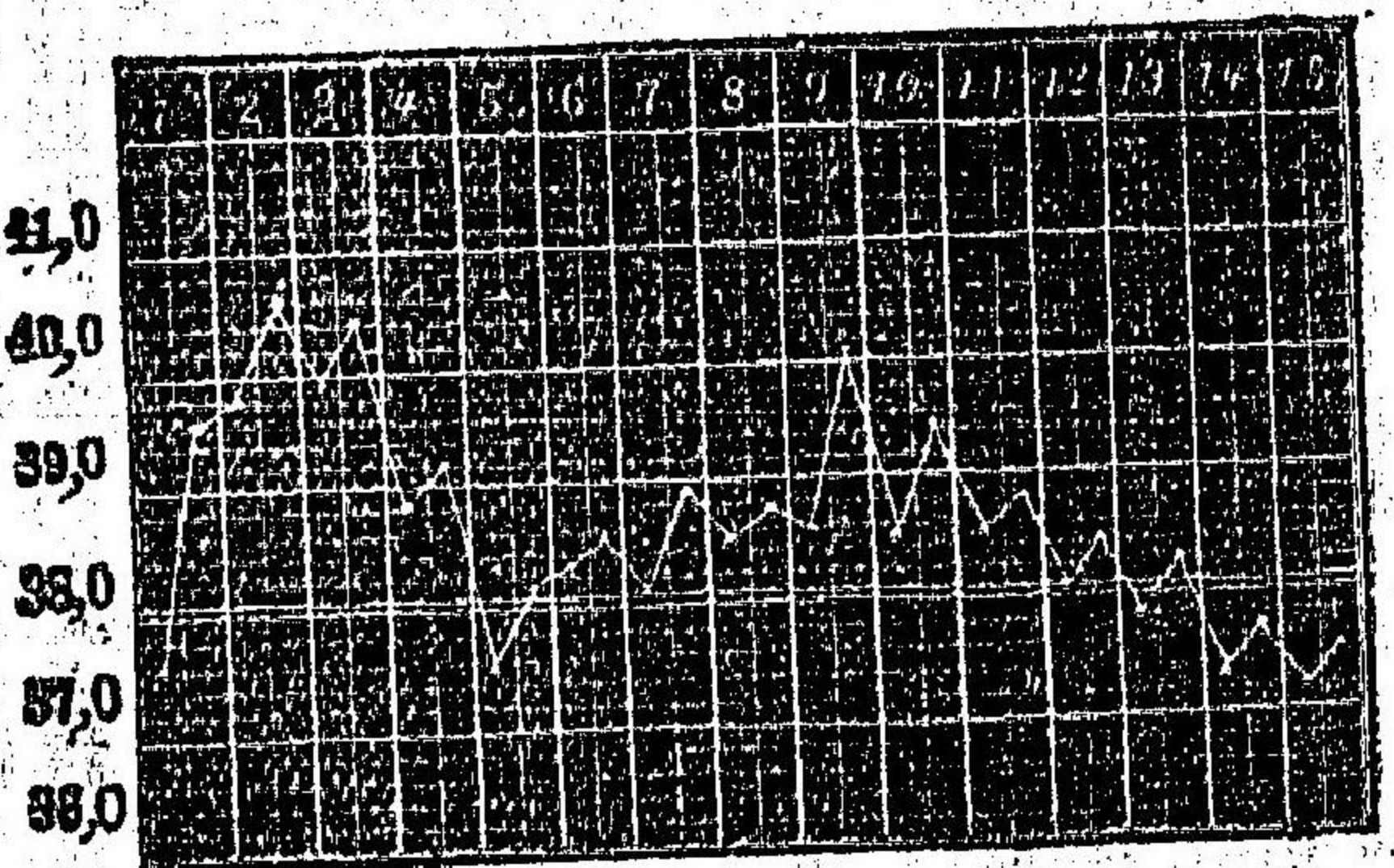
(甲) 眞痘 Variola vera 即チ重症ニ在リテハ發疹期ニ於テ先ヅ頭部及顔面ニ

圖 四 十 五 第



假痘

圖 五 十 五 第



眞痘

痘瘡

六〇三

小斑ヲ發シ二日以内ニ丘疹ニ變シ丘疹ノ中央ニ水疱ヲ發生シ次テ膿疱ニ變シ第九日ニ於テ眞痘膿疱ヲ完成シ其頂點ニ臍窩ヲ有シ紅暈ヲ繞ラス(化膿期)此時期ニ於テ體溫再ビ上昇シ顔面腫脹甚ダシク頭部及手指ニ發疹疼痛ヲ生ス口及ビ咽頭等ニモ亦發疹シ嘶嘎、嚔下困難、其他結膜炎虹彩炎等ヲ發スルコトアリ第十二日若クハ第十三日ニ至リ體溫下降シ膿疱乾燥結痂ス(乾燥期)而シテ劇甚ナル癢痒ヲ伴ヒ一週或ハ二週ノ後痘痕ヲ留メ或ハ暗褐色ノ斑ヲ留メテ治ス(斑ハ數月ノ後消失ス)○眞痘ノ經過中化膿期ニ於テハ死ヲ來タスコト尠ナカラズ○全經過四乃至六週

(2)假痘 Varioloid 即チ輕症ニ在テハ發疹僅少ニシテ膿疱ヲ形成スルモノ少ナシ全經過二週

(除後)多數ノ膿疱ヲ形成シ其融合スルモノ出血シテ黑色痘瘡ヲ作ルモノハ豫後共ニ不良ナリ假痘ハ良

(療法)純粹ノ待期療法ニシテ攝生ヲ嚴ニシ通氣ヲ善良ニシ發熱ニハ冷水電法或ハ氷鹽法ヲ行ヒ便通ヲ利シ而シテ合併症ニハ時期ヲ過サズ適應ノ療法ヲ加フベシ○皮膚ノ緊張著シキトキハ油類ノ塗擦若クハ塗布ヲ用井或ハ五十倍ノグリセリン溶液ニ浸シタル麻布ヲ用井全身ヲ被包シ解熱後ニハ微溫全身浴ヲ行フ可シ豫防法ニハ隔離法ヲ嚴ニシ消毒法ヲ行ヒ種痘ヲ施ス等其一般ナリトス

枸櫞汁 各一五、〇
覆盆子會 各一五、〇
右調和飲料ニ加ヘ用ユ

面部ニハ殊ニ其像後ヲ善良ニシテ癩痕ヲ貽サマラシメンガ爲ニ左ノ石炭酸澱粉軟膏ヲ塗布或ハ塗擦スルヲ宜シトス

石炭酸 五〇
オレーフ油 各四〇、〇
澱粉 各四〇、〇
右調和軟膏ニ作ル

石炭酸 四〇、〇
オレーフ油 四〇、〇
白堊 六〇、〇
右パスタレトナシ麻布ニ攤シ貼用毎日一回交換スベシ

疣贅 Verruca. ウエムカ

(療法)皮膚ノ表面上ニ隆起スル部分ヲ剪去シテ後腐蝕ス其他

石炭酸 五、〇
グリセリン 各五〇、〇
繅水 各五〇、〇
右調和毎日二回海綿ニ浸シ全身ヲ拭フベシ

サリチール酸 三、〇
澱粉 三〇、〇
グリセリン 七〇、〇
右調和軟泥ニ作り軀幹及四肢ニ外用ス面部及頸部ニハ「グリセリン」ニ代フルニ扁桃油ヲ以テシ而シテ假面ヲ用井軟泥ヲ固定スベシ

痘瘡 洗液 六〇五

發煙硝酸

五、〇

右腐蝕用

又單ニ左方ヲ反覆シテ其腐蝕ヲ試ムルモ可ナリ

サリチール酸

各一、〇

酒精

二、五

エーテル

五、〇

コロザウム

五、〇

石炭酸

五、〇

眩暈

Vertigo. ヲハルナリ

(原因)原因療法(神經中樞或ハ腹内臓ノ療法)等ヲ主トナス可シ
神經性眩暈ニハ左方ヲ用井テ効アリ

斷草丁

ハルレル氏酸越歷矢兒

右調和毎二時十滴乃至二十滴

水ニ加ヘ用ユ

右外用

亞砒酸

水銀軟膏

軟膏ヲ除去ス可シ

剝脫スルニ至レバ後用ヲ止メテ

周邊ノ健全部ヲ保護スルガ爲メニハ綿

花或ハゴツタベルカ、クロ、フオアルム

等ヲ用井テ其部ヲ被包ス可シ

二、〇

五、〇

臭刺

龍膽丁

溜水

右一日六回二分服

腹内臓性ノモノニハ左方ヲ用ユ

六、〇

二、〇

二〇〇、〇

癒瘡木脂
昇華硫黃
純精酒石
枸橼油糖

五、〇

二〇、〇

二〇、〇

一〇、〇

右研和散三分子朝夕每一茶匙

耳病性眩暈(所謂メニール氏耳迷路疾患)ニハ「キニ」子ト一日量〇、六乃至〇、八ノ連用(八日乃至十二日間)次テ八日乃至十二日間中止シ再ビ前方ヲ反用シテ効有リ(シヤルコー氏)

心臟瓣膜病

Valvum cordis.

ヲサツム、コルチス

(原因)心臟内臓病ノ原因トナル可キ者(殊ニ雙麻質斯)心筋炎、血管硬化、墜落、劇動等ニシテ心臟患者百人ニ就キ八十九ハ左心ノミテ十ハ左右兩心ニ跨リ一ハ右心ノミテ侵ス又々左心疾患ノ六十六%ハ僧帽瓣ヲ三十四%ハ大動脈瓣ヲ侵スノ比例ナリ

(診候)僧帽瓣不全閉鎖ニ在リテハ(瓣膜病中最モ多キ疾病ナリ)心尖ニ於ケル收縮時雜音肺動脈第二音ノ強盛第二心室音強盛、大動脈音微弱、脈搏細小、心臟濁音部其横徑ヲ増加シテ右方ニ進ミ右胸骨緣及其以上ニ到ル心尖衝突ノ増劇○僧帽瓣口狹窄ニ在リテハ開張時雜音第二肺動脈音強盛、第一大動脈音弱、心濁音部擴張、心尖衝突稍強劇、脈小○僧帽瓣不全閉鎖兼狹窄ニ在リテハ左心室ニ於ケル收縮時及ビ開張時ノ雜音肺動脈第二音強盛、大動脈第二音微弱、心尖衝突不全症ニ於ケルガ如シ心濁音部ハ不全症ニ於ケルヨリモ

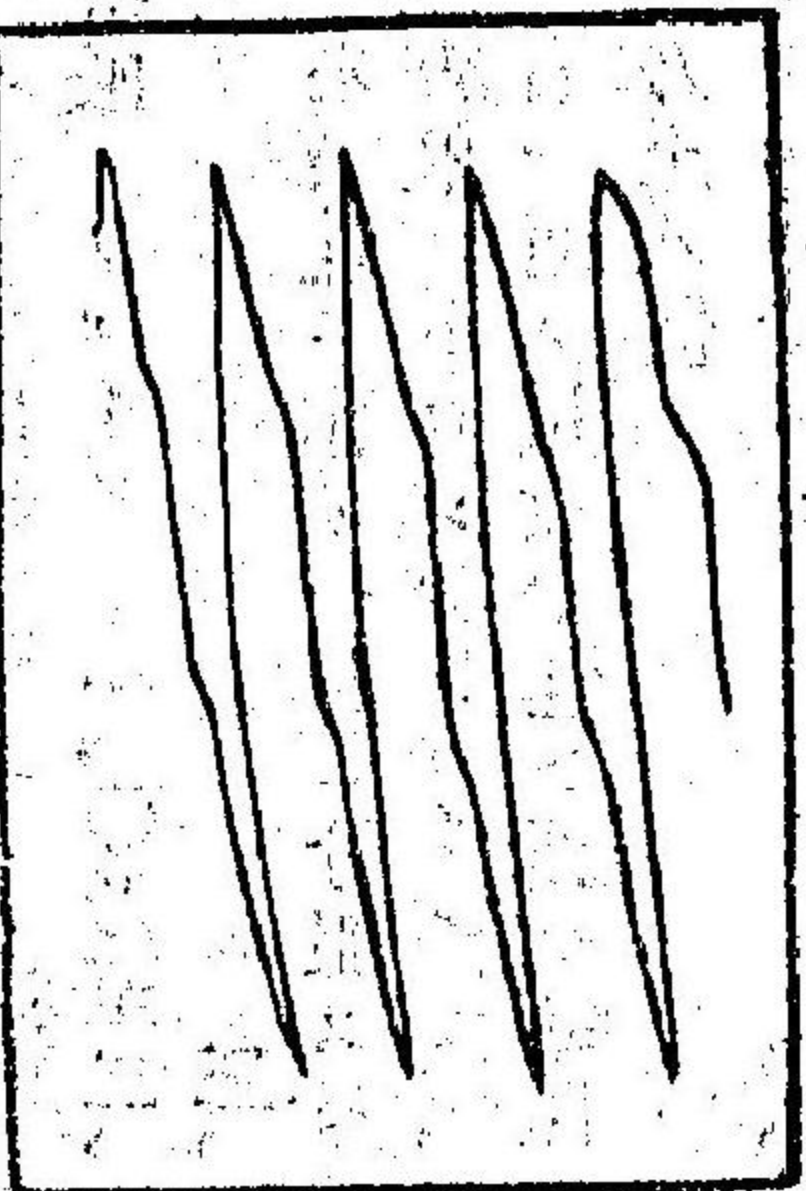
疣贅 眩暈 心臟瓣膜病

尙ホ擴張シ脈小ナリ○大動脈ノ不全閉鎖ニ在リテハ心尖衝突外下方ニ轉シ
 左室及ビ大動脈ニ於ケル開張時雜音心濁音部長徑ヲ增加シ脈搏強且速・撓
 骨動脈等ニ於テ明カニ音ヲ聽知ス○大動脈口狹窄ニ在リテハ左室及大動脈
 ニ於ケル收縮時ノ雜音、大動脈第二音微弱、心尖衝突外方ニ轉シテ弱ク濁音
 部縱橫徑共ニ稍々擴張ス脈極メテ小且遲○大動脈口不全閉鎖兼狹窄ニ在リ
 テハ左室及ビ大動脈ニ於ケル收縮開張時ノ雜音濁音部縱橫ニ擴張ス○三尖
 瓣閉鎖不全ハ收縮時雜音頸靜脈搏動○同上狹窄ハ右室内開張時雜音頸靜脈
 怒張○肺動脈不全閉鎖ハ第二左肋間部ニ開張時雜音濁音部右方ニ增大頸靜
 脈怒張○肺動脈口狹窄ハ第二左肋間收縮時雜音貓媚音觸知濁音右方ニ增加
 ス心動強盛ナルモ心尖衝突反テ不明ナリ○代償機ヲ失スレバ呼吸困難、咳
 嗽、咯痰、喘息發作、心悸亢進、優麻質斯性疼痛、皮膚蒼白、水腫、尿量減少、腸
 胃ノ障害、栓塞ノ症狀等ヲ發シ脈疾速不正トナル

(豫後) 不長、體格強弱、年齡、攝生ノ如何ニ因テ異ナレリ

(療法) 其治則對症的ニシテ過度ノ勞働ヲ慎ミ凡テ精神ノ興奮ヲ禁シ熱浴ハ決シテ
 之ヲ取ラシメズ唯々稀ニ溫浴ヲ許シ或ハ便通ヲ調整スル等其一般ナリト
 ス而シテ代償機ノ攝生ニハ喜怒哀樂ノ感動及ビ身體ノ勞働ヲ避ケ食物ニハ
 肉、牛乳、鷄卵ノ類ヲ與ヘ麥酒及ビ薄荷葡萄酒ハ其少量ヲ許スコト有ルベキモ
 香竈物、濃厚咖啡、茶、煙草ハ斷シテ之レヲ禁シ且ツ冬期ハ南方夏期ハ綠陰

圖六十五第



大動脈瓣閉鎖不全

既ニシテ代償機ニ障害ヲ起シ即チ心
 悸亢盛亂脈等ノ症狀ヲ呈ハス者ニハ
 心部ニ冷電法ヲ行ヒ緩利尿劑、サギ
 タリス、ノ類ヲ内服セシメザル可ラ
 ス而シテ「サギタリス」ハ脈ノ遲除調
 整強質ヲ呈スルヤ直チニ其後服ヲ止
 ムベシ

深處ニ轉地療養セシメ又貧血家ニハ鐵劑、多血家ニハ牛乳及葡萄酒療法ヲ
 用井常ニ便通ニ注意スベシ

- サギ葉浸 (一、〇)一八〇、〇
- 覆盆子會 二〇、〇
- 右每二時一食匙
- サギ葉 (二、〇乃至三、〇)一八〇、〇
- 單會 一五、〇
- 右調和每二時一食匙
- サギ葉浸 (一、〇)一五〇、〇

- 硫酸アトロピン水 (〇、三%)一、〇
- 單會 一五、〇
- 右調和每二時一食匙
- サギ葉浸 (一、〇)一五〇、〇
- 鹽莫 〇、〇五
- 杜松實會 一五、〇
- 右調和每二時一食匙
- サキ丁 十滴

心臟瓣膜病

杏仁水

右調和一日三回每十滴
喘息ノ狀況ヲ呈シ或ハ心悸亢進ヲ起シ
テ脈搏ノ唯強實ナル者ニハ「ヂギタリ
ス」ヲ應用スベシ然レドモ久シク連用
スベカラズ或ハ之レニ代フルニ左ノ丁
幾ヲ以スルコトアリ

- ストロファンツス丁 二〇、〇
- 右一日三回每五乃至十二滴
- 枸橼酸カフエイン 一、〇乃至二、〇
- 白糖 三、〇
- 右五包ニ作り一日ニ分服スベシ
- 安息香酸ナトロンカフエイン 〇、二
- 右一回ノ量散十包ヲ製シ毎日四
乃至八包
- 硫酸スバルテイン 〇、三
- 留水 三〇〇、〇
- 單舎 三〇、〇

右調和一日三四回每一食匙
脈搏微弱心悸亢進ヲ呈ス
ルトキハ左方ヲ用ユ

- 硫規 一、〇
- 白糖 三、〇
- 右研和散十包ニ分チ朝夕每一包
- ベスツセルフ氏神經鐵丁 五、〇
- 複方キナ丁 一五、〇
- 右調和一日三回十五滴
- ヂギ葉浸 (〇、七)一五〇、〇
- 硝酸エーテル 二、〇
- 海葱醋密 二〇、〇
- 右調和每三時一食匙
- 脈搏不整歇代スルモノニハ左方ヲ處ス
可シ
- 硝酸グリセリン、アルコホル溶液 (〇、三%者)一、〇
- アルコホル 五、〇

心臟瓣膜病

右調和一日三回每五乃至六滴
氣管支加答兒ヲ併發シタルトキハ左方
ヲ處ス可シ

- 硫規 〇、五
- 金硫黃 各〇、二
- 安息香酸 二、〇
- 白糖 二、〇
- 右研和散五包ニ分チ朝夕每一包
- 硫規 一、〇
- 鹽黃 〇、〇五
- 白糖 二、〇
- 右研和散十包ニ分チ每二時一包
- 心臟病ノ爲メニ喘息發作ヲ起ス者ニハ
左方ヲ用非テ効驗大ナリ
- ロベリア丁 一〇、〇
- 右每時十乃至十五滴
- 杏仁水 一〇、〇
- ヂギ丁 一〇、〇

ロベリア丁 各五、〇
右調和每時四乃至五滴
肺水腫ノ症候ヲ發シ來レルトキニハ左
方ヲ處スルコトヲ猶豫スル勿レ

- アルニカ花浸 (一〇、〇)一五〇、〇
- 單舎 一五、〇
- 右每時一食匙
- 安息香酸 二、〇
- 樟腦 〇、六
- 白糖 三、〇
- 右研和散十二包ニ分チ每三時一
包
- 浮腫及ビ蛋白尿ヲ起セルトキハ「セル
テルス」水等ヲ與ハ兼チ左方ヲ處スベ
シ
- ヂウレチン 五、〇
- 留水 一〇〇、〇
- 單舎 二〇、〇

右毎時一食匙

酒石英

四〇、〇

醋剝

一〇、〇

醋水

一五〇、〇

右一日三回二日分服

心臟筋質ノ變性ニハ「エーテル」ノ皮下

注射ヲ行ヒ或ハ左方ヲ處スルヲ宜シト

ス

斷草根浸

(一〇、〇)二〇、〇

エーテル

二〇

橙皮舍

二〇、〇

右調和毎時一食匙

神經性心悸亢進ニハ左方ヲ用井テ効有

リ

次硝酸ナトリウム

〇、五

醋水

一五〇、〇

右調和毎日三乃至四食匙

其他本症ニ對スル治則ニハ尙水腫ノ條

下ニ掲グル所ヲ參考スベシ

創傷

Vulnus Wunde.

ウルヌス、レンヂ

(診候)疼痛、出血、創口哆開等

(療法)概スルニ創面ノ防腐療法ニ必要ナル治療品ハ左ノ如シ

第一 一%リゾール水二%硼酸水二、五石炭酸溶液、昇汞溶液(千倍ノ

者

第二 結紮糸ニハ熱湯、石炭酸、昇汞ヲ以テ消毒シタル絹糸等ヲ用ユト

雖ドモ「ヨードフォルム」絹糸殊ニ賞用スベシ即チ絹糸ヲ煮沸シテ之

レヲ五%ノ「ヨードフォルム」エーテル内ニ二十四時間放置シ後之レ

ヲ「アルコホル」内ニ貯フ

第三 排膿管
右石炭酸若クハ昇汞水ニ由テ、或ハ煮沸シテ消毒シタル「ゴム管若ク

ハ硝子管

第四 イトロール(即チ枸橼酸銀)「ヨードフォルム」末(「ヨードフォルム

末」四日間五%石炭酸液内ニ放置シ後一%石炭酸液ヲ以テ粥狀トナ

シタルモノヲ賞用ス)「銀綿紗」「ヨードフォルム」紗綿

右創面撒布及ビ貼用

第五 醋酸礬土水綿紗、棉花

第六 卷軸帶、三角巾

創傷療法ニ「ヨードフォルム」ヲ應用スルハ實ニ有効ナル要件ニシテ世ニ之ヲ
ヨードフォルム綿帶料ト總稱シ先ヅ之ヲ粉末トシテ或ハ粉末ノ儘直ニ撒
布スルコト有リ或ハ之ヲ桿ニ作リテ創腔内ニ送入スルコトアリ或ハ之ヲ「エー
テル」ニ和シテ注入スルコトアリ或ハ之ヲ乳劑軟膏等ニ作リテ應用スルコトア
リ其用法一ニシテ足ラス但シ本品ノ臭氣ヲ防グカ爲メニハ「トシカ豆」クマリ
ン、ベルガモット油、薄荷等ヲ混和ス可シ又「ヨードフォルム」一〇、〇中ニ石炭酸
〇、〇五ヲ加フルモ消臭ノ効有リ

輓近クレテ氏ノ研究ニ由テ極メテ有効ナルコトヲ證セラレタル創傷ノ銀療法ハ大ニ賞用スベキモノナリ○銀鹽ニテ生ズル衣服ノ汚點ヲ去ルノ法ハ其ノ衣服ヲ左ノ液中ニ浸スコト二三分ニシテ後數回水ニテ清洗ス(昇汞一、〇食鹽二五、〇水二〇〇、〇)

- 一%リゾール水 五〇〇、〇
- 右外用
- 二%硼酸水 二〇〇、〇
- 右外用
- 石炭酸 各五、〇
- 濃厚酒精 二〇〇、〇
- 右調和外用
- 昇汞 五〇〇、〇
- 右調和外用
- 昇汞 〇、五
- 右調和外用
- クロールナトリウム 各〇、五
- 五〇〇、〇

- 右調和外用
- 昇汞 〇、五
- 酒石酸 二、五
- 五〇〇、〇
- 右調和外用(所謂酸性昇汞溶液)
- (ラブラー氏)
- クレナリン 四、〇
- 二〇〇、〇
- 右調和外用
- 鉛水 三〇〇、〇
- 右調和外用
- 粗製明礬 一〇、〇
- 鉛糖 二〇、〇
- 二〇〇、〇
- 鉛水 二〇〇、〇

- 右調和濾過外用(醋酸礬土強溶液)
- 粗製明礬 一〇、〇
- 鉛糖 二〇、〇
- 四〇〇、〇
- 右調和濾過外用(醋酸礬土弱溶液)
- 石炭酸 五、〇
- 五〇、〇
- オレーフ油 五〇、〇
- 右調和綿帶用
- サリチール酸 二、〇
- 三〇、〇
- 緩和軟膏
- 右調和軟膏ニ作ル
- サリチール酸 五、〇
- 縮水(少量ノ酒精ヲ加入シタルモノ)
- 二〇〇、〇
- 右調和綿帶用
- イトロール 五、〇

- 右撒布料
- ヨードフォルム(トンカ豆末ヲ加ヘテ消臭シタルモノ)
- 五〇、〇
- 右撒布料
- ヨードフォルム 五〇、〇
- ベルガモット油 五滴
- 右研和撒布
- ヨードフォルム 一〇、〇
- 一〇、〇
- オレーフ油 一〇、〇
- 扁桃油 適宜
- 右調和桿ニ作ル(即チ「ヨードフォルム桿」)
- 一、〇
- ヨードフォルム 適宜
- 白糖
- 右調和同上
- ヨードフォルム 五、〇
- 四〇、〇
- グリセリン 一〇、〇
- 縮水 一〇、〇

トラカカンタゴム 〇、三
 右調和乳劑ニ作り糺帶用
 ヨードフォルム 一、〇
 ワゼリン 一五、〇
 右調和軟膏ニ作ル
 ヨードフォルム 一〇、〇
 グリセリン 八〇、〇
 オレーフ油 四〇、〇
 右調和注入料
 ヨードフォルム 五、〇
 エーテル 二五、〇
 右調和創傷部實質内注入料
 酸化亞鉛 五、〇
 ワゼリン 五〇、〇
 右調和軟膏ニ作ル 一、〇
 硝酸銀

ペルーパーサム 五、〇
 單軟膏 一〇〇、〇
 右爲軟膏外用
 硝酸銀 〇、三
 ヘルーパーサム 三、〇
 ワゼリン 三〇、〇
 右爲軟膏外用
 硝酸銀 〇、一
 豚脂 五〇、〇
 右調和軟膏ニ作ル
 硼酸末
 パラフィン 各三、〇
 白蠟 三〇、〇
 扁桃油 三〇、〇
 右調和軟膏ニ作ル (所謂硼酸軟膏)
 〇、〇

陰門炎 Vulvitis.

ウルワイチス

(原因) 陰部ノ不潔、腫痛、尿道癢、直腸癢、外傷手淫、房事過度、淋毒、腺病、蜜尿崩尿
 ナリ、小兒ニ在リテハ淋疾蟻蝨ニ基クコト多シ

(診候) 陰唇ノ發疹、粘膜ノ腫起潮紅癢痒痛、バルトリン氏腺ノ腫大或ハ膿潰及ビ粘
 液膿汁排泄ナリ

(療法) 良

(療法) 原因療法ヲ主トスベシ局處療法トシテ溫湯又ハ弱消毒液ニテ洗滌シテ治ス
 ルコトアリ、然レモ其症尙ホ烈シキ時ハ鉛糖又ハプロー氏液用法ヲ施シ安
 靜ニスベシ、然レドモ慢性ニ陥リ一局部殊ニ大陰唇間ニ限局スルトキ等ニ
 ハ稍々強キ消毒藥百倍リゾール水五十倍ノ石炭酸溶液ハ百倍ノ「クレオリ
 ン」溶液ニ千倍ノ鼻香水等ヲ用ユ可シ而シテ洗滌後アルマトール又ハ亞鉛化澱
 粉ヲ撒布シ棉花ヲ以テ被フトキハ漸次治癒ス、紅班ニ對シテハ注意シテ乾
 燥シ表皮ニ「ワゼリン」ヲ塗布ス又電法ニハ醋酸礬土水或ハ鉛水ヲ用ユベシ
 又左方ヲ處シテ効アリ

硫酸亞鉛 四、〇
 糖水 二〇〇、〇
 右調和洗滌用
 ヨードフォルム 一、〇
 重曹
 米粉 各一〇、〇
 右研和撒布用
 臭剝 一、〇
 荳蔻 〇、〇〇三
 右爲一包與六包一日三四二分

陰門炎 乾燥眼

服

プロー氏液

右罹法科

三〇〇、〇

鉛水

右罹法科

三〇〇、〇

乾燥眼

Xerophthalmie.

キセロフタルミー

(瘡眼)

(原因) 二種ニ區別ス甲ハ局所ノ疾病ニ屬シ結膜ノ癩痕變性、又眼瞼ノ外翻及兔眼ニ見ルモノナリ乙ハ全身病ノ一分症トシテ起リ時トシテ流行性ニ來リ營養不給大ニ其媒介ヲナシ殊ニ六七月頃慢性氣管支加答兒慢性腸加答兒ヲ患フル小兒ニ多シ其他強キ反輝光線ニ暴露セル者亦タ本症ニ侵サル、コトアリ本症ノ結膜上皮細胞ニ乾燥菌ヲ發見シ之ヲ原因ニ擧グルモノアリ然レモ本菌ハ屢々健康結膜ニモ存在スルモノナリ

(診候) 本症ハ結膜組織ノ變化ニ由リテ其表面乾燥シ涙液ニ由リテ濕潤セラレズ白色且ツ一種光澤ヲ發スル細胞沫ノ附着セル如キ小斑點ヲ呈ス(ビトー氏斑)刺戟症狀ハ極テ少ク自覺的夜盲ヲ伴フ病機増進シテ角膜ヲ侵セバ其表面ニ曇暗ヲ來シ光澤ヲ失シ一見乾燥ノ狀ヲ呈シ同時ニ實質モ亦タ不透明トナル如此モノヲ角膜乾燥症ト云フ而シテ營養不給ニ由來スルモノハ專ラ上皮細胞ノ脂肪變質ニ陷ルモノニシテ一ニ上皮性乾燥症トモ稱ス局所ノ原因ニヨルモノハ又之レヲ實質性乾燥症ト稱ス

(豫後) 結膜ノ癩痕變性ヨリ來ルモノハ不良、眼瞼ノ外翻症及閉鎖不全ヨリ來ルモノハ其ノ手術的救治シ得ル時ハ良、全身病ヨリ來ルモノニシテ營養ノ速ニ復舊シ得ルモノハ良、重症ニシテ角膜軟化ニ陷レル者若クハ著キ衰弱ヲ呈セル小兒ニ在テハ屢々危篤ノ全身症狀ヲ以テ斃ル、コトアリ

(療法) 局所ニハ手術的救治シウルモノハ速ニ之レヲ施スベシ其他牛乳グリセリン扁桃油重曹水ヲ點眼シ又ハ繃帶ヲ施シテ乾燥ヲ防ギ營養不良ヨリ來ルモノハ局所ノ溫濕法牛乳煉乳ヲ與ヘ專ラ營養ニ注意スベシ

- 肝油 一、〇
- 右膠囊一個ニ盛り一日十五個
- 肝油 五〇〇、〇
- 石灰水 二〇、〇
- 桂皮油 一五滴
- 右混和一日三回一茶匙乃至一食匙
- 石炭水 三滴
- 桂皮油 三滴
- 右混和乳劑トシ一日三分服
- 漸次增量シ大人ハ 六〇、〇
- 小兒ハ 二〇、〇ニ至ル

病原診候豫後治則及處方畢

臨牀醫典附錄

○第一章急性中毒診候及療法

○通則

中毒療法ニ三アリ

- (一) 毒物排除法
- (二) 解毒法
- (三) 對症療法

毒物排除ノ方法ハ殆ンド同一ナルヲ以テ左ニ其通則ヲ記スベシ解毒及對症ノ二法ハ各中毒ノ條下ヲ看ルベシ
毒物胃中ニ在ルトキハ胃唧筒或ハ消息子ヲ以テ洗フベシ、然レドモ兩者ハ共ニ欠點アルヲ以テ却リテ單ニ彈力アル「ゴム管」(長サ二迷半即チ凡ソ八尺二寸五分管腔八乃至十ミリメートル管ノ厚サ二半乃至三ミリメートル)ヲ用ユルチ長トス該管胃ニ達スレバ該管ニ洗滌液ヲ入レ吸液器サイホン)トシテ作用セシムベシ(洗滌ノ際解毒劑ノ稀薄液ヲ用ユルコトヲ得)胃唧筒ニ對スル禁忌ハ酸、アルカリ昇汞等ニ由リテ著明ナル食道腐蝕ヲ生ジタル症ナリ、牙關緊急アルトキハ細キ消息子

ヲ鼻孔ヨリ送入スベシ
胃唧筒、消息子、ゴム管ナキ場合ニハ口蓋ヲ刺戟シテ嘔吐ヲ發セシメ或ハ吐劑ヲ用ユ

上等芥子末 八、〇乃至一〇、〇

右水ニ捏リ一盞ノ水ニテ用ユ

硫酸銅 一、〇 留水 五〇、〇

右調和吐劑トシテ先ツ其半量ヲ頓服セシメ若シ奏効ナキトキハ五分時ヲ經テ後其殘半量ヲ與ヘ而後各症適應ノ方法ヲ施スベシ

吐根末 一、〇

右爲一包興三包奏効アレバ服用ヲ止ム

鹽酸ピロカルピン 一、〇 留水 一〇、〇

右黒色燻ニ貯フ皮下注射料半筒乃至一筒小兒ニハ四分ノ一筒以內
毒物腸ニ在ルトキハ下劑ヲ與フベシ又タ瀉腸ヲ用ユ

苦水 カル、ス泉鹽

蓖麻子油

蓖麻子油ハ燻中毒ニ用ユルヲ禁ズ

毒物肺ヨリ吸收セラレタルハ新鮮ナル空氣ヲ呼吸セシムベシ

○アルコホル中毒

(診候)眩暈、耳鳴、頭痛、精神昏憊、麻痺、痙攣、嘔氣、嘔吐、大便失禁、精液漏出、心動

始躍終衰兼不整、派抑歇代、呼吸帶酒臭等ナリトス

(療法)急性アルコホル中毒ノ高度ナラザル者ハ其衣服ヲ解キ新鮮ノ空氣中ニ頭ヲ

高ク眠レル儘ニナシ置クベシ、黒珈琲煎ニ枸橼汁ヲ加ヘ與フルトキハ往々

醒覺ヲ促進スル効有アルモノナリ酒客嗜妄症ヲ參照スベシ

アンモニア水 二十滴 留水 一二〇、〇

右毎半時二乃至三食匙ヲ與フ

虚脱傾向ノ虞アルトキハ左方ヲ處ス

樟腦 〇、五 酒精 留水 各五、〇

右皮下注射料

○クロ、フォルム中毒

(診候)チアノーゼヲ呈シ冷汗、呼吸絶止、瞳孔散大シ、窒息ニヨリテ死ス或ハハク

ロ、フォルムヲ吸入スルト僅ニ數回ニシテ俄然顔面蒼白心臟機能減弱

脈搏消失シ呼吸ハ一二分間持續シ心臟麻痺ニヨリテ死ス

(療法)人工呼吸法ヲ施シ或ハ兼ヌルニ感傳電氣ヲ以テスベシ即チ頸ノ兩側ニ於テ

前頸筋ノ下端胸鎖乳頭筋ノ外端ニ當テ導子ヲ貼シ凡ソ二秒時間ノ刺戟ト二

秒時間ノ休止ト交代シテ行フベシ

心臟機能ノ絶止シアル時ハ人工呼吸ノ際強ク心臟部ヲ壓迫スベシ

○モルヒネ中毒 阿片中毒

(診候) 急性中毒ニ於テハ頭痛眩暈、呼吸遲徐不正、嗜眠、昏睡、脈搏細徐、瞳孔縮少、皮膚蒼白

(療法) 濃厚ナル茶或ハ咖啡ノ多量ヲ用ユ

醋咖啡末浸

(五〇、〇) 二〇〇、〇 鞣酸 四、〇 單舎 五〇、〇

右調和毎五分時一食匙

其他アトロピン(〇、〇〇〇)ノ皮下注射、カンフル油ノ注射、人工呼吸法

○ストリキニーネ中毒

(診候) 牙關緊急、角弓反張、筋強直、反射機亢進、脈搏増進、呼吸困難窒息

(療法) 鞣酸

三、〇 餾水 一四〇、〇 アルテア舎 六〇、〇

右調和毎五分一食匙

抱水クロラール 四、〇 餾水 一〇〇、〇

右調和毎一食匙

其他モルヒネ或ハコクロ、フォルム吸入

○ニコチン中毒 烟草中毒

(診候) 急性ニハ脈細徐、失神、悪心嘔吐、下痢、眩暈、強直、呼吸絶止

(療法) 微温湯ヲ投シ咽頭ヲ搔擾シテ嘔吐ヲ促シ(吐劑ハ虚脱ヲ増進スルヲ以テ之ヲ禁ズ) 或ハ胃唧筒ヲ用井或ハ興奮劑ヲ與ヘ又或ハ「モルヒネ」ノ皮下注射

ヲ行フテ其効ヲ認ムルコトアリ

タンニン酸 二、〇 卵蛋白 一〇〇、〇 餾水 一〇〇、〇

右調和振盪毎二時一食匙

只嘔氣ノミ有ル者ニハ左方ヲ處ス

醋酸 五〇、〇 餾水 二〇〇、〇 單舎 五〇、〇

右調和先ツ半量ヲ頓服セシメ而後五時一食匙

タンニン酸 四、〇 餾水 二〇〇、〇 單舎 五〇、〇

右調和五分時一食匙

其他強度ノ酒精飲料ヲ與フ

○アトロピンノ中毒

(診候) 瞳孔散大、口内及咽頭乾燥、視力障害、頭痛、不穩、譫語、昏睡、蛋白尿、血尿、膀胱炎、疼痛性陰莖勃起、呼吸障害、痙攣其他内服シタルトキニハ腸胃加答兒ノ症

(療法) 毒物尙ホ胃中ニ在ルトキハ「タンニン酸」〇、〇一ヲ與フ既ニ腸内ニ入りタル

トキハ「モルヒネ」〇、〇二或ハ「ヒソシチグミン」ヲ用ユ

○「コカイン」中毒

〔診候〕悪寒、口渴、瞳孔散大、悪心、不安、譫語等ヲ發シ虚脱

〔療法〕亞硝酸アミールヲ吸入、人口呼吸、樟腦油

○「ヂギタリス」中毒

〔診候〕悪心、嘔吐、頭痛、煩悶、脈搏遅徐、チアノーゼ、眩暈、幻覺、重聽、心臓麻痺ヲ發ス

〔療法〕酒精飲料、濃厚ナル茶、カンフル、エーテル

○雙蘭菊中毒

〔診候〕流涎、嘔氣、腹痛、嘔吐、下痢、皮膚蟻走感覺、瞳孔散大、呼吸促進、脈搏遅徐、不正、麻痺、呼吸麻痺若クハ心臓麻痺ニヨリテ斃ル意識ハ變セズ

〔療法〕酒精飲料、茶、精製樟腦、人工呼吸法

タンニン酸 四、〇 溜水 二〇〇、〇 單舎 五〇、〇

右調和毎五分時一食匙

○麥角中毒

〔診候〕急性中毒ニアリテハ嘔吐、腹痛、失心、下痢、流涎、胸腔四肢ニ於ケル刺痛蟻走感覺眩暈、瞳孔散大、知覺脱失、痲痺狀發作、脈一分時二十乃至十五搏體温下降譫語

〔療法〕腸詰中毒ノ治法ト同一ナリ

○サントニン中毒

〔診候〕瞳孔多クハ散大若シクハ縮少ス臭味ノ醋覺、黃色視、頭痛、悪心、嘔吐ヲ發シ最モ重症ナルモノニ於テハ痲痺發作ヲ來ス呼吸困難窒息ニヨリ死ス

○抱水クロラール中毒

〔診候〕呼吸遅徐、脈搏弱少、體温下降シ心臓麻痺ニヨリテ斃ル

〔療法〕人工呼吸、ストリキニーチ皮下注射 エーテル、樟腦油

硫酸アトロピン 〇、〇〇二 溜水 三五、〇

右調和三十分間ニ於テ二回ニ服用ス可シ

○コニーネ中毒

〔診候〕流涎悪心、嘔吐、視聽障害、蟻走、チアノーゼ、痲痺ヲ發シ呼吸麻痺ニヨリテ死ス

(療法) 硝酸ストリキニーチ 〇、〇一 餾水 一〇〇、〇 阿片丁幾 三十滴
 右調和三十分ナシ先ツ每十五分時二茶匙ヲ用ユ其三分一ヲ盡スニ至リ更ニ 其一部ヲ每三十分時二茶匙ヲ用井殘一分ハ每時二茶匙ヲ用ユ可シ
 カフェイン、人工呼吸

○エーテル麻醉

(診候) 全身知覺脱失ヲ發ス
 (療法) アンモニア水 十五滴 餾水 二〇、〇
 右調和一回ニ啜飲セシム
 アンモニア水 三〇、〇
 右吸入料

其他冷水灌漑ヲ行ヒ且ツ新鮮ノ空氣ヲ吸入セシムルコト等ニ注意ス可シ

○クレオソート中毒

(診候) 頭痛、眩暈、呼吸困難、失神、心臟作用減弱、麻痺及腸胃症等
 (療法) アラビゴム末 一〇、〇 甘扁桃油 二〇、〇
 右乳劑ニ作り餾水二八〇、〇ヲ加ヘ其四分一頓服而後每十分時半茶匙

○石油或ハ揮發性油中毒

(診候) 胃部壓迫、嘔吐、下痢、眩暈、顔面蒼白、心作用遲徐寒冷ノ感及嗜眠
 (療法) 油合劑 一〇〇〇、〇(運用)

○アニリン製劑中毒

(診候) 急性中毒ニ於テハ嘔吐、眩暈、歩行蹣跚、卒倒、失神、昏睡狀態ヲ呈シ脈搏、呼吸増加、體溫下降、チアノーゼヲ呈シ徐々瞳孔縮小及痙攣ヲ發ス
 (療法) 燻製マグネシウム水 二〇〇、〇
 右每半時一食匙

○石炭酸中毒

(診候) 頭痛、眩暈、脱力、體溫下降、冷汗、失神ヲ發シ呼吸麻痺或ハ心臟麻痺ニヨリ 死ス尿色ハ帶綠色乃至黑褐色ヲ呈ス
 (療法) 吐劑及ビ、マグネシウム劑ヲ與ヘ而後左方ヲ施ス可シ
 油合劑 二〇〇、〇 (每十五分時一食匙)
 パウマン氏ハ硫酸アルカリ鹽ヲ内服セシム過テ石炭酸ヲ吞ミ石炭酸胃中ニ存 在スルトキハ砂糖石灰ヲ賞用ス(フリーゼマン氏)

○ 糝酸及糝酸鹽中毒

(診候) 口腔及咽喉内灼熱、嘔吐、胃痛及疝痛並ニ薦腰部及腎臟部ニ疼痛ヲ發シ
尿中蛋白尿等ヲ發シ失神體溫下降脈搏增加、不正、瞳孔散大手足厥冷虛脫

(療法) 炭酸石灰末 五〇、〇 鹽水 二〇〇、〇

右半量ヲ頓服後每十分時一食匙半時間ヲ經テ更ニ
維也納瀉下水 五〇、〇 結晶硫酸ナトリウム 一〇、〇(頓服)

○ カンタリス中毒

(診候) 口腔及咽頭内灼熱煩渴、嘔下困難、胃痛及ビ腹痛ヲ發シ次テ腎臟部ニ疼痛ヲ
覺エ舌及ビ口腔粘膜ニ水泡ヲ形成シ流涎惡心嘔吐(時トシテ吐血)、血便裏
急後重、尿道及膀胱部疼痛、尿意頻數、頭痛、眩暈顔面潮紅、腫起瞳孔散大脈
搏及呼吸遲徐淫亂症ヲ發スルコトアリ其他痙攣、妊婦ニアリテハ流産ヲ發ス

(療法) 樟腦 三、〇 アラビヤゴム漿 適宜

右ゴム合劑ヲ加ヘテ全量三〇〇、〇ニ作り更ニ阿片丁幾十滴ヲ加ヘ每五分
乃至十五分時一食匙

○ 腸詰中毒及腐敗肉中毒

(診候) 嘔吐、下痢、嘔下困難、卒倒、譫語痙攣、虛脫

(療法) エーテル 二、〇 鹽水 一五〇、〇 阿片丁 十滴

單舎 二〇、〇

右調和每半時一食匙

蓖麻子油

○ 河豚中毒

(診候) 重症ニ在テハ俄然運動及知覺ノ麻痺ヲ發シ脈搏微弱、歇代、呼吸緩徐一二時
間ニシテ死ス輕症ニ在テハ嘔吐、頭痛、眩暈、倦怠、知覺麻痺、舌運動及嘔下
困難、チアノーゼ、四肢厥冷、瞳孔散大不動等ニ發シ一乃至數日ニシテ治シ
或ハ死ス

(療法) 吐劑、人工呼吸、ストリキニー子或ハ樟腦油ノ皮下注射

○ 菌類中毒

(診候) 嘔吐、腹痛、昏睡、口渴、發汗、倦怠、瞳孔始ハ縮小後散大、不安、次テ躁狂ノ如
ク而シテ幻覺ヲ發シ麻痺ヲ來タシ昏睡トナリテ死スルコトアリ

(療法) アトロピンノ皮下注射(〇、〇〇一)、樟腦油、人工呼吸

○ 擠實中毒

(診候)嘔吐、噴泡、痙攣、瞳孔始メハ縮小後散大、チアノーゼ、手足厥冷、脈搏微弱
(療法)吐劑ヲ與ヘ興奮劑ヲ用ユ

○ドクウツギ中毒

(診候)不安嘔吐、眩暈、痙攣、チアノーゼ、冷汗、嗜眠、脈搏微弱、呼吸緩徐
(療法)吐劑、麻醉劑及興奮劑

○苛性アルカリ中毒

(診候)腐蝕ニ因ル口腔、食道、胃ノ灼熱疼痛、脈搏不正、手足厥冷、嘔吐、下痢虚脱
(療法)酒石酸 一〇、〇 餾水 一〇〇、〇

右用量一酒盃ヲ頓服後毎五分時其量五食匙ニ一茶匙ノ扁桃油ヲ和シテ連用ス
(此用量ハ五%液一〇〇、〇ニ向テ解毒ノ効十分ナリ)

又醋或ハ蜜柑橙類ノ新鮮ナル絞汁ヲ與ヘ疼痛ニハ麻醉劑ヲ用ユ

○アンモニア瓦斯中毒

(診候)濃厚ナル瓦斯ヲ吸入シタル時ハ窒息ノ感、胸部(絞窄、苦悶、眩暈、咳嗽、氣道、
及胃内灼熱、粘液ノ嘔吐、喀痰、流涎、アンモニア臭ヲ有スル發汗、脈搏細小
及頻數、泌尿閉止)稀釋瓦斯ヲ吸入シタル時ハ眼球鼻粘膜ノ刺戟症狀、頭

痛、胸廓絞窄ノ感氣管支加答兒ヲ發ス(急性中毒ニ於テハ五乃至十分間ニ
窒息ニ陥リ死シ或ハ三乃至七日ニ衰弱ニヨリテ斃ル

(療法)醋酸 一〇、〇

右喚入料

醋 五〇、〇 餾水 二〇〇、〇

右調和溫メテ吸入セシメ併セテ冷水洗滌ヲ行フ可シ

○アンモニウム製劑及吐酒石中毒

(診候)口渴嘔吐、胃腸灼熱、冷汗、搐搦

(療法)タンニン酸 三、〇 餾水 一四〇、〇 アルテア舍 六〇、〇

右調和毎五分時一食匙

○砒製劑中毒

(診候)急性砒石中毒ニニ様アリ(甲)頭部絞窄、乾燥、口渴、下腹劇痛、嘔吐、虎列刺
様下痢、腸痙攣、脈搏頻少、不正皮膚蒼白、厥冷、呼吸促進、失神或ハ痙攣ヲ發シテ

死ス(乙)症ニアリテハ頭痛、眩暈、俄然虚脱ニ陥リ痙攣ヲ發シテ死ス

(療法)砒石解毒藥、假製マガ子シウム等ヲ用ユ此解毒法ヲ用ユル迄ノ間ニ蛋白或
ハ牛乳ヲ飲マシム可シ

煨製マグネシウム水 二〇〇、〇
 右三分一ヲ頓服シ而後毎分時一食匙ヲ與フ
 過硫酸鐵液 一〇〇、〇ヲ
 錫水 二五〇、〇ニ混シタルモノト
 煨製マグネシウム 一五、〇ヲ
 錫水 二五〇、〇ニ加ヘタルモノトヲ、要ニ臨ミテ混ズ可シ
 (砒石解毒劑)
 右毎十分後ニハ十五分次ニ三十分毎ニ二乃至四食匙温湯ニ混シ用ユ可シ

○重土中毒

(診候) 全身衰弱、不快、悪心、頸部絞窄ノ感、嘔吐、悪心、胃部疼痛、疝痛、下痢、脈微弱、弱不正、手足厥冷、及痙攣、麻痺、兩便失禁、視聽障害、呼吸困難ヲ發シ心臓麻痺

(療法) 鉛鹽類中毒ノ治則ニ同シ

○鉛鹽類中毒

(診候) 急性症ニ於テハ、鐵性ノ味感、口腔乾燥、咽頭灼熱、絞窄、食道及胃灼熱、大渴、流涎、舌苔、呼氣惡臭、皮膚乾燥、劇甚ナル嘔吐、頭痛、泌尿減少、稀ニハ増加

ス脈搏遲徐(一分時間四十搏)
 (療法) 瀉下水 五〇、〇 硫酸マグネシウム 三〇、〇 熱湯 三〇〇、〇

右調和十分時以内ニ二回ニ分服セシム

○クロール瓦斯中毒

(診候) 咳嗽、呼吸器粘膜炎ノ加答兒、胸部刺痛等

(療法) 杏仁水 一〇、〇 エーテル アルコホル(九十プロセ) 各三〇、〇

右調和吸入兼吸入料

甘硝石精 二〇、〇 アルテア舎 錫水 各四〇、〇

右調和毎五分時乃至十分時一食匙

○クローム酸及クローム酸鹽中毒

(診候) 輕症ニ於テハ胃部疼痛、口腔乾燥、悪心、嘔吐、下痢、倦怠、輕度ノ呼吸困難、
 ○重症ニ於テハ劇甚ナル吐瀉、迅速ナル虚脱ヲ發シ十乃至十二時間ニシテ

斃ル
 (療法) 重曹水ニテ胃ヲ洗滌シ次テ炭酸マグネシウム重曹水或ハ左ノ鐵劑ヲ與フ

鐵粉 五、〇 單舎 一〇〇、〇

右調和能ク振盪シ毎分時一茶匙ヲ與ハ然ル後ニ食匙ノ水ヲ取ラシムベシ

○藏化カリウム及青酸中毒

(診候) 失神、痙攣、心臓及び呼吸麻痺ヲ呈シテ死ス

(療法) 硫酸銅 二、〇〇 餾水 二八、〇

右一食匙ヲ與ヘ五分時ヲ經テ後其殘餘ヲ與ヘ同時ニ冷水灌注法

○ヨード中毒

(診候) 急性症ハ口腔及咽喉内灼熱、嘔吐、胃痛、脈搏少、耳鳴、血便虚脱ヲ發シテ死ス

(療法) 澱粉 五、〇〇 熱湯 一〇〇、〇〇 煨製マグネシウム 一〇〇、〇〇

右調和毎五分時一食匙

○酸化炭素中毒

(診候) 頭痛、眩暈、耳鳴、眼瞼閃發、呼吸促進、瞳孔散大、痙攣、昏睡等

(療法) アンモニア水 四〇、〇〇

右吸入料兼テ同時ニ冷水灌漑法ヲ行フベシ

麥角鹼 〇、二〇 餾水 五〇、〇〇(毎十五分時一茶匙)

○銅鹽類中毒

(診候) 急性中毒ニ於テハ口内銅味ヲ覺ヘ帶綠色若クハ青色ノ物ヲ吐シ胃痛、痙攣、下痢、甚急後重、手足厥冷脈搏少、知覺脱失、麻痺、譫語等ヲ發ス

(療法) 鐵粉 一四、〇〇 精製硫黃華 八、〇〇 單舎 六〇、〇〇

右調和臨用振盪シテ毎五分時一茶匙ヲ左方ト交換シテ互ニ用ユ可シ

煨製マグネシウム水 二〇〇、〇〇 卵蛋白 四個 餾水 二〇〇、〇〇

單舎 八〇、〇〇

右調和五分時半茶匙ヲ用ユ

○鐵酸類中毒(硫酸、硝酸、鹽酸)

(診候) 口腔、咽喉食道、胃粘膜ノ變色及刺痛嘔吐、虚脱、脈搏細少呼吸不正煩悶等

(療法) 煨製マグネシウム水 二〇〇、〇〇

右半量ヲ先ツ頓服セシメ而後毎五分時一食匙ト二食匙ヲ交互増減シテ用ユ

疼痛ニハ麻酔劑ヲ與フ

○磷中毒

(診候) 急性中毒ニ於テハ頭痛、嘔吐(吐物ハ蒜樣臭氣ヲ帶ビ暗處ニ光ヲ放ツ) 腸胃

炎、黃疸、肝臟痛、肝臟肥大ヲ發シ死亡ス

(療法) 古テレピンテ油 三〇、〇〇 (愈々古ケレハ)

(愈々佳効アリ)

卵黃 二個

薄荷水 二五〇、〇 單舍 五〇、〇

右強ク振盪シ毎半時一食匙全量四分ノ一服用後一時一食匙
疑ハシキ場合ニハ左方ヲ處ス可シ
燬製マア子シウム 二〇、〇 クロール水 一二〇、〇(用法同前)

○水銀鹽中毒

(診候)急性中毒ノ内服ニヨルトキハ口腔、咽頭、胃粘膜ノ腐蝕、銅ノ如キ味感ヲ覺
エ、咽頭絞窄ノ感、嚥下困難、灼熱次ニ嘔吐、胃痛、下痢ヲ發シ脈搏頻數、不
整、顔面蒼白ヲ呈シ虚脱ニ陥リテ斃ル○急性中毒ノ外用ヨリスルモノハ水
銀性赤痢ト名ケ血便ヲ下痢シ著明ナル裏急後重ヲ發ス屢々汞氣性齒齦炎泌
尿減少或ハ絶止ヲ發ス

(療法)生卵白、牛乳及麻醉劑ヲ與フ、口内炎ニハ鹽剝水ノ含嗽

○銀製劑中毒

(診候)急性症ニアリテハ嘔吐、下痢、胃痛及腹痛、痙攣ヲ發シ○慢性症ニアリテハ
皮膚灰白黒色、全身倦怠、健忘、耳鳴、眼筋痙攣、口内炎、蛋白尿ヲ發ス

(療法)食鹽 二〇、〇 鹽水 三〇〇、〇
右半量ヲ頓用セシメ而後毎半時一食匙且ツ其間左方ヲ用ユ

油合劑 ゴム合劑 各一五〇、〇(毎半時一食匙)

○亞鉛類中毒

(診候)咽頭絞窄及灼熱ノ感ヲ發シ胃痛、嘔吐(屢々吐血)、下痢(時トシテ血便)ヲ發
シ脈搏細少手足厥冷、昏睡及虚脱ヲ發シ數時間或ハ數日内ニ死ス

(療法)タンニン酸 四、〇 縮水 一四〇、〇 アルテア舍 六〇、〇
(毎五分時一食匙)

○第二章 失神及假死救急ノ法、人工呼吸法

腦貧血ニ由テ失神ヲ發シタルトキハ患者ヲ水平ニ臥セシメ且ツ頸部ヲ稍ヤ低クス
ベシ而シテ葡萄酒等ノ酒精飲料ヲ與フ又々顔面ニ冷水ヲ撒布シ或ハ芳香性ノ藥品
ヲ前頭部ニ塗布シ「アンモニア」ヲ嗅入セシメ或ハ器械的ニ鼻粘膜ヲ刺戟スベシ
凡テ其原因ノ何タル者ニ論ナク假死者ハ先ヅ之ヲ光線ノ十分ニシテ通氣ノ自由ナ
ル場所ニ致シ傍人ノ雜選ヲ避ケ而シテ其原因ニ從ヒ左ニ畧序スルカ如キ方法ニ憑
リ相次テ人工呼吸術ヲ施サル可カラズ
(第一)中毒ナルトキハ其療法(附録第一章中毒ノ部參照)
(第二)腦振盪或ハ電擊ナルトキハ先ヅ其衣服ヲ解放シ頭部氷罨法芥子泥熱布片ニ
テ皮膚ヲ刺戟シ峻下劑ヲ投ズ

附録 失神或ハ假死ノ原因及療法

(第三) 大出血ノトキハ頭部ヲ低ク仰臥セシメ樟腦油或ハ「エーテル」ノ皮下注射ヲ行ヒ又赤葡萄酒武蘭地酒熱茶等ノ興奮劑ヲ投シ而シテ身體輸血法食鹽溶液ノ注入法ヲ行フベシ

(第四) 溺者ハ口内ノ異物ヲ除キ腹ヲ下ニシテ臥セシメ腹部ノ下ニ枕(衣類ニテ代用ス)ヲ置キ二三回約三秒時背部ヨリ下方ノ肋骨ヲ壓迫シ水ヲ吐カシ次ニ背部ヲ下ニシテ人工吸呼術ヲ行フ又乾燥セル熱布片ヲ用井テ全身ヲ温包スルヲ可トス

(第五) 縊者ニハ先ツ其絞縊ヲ解キ皮膚刺戟及人工呼吸

(第六) 咽喉内異物阻塞ニハ先ツ其異物ヲ除去ス可キコト勿論ニシテ或ハ「カテ」テ「ル」ヲ用井テ其吸出ヲ試ミ或ハ咽喉鉗子咽喉消息子等ヲ用井テ其摘出ヲ試ム可シ凡テ機械ヲ應用スル場合ニハ少シク頭部ヲ下方ニ傾ケ且ツ側位ヲ取ラシム可ク百方其効無ク時間久シキニ瀕ルノ際レ有ルトキハ速ニ氣管切開術ヲササル可カラズ

(第七) 精神感動ナルトキハ先ツ之ヲ仰臥セシメ酒精飲料ヲ與フ

(第八) 凍者ニハ第一其四肢ヲ折傷セザル様ニ注意シ且ツ決シテ最初ヨリ温暖ナル場所ニ致スコトナク先ツ雪或ハ氷ヲ用井テ全身ヲ摩擦シ體温ノ漸ク挽回スルヲ待テ始テ温暖ナル室内ニ入レ爰ニ於テ或ハ熱布ノ皮膚摩擦温灌腸等ヲ試ミ且ツ人工呼吸術ヲ專ラニシ少シク呼吸挽回シテ人事ヲ辨スルニ至テハ温酒ヲ投シ且

ツ身體ノ温包或ハ温浴ヲナサシム
(第九) 日射病等凡テ非常ノ熱度ヨリ來ル者ニハ頭部ニ冷水ヲ灌キ冷電法ヲ行ヒ冷水灌腸ヲ試ミ皮膚ノ刺戟ヲ施シ興奮劑ヲ投ズ

○人工呼吸法

(第一) 第五十七圖第五十八圖ニ示ス如ク假死者ノ衣ヲ脱カセ之ヲ疊ミテ枕トナシ或ハ枕ヲ腰部ノ下ニ置キ仰臥セシメテ術者ハ其上ニ跨リ兩手ヲ開キテ之レヲ兩乳房下ニ當テ徐々ニ十分ナル力ヲ加ヘテ胸ヲ壓迫シ次ニ手ヲ放チ又々胸ヲ壓シ又々手ヲ放ツ一分間ニ十五回反覆スルコト一時間

(第二) マルシヤル、ハル氏呼吸法 第五十九圖及第六十圖ニ示スカ如ク患者ヲ伏臥セシメテ前額ヲ手支シ術者ノ手掌ヲ用井テ胸側及背部ヲ平等ニ壓迫スル大約二秒時以テ呼吸ヲ替マシメ更ニ患者ヲ一側ニ回轉シ二秒時ノ呼吸ヲ替マシムル後又直ニ舊位ニ復サシメ更ニ前法ヲ反覆スルナリ(上肢ニ大損傷アルトキハ用ユベカラス)

但シ此法ハ一分時間大約十五回反覆半時乃至一時間持續ス可シ同時ニ四肢ノ皮膚ヲ刺戟スレバ尙ホ其効ヲ補フ可キナリ

(第三) シルウエステル氏呼吸法 第六十一圖及第六十二圖ニ示スカ如ク患者ヲ臥セシメ胸部ヲ高クシ頭部ハ胸部ニ比較シテ聊カ低位ニ置キ術者其頭邊ニ坐テ

占メ患者ノ兩膈ヲ肘部ニ握リテ之ヲ頭部ノ兩側ニ伸展舉上スルコト二秒時以テ
吸氣ヲ營マシムルノ後其膈ヲ降下シテ胸側ヲ壓迫スルコト更ニ二秒時ヲ以テ呼
吸ヲ營マシムルコト反覆一分時間是亦大約十五回ナリトス特續時間モ亦前者ト
同一ナルベシ上肢ニ大損傷アルトキハ用ユベカラズ

(第四) マツキス、シユルレル氏呼吸法患者ヲ水平位ニ仰臥セシメテ頭部ヲ少シ
ク高位ニ置キ術者ハ患者ノ腹部ニ起立シ兩手ヲ用井テ患者ノ肋骨弓部ヲ左右ヨ
リ把握シ力ヲ極ハメテ此部ヲ高擧スルコト大約二秒時ヲ以テ呼氣ヲ營マシメ是
ニ於テ舊位ニ降シ腹壁ヲ壓迫スルコト大約二秒時以テ吸氣ヲ營マシメ斯ノ如ク
整然反覆スルコト一分時間大約十五回ヲ度トシ半乃至一時間持續スルヲ通例ナ
リトス但シ此際腹壁ヲ弛緩スルガ爲メ膈膝兩關節部共ニ屈曲位ヲ取ラシムルコ
ト必要ナリ

(第五) フチスハル氏呼吸法 此法ハ患者ヲ仰臥セシメ丈五尺許ニシテ幅四五寸ニ
摺ミタル布片ヲ取リ第一條ヲ用井テハ胸廓ヲ右ヨリ左ニ繞リ他ノ一條ヲ用井テ
ハ胸廓ヲ左ヨリ右ニ匝ラシ左右共ニ乳房ノ部位ニ繞匝シテ交互對側ニ引キタル
其兩端ヲ絞リ是ニ於テ二人ノ術者患者ノ兩側ニ坐テ占メ各之ヲ其兩手ニ握リテ
兩側一齊ニ牽引スルコト大約二秒時胸廓ヲ壓擠シテ以テ呼氣ヲ營マシムルノ後布
片ヲ弛ムルコト又大約二秒時胸廓ヲ舊位ニ復シ以テ吸氣ヲ營マシメ斯ノ如ク整然
反覆スルコト是亦一分時間大約十五回ニノ半乃至一時間持續スルヲ通例ナリトス

圖 六 十 五 第



附錄 失神或ハ假死ノ原因及療法

長國臣

圖八十五第



圖九十五第



法吸呼工人氏ルハルヤシルマ

監録 廣大醫學院ノ醫學部出版

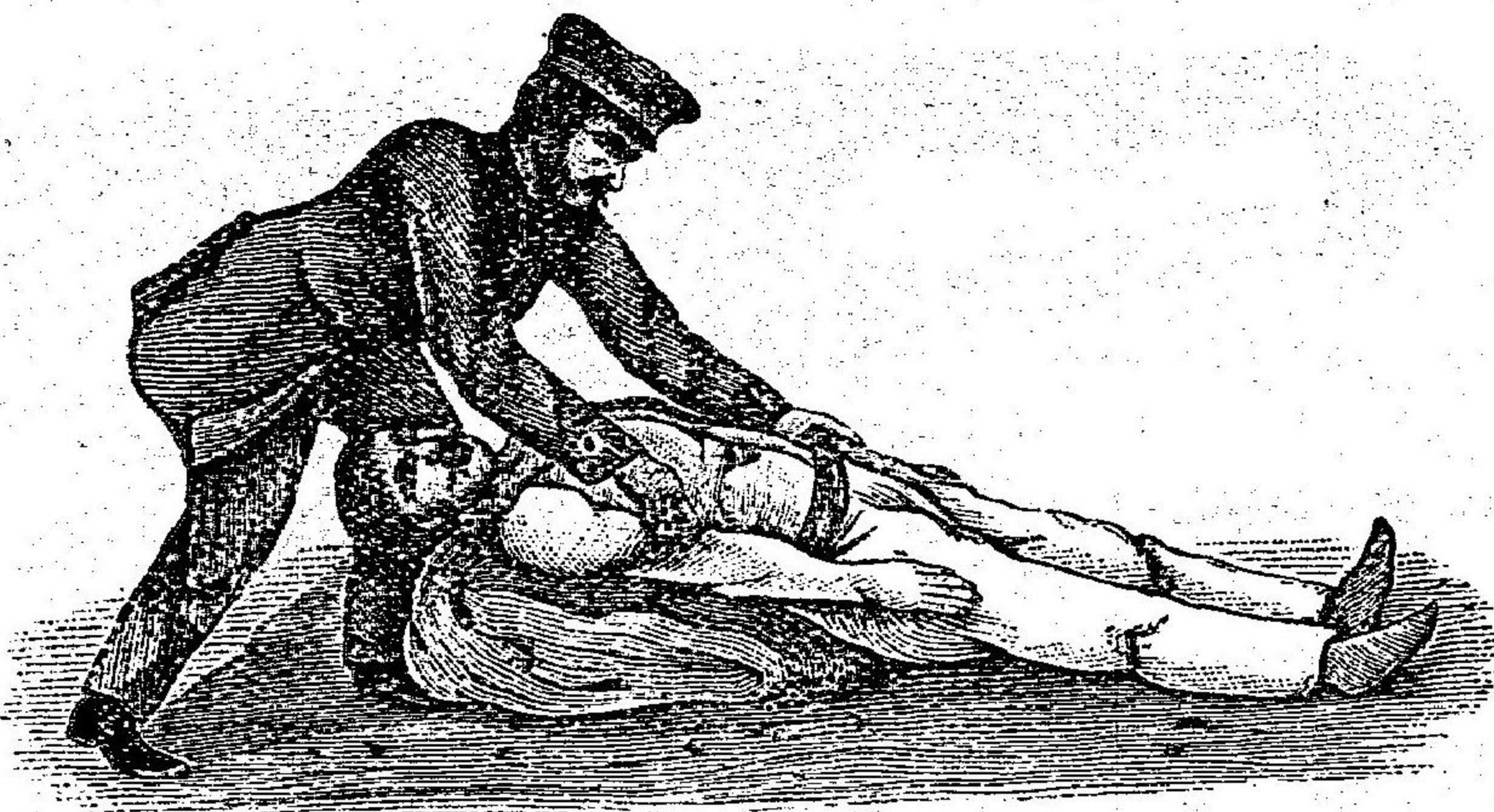
長國臣

圖 十 六 第



法吸呼工人氏 ルハルヤシルマ

圖 一 十 六 第



法吸呼工人氏 ルテスエヴルツ



法吸呼工人民ルチスロコト

當時若シ二人ノ術者ヲ缺ク時ハ一布片ノ一端ヲ他ノ固定體ニ縛シ他ノ一端ヲ握
リテ前ノ如ク緩急整然呼吸ヲ營マシム可シ
凡テ人工呼吸術ヲ施スノ際ニハ絶エス患者ノ舌ヲ口外ニ牽引スルコト最モ必要ノ
件ナリ

(第六)刺戟呼吸法 鳥羽或ハ蠶莖等ヲ用井鼻口ノ粘膜面ヲ搔擾シ反射機能ヲ起サ
シメテ呼吸ノ挽回ヲ促シ併セテ患者ノ頭部及ヒ胸部ニ強烈ノ水線ヲ反覆灌注シ
毎回直ニ布片ヲ用井テ之ヲ乾燥ス

(第七)空氣吹入胸側壓搾呼吸法 先ツ患者ノ鼻ヲ鎖シ術者ノ口ヲ用井テ患者ノ口
内ニ直接ニ空氣ヲ吹入シ或ハ「カテーテル」ヲ用井テ間接ニ空氣ヲ吹入シ直ニ胸
側ヲ壓迫シテ再ビ空氣ヲ排出セシメ以テ呼吸ヲ營マシム
○注意心臟麻痺ヲ兼子タルモノニハ人工呼吸ヲ施スノ際心臟部ヲ強ク壓迫スベ
シ

○第三章 輸血法及食鹽注入法

大出血患者(出血法ヲ施シタル後ニ於テ)衰弱甚々シキ時ハ頭部ヲ低クシ顔面ニ冷
水ヲ注キ「カンフル油若クハ「エーテル」ヲ皮下ニ注射シ溫布ヲ以テ身體ヲ暖メ溫
酒ヲ與ヘ若クハ灌腸シ下肢ヲ壓抵縛シ(身體輸血法)○、六乃至○、七%ノ殺菌セ
ル食鹽液ヲ三十九度ニ暖メ皮下ニ注射スベシ(五百乃至千「グラム」)靜脈内ニ注入

スルモ可ナリ

○第四章 諸關節脫臼整復法
○下顎脫臼整復法



下顎脫臼整復法

第三十六圖

左右ノ拇指ヲ口内ニ送入シ拇指ヲ後白齒上ニ置キ他ノ指ヲ下顎骨地平枝下縁ニ並置シ而シテ後拇指ヲ以テ下顎骨ヲ後下方ニ壓シ同時ニ他ノ指ヲ以テ頤ヲ舉上シ冠狀突起ノ關節結節ヲ通過シタルヲ認ムレバ速カニ兩拇指ヲ取り去ル可シ
○肩胛關節前脫臼
新發ノ脫臼ハ麻醉劑ヲ要セズシテ左法ニテ整復ス

第四十六圖



肩胛脫臼整復

(第一) モーテ氏整復法 上肢ヲ過度ニ外轉シ左手ヲ以テ之レヲ牽引シ右手指頭ヲ腋窩ニ送り骨頭ヲ壓シテ關節窩内ニ向ハシメ次テ上肢ヲ内轉ス

附錄 諸關節脫臼整復法

(第一) シモシ氏法 患者ヲ燈ノ上ニ健康側ヲ下方トナシテ側臥セシメ助手ヲシテ兩足ヲ固持セシメ術者ハ伸展セル患肢ヲ握リ上方ニ牽引ス患者ノ身體疊テ離ルルニ從ヒ介者モ亦其足脚ヲ漸次擧上シ身體吊垂スルニ在テ術者患者ノ身體ヲ振子ノ如ク動搖セシム

(第二) コッヘル氏法 ナ施スニハ左ノ順序ヲ用ユ

(甲) 外轉シアル肘頭ヲ徐々ニ強ク軀幹ニ壓迫ス肘頭軀幹ニ接着スレハ更ニ稍ヤ後方ニ送ル

(乙) 肘頭ニ於テ直角ニ上肢ヲ屈曲シ一手ヲ肘頭ニ置キ他手ヲ以テ腕關節ヲ握リ上膊ヲ外旋シ前膊全然側方ニ向フニ至ル其際上膊ヲ稍ヤ下方ニ牽引ス可シ此位置ニ於テ大約一分間ヲ經過ス

(丙) 次ニ肘頭ヲ握リ強力ヲ以テ徐々ニ前方ニ擧上ス

(丁) 前方ニ十分擧上シタルトキハ徐々ニ上膊ノ外旋ヲ減シ手掌ヲ健側ノ胸麻面ニ送ル(是レ即チ上膊ヲ内轉スルナリ)

久時ヲ經過シタル症及ビ不適當ナル整復ヲ試ミタル新發症ニハ「クロ、フオルム」麻酔ヲ用井テ後整復法ヲ行フ可シ整復後ハ擔布ヲ用井大約一二週間安靜ヲ要ス

○肘關節脱臼

患者ヲ燈上ニ仰臥セシメ術者ハ膝上ニ患者ノ肘關節伸展面ヲ接シ一手ニ上膊ヲ握

リ一手ニ前膊ノ下端ヲ握リ過度ノ伸展ヲ營ミ前膊ト上膊トノ後面ニ於テ百四十度ノ凹角ヲナスニ至リ始メテ迅速ニ前膊ヲ屈曲ス屈曲ト同時ニ前方ニ牽引スルヲ要ス但屈曲ヲナスノ瞬間助手ヲシテ齧嚙突起尖端ヲ直接下方ニ向テ壓迫セシムレバ奏効一層確實ナリ

○股關節後脱臼

(第一) コッヘル氏法、先ツ患者ヲ仰臥セシメ助手ヲシテ腸骨前上棘ニ於テ骨盤ヲ固定セシメ術者ハ膝關節ニ於テ屈曲セル患者ノ膝窩窩ニ一手ヲ他手ヲ内外踝部ニ當テ、上膊ヲ握リ尙ホ強ク内旋ヲ行ヒ股關節ヲ直角ニ曲ゲテ上方ニ牽引シ後外旋シテ終ニ伸展ス

(第二) ミッテルドルフ氏法、先ツ強屈外轉外旋ヲ行フテ整復ス

○股關節耻骨上脱臼

(第一) コッヘル氏法、過度、伸展屈曲(同時ニ大腿骨頭ヲ壓スベシ)内旋

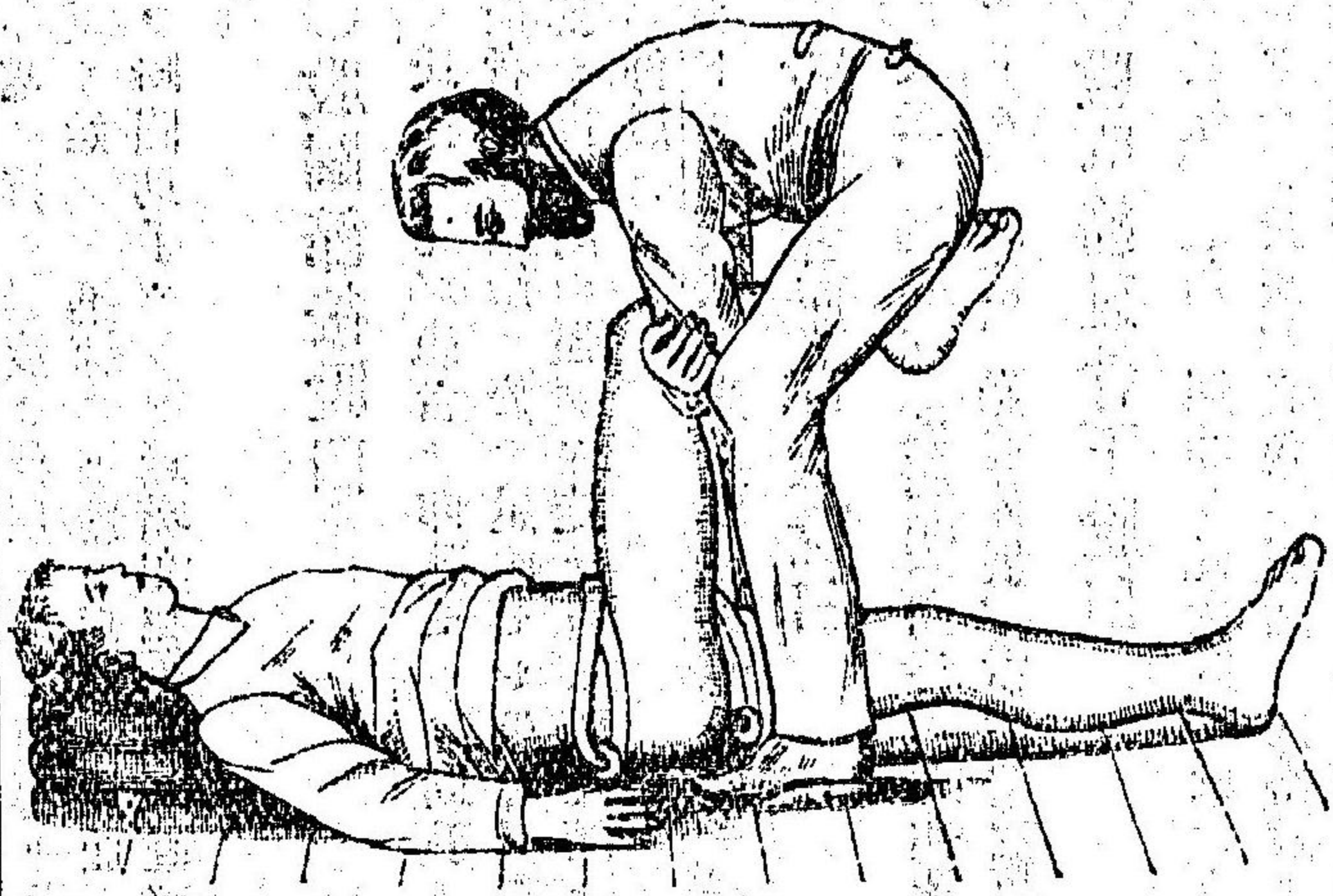
(第二) ミッテルドルフ氏法、過度伸展、強屈曲内轉及ビ内旋

○股關節耻骨下脱臼

(第一) コッヘル氏法、直角ニ屈曲シ此位置ニ於テ上方ニ牽引シ強ク外旋ス

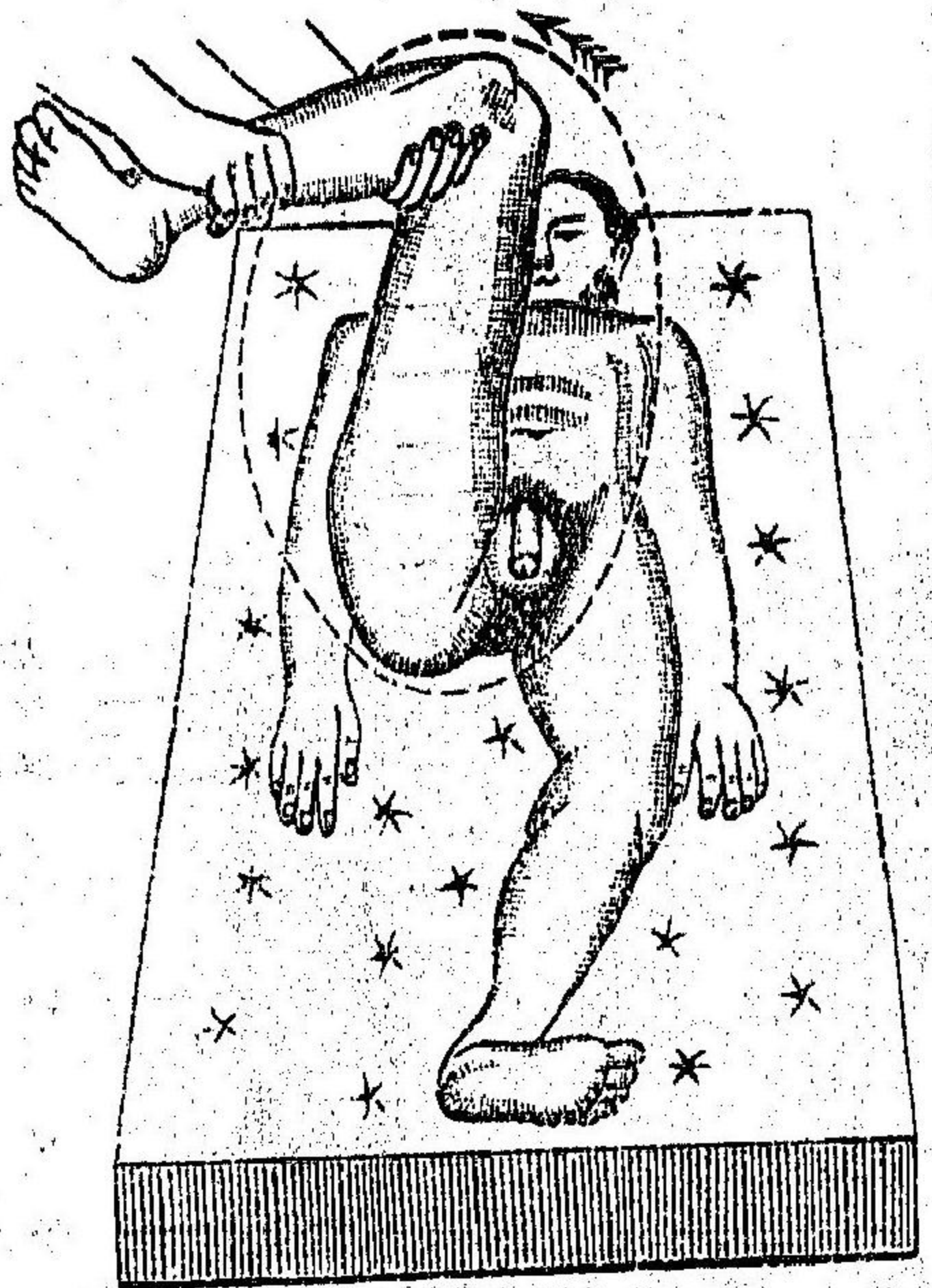
(第二) ミッテルドルフ氏法、直角ニ屈曲シ内轉及ビ内旋

圖 五 十 六 第



○股關節下脱臼
風曲外轉ノ位置ニ於テ牽引シ終リニ臨ンテ外旋ス
○股關節上脱臼
風曲内轉下方牽引及ビ内旋

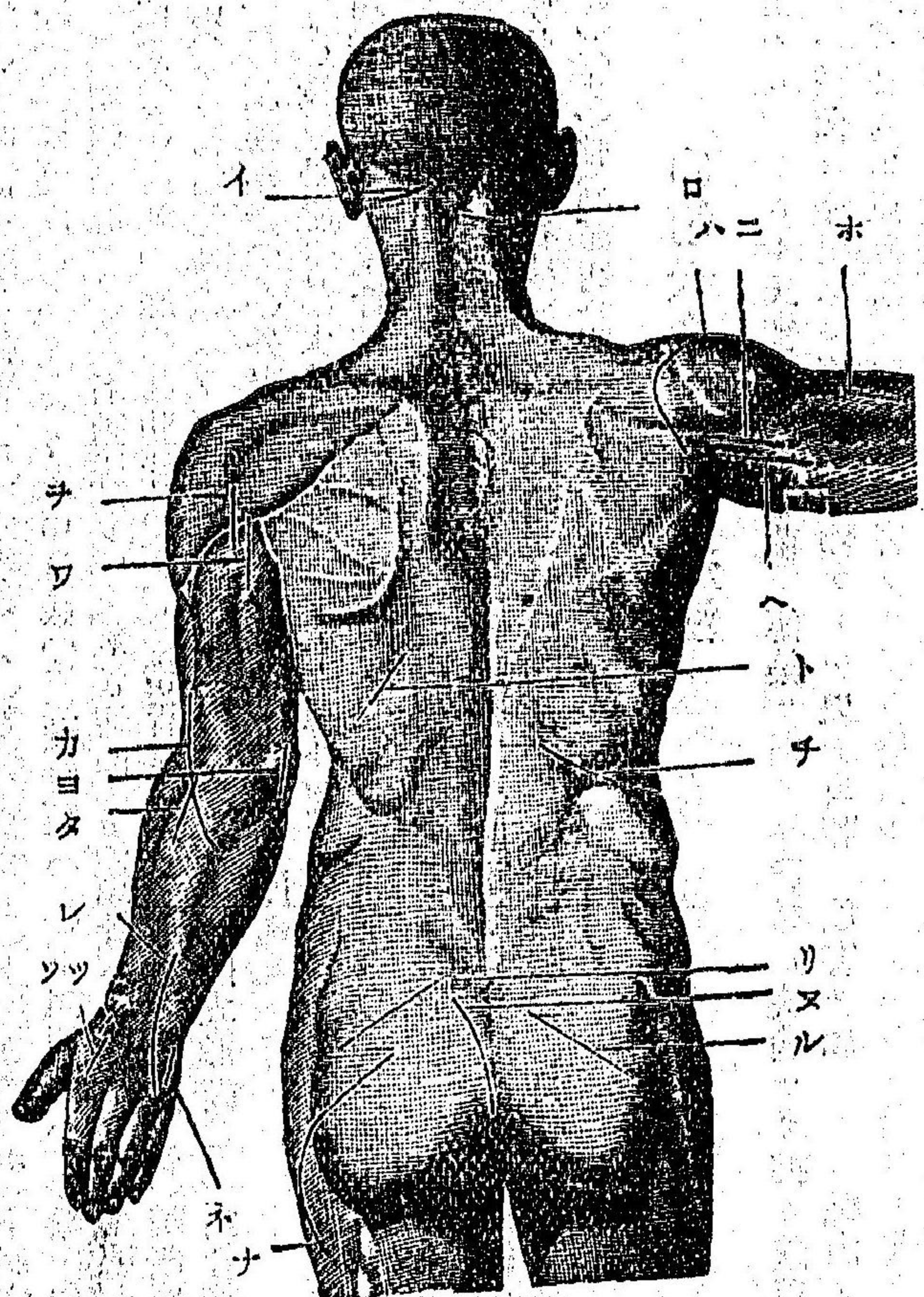
圖 六 十 六 第



○第五章 諸手術皮切一覽

附錄 諸手術皮切一覽

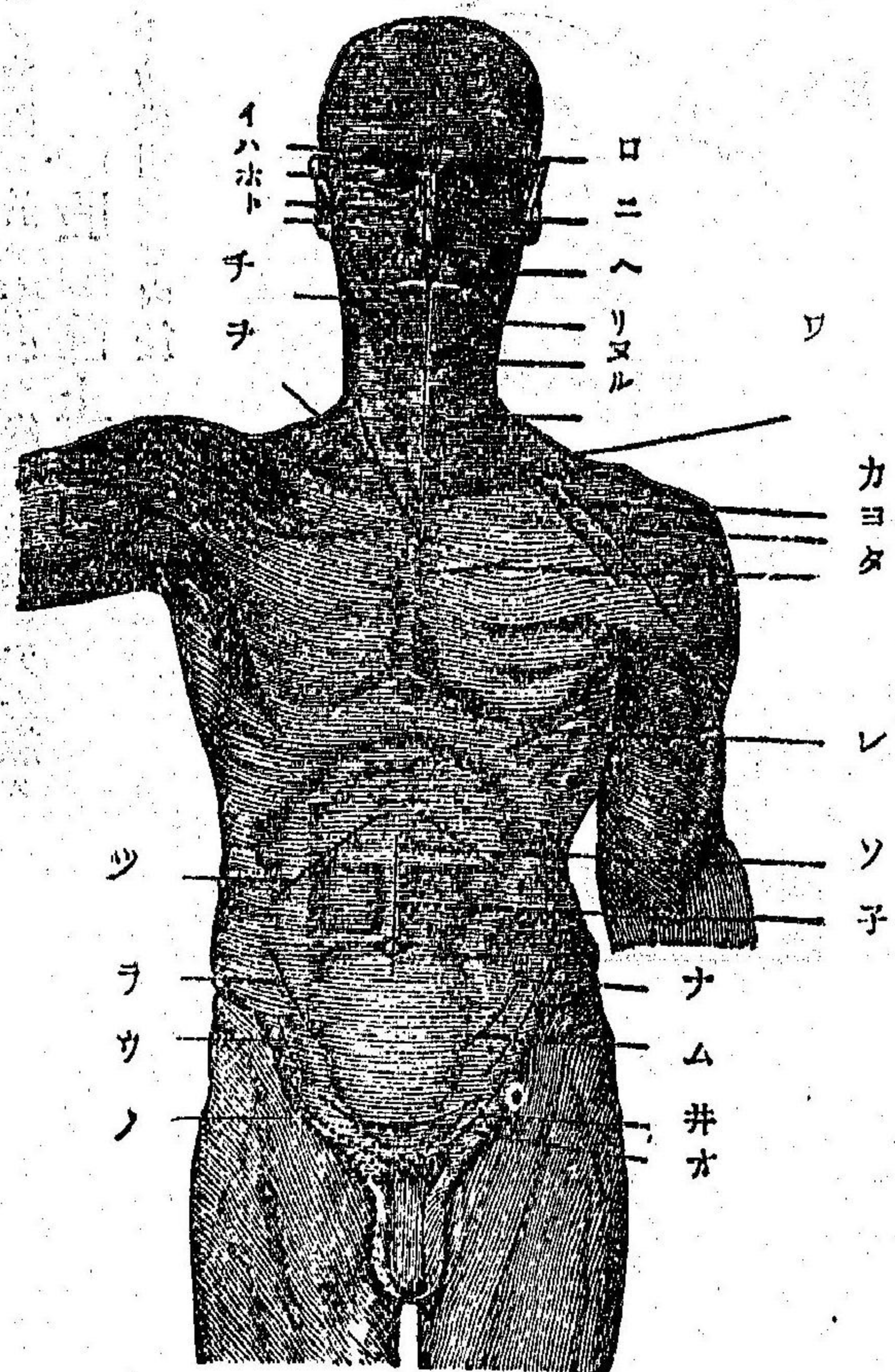
第 六 十 八 圖



附録 賭手術皮切一覽

六五七

第 六 十 七 圖



○第六十七圖第六十八圖ニ就テ見ル可シ

六五六

(イ)上眼窩動脈及神經(ロ)前額竇(ハ)觀骨神經(ニ)上顎切除(ホ)下眼窩神經(ヘ)橫頰皮切(ト)バラ正中鼻截(チ)頤神經(リ)下顎切除(ヌ)喉頭切開(ル)總頸動脈(ヲ)無名動脈(ヱ)下氣管切開(カ)鎖骨下動脈(ヨ)前上膊關節切除(タ)內乳動脈(レ)肋骨切除(ソ)造胃瘻術(ツ)膽囊切開術(子)幽門切除術(ナ)總腸骨動脈(ヲ)蟲樣突起切除術(ム)人工肛門成形術(ウ)腸骨膿瘍(井)脫腸治術(ノ)外腸骨動脈(オ)耻骨上膀胱切開術
 (イ)後頭動脈(ロ)大後頭神經(ハ)後上膊關節切除(ニ)後上膊迴旋動脈、迴旋神經(ホ)橈骨神經、深在上膊動脈(ヘ)橈骨神經(ト)第十肋間神經及動脈(チ)腎別出術(リ)上臂動脈(ヌ)直腸切除術(ル)下臂動脈、坐骨神經(ヲ)後迴旋動脈(ヱ)橈骨動脈、深在上膊動脈(カ)肘關節切除(ヨ)尺骨神經(タ)橈骨神經(探在枝)(ヘ)腕關節切除(ソ)及(ツ)橈骨動脈(子)尺骨神經(手背枝)(ナ)股關節切除

第六章 血清療法

實扶的里ハレツフレル氏實扶的里亞菌ノ傳染ニ因リテ發スル疾病ナリ抑々該菌ノ有害ナルハ該菌ノ產出スル固有ノ毒物アリテ以テ身體ニ危害ヲ加フルニ職由ス近年該毒ハ實扶的里亞血清ニ由リテ無害ノモノト變ズルモノナルヲ發見シ幾多ノ試驗研究ヲ經テ血清療法ノ有效ナルコトヲ稱スルニ至リ其他破傷風、赤痢等諸種

ノ傳染病ニ血清療法ヲ用ユルコトアリ其用法ハ血清ニ添附シアルトコロノ用法注意書ニ詳ナレバ之ヲ覽セズ

第七章 貴要ナル症候ト其病原ノ一覽

- (第一)假死 ヲ發スルモノハ○絞縊假死○沈溺假死○有害瓦斯ノ吸入○初生兒假死
- (第二)人事不省 ヲ發スル諸病ハ次ノ如シ、○腦出血(卒中)○腦動脈ノエンボリ
- 腦震盪症○腦壓迫症○尿毒症○失氣○大醉○ヒステリー○日射病
- (第三)痙攣及搐搦 ヲ發スルモノハ次ノ如シ○癲癇○小兒急痛○妊婦及產婦急痛
- 腦出血(卒中)○腦貧血○ヒステリー○腦及腦膜炎○破傷風○尿毒症○腦腫瘍
- (第四)呼吸困難ノ劇症 ヲ發スルモノハ○咽頭後膿瘍○食道ノ異物○氣道ノ異物
- 實扶的里○聲門浮腫○喉頭軟骨膜炎○聲門痙攣○喉頭ノ梅毒○喉頭ノ腫瘍○喘息○肺ノ充血及浮腫○氣管支加答兒○助膜炎○氣胸
- (第五)胸部劇痛 ヲ發スルモノハ○助膜炎○氣胸○肋間神經痛○絞心症
- (第六)腹部劇痛 ヲ發スルモノハ○胃痛○急性胃加答兒○中毒性胃炎○單純胃潰瘍○胃痛○神經性胃痛○胆石症○疝痛○腎石症○腹膜炎、○盲腸炎、盲腸腹膜炎及ヒ蟲樣突起ノ穿孔症○子宮腹膜炎
- (第七)下痢ノ強劇性 ヲ發スルモノハ○大人ノ急性腸加答兒○小兒ノ腸加答兒○

赤痢○亞細亞虎列拉○霍亂及歐洲虎列拉
 (第八)頑固ノ便秘、強劇嘔吐、吃逆、吐糞、ヲ發スルモノハ○箱頓ヘルニア○箱頓鼠蹊ヘルニヤ箱頓股ヘルニヤ○箱頓閉鎖孔ヘルニヤ○腸管ノ狹窄及閉塞○妊娠性子宮後屈
 (第九)尿管積、ヲ發スルモノハ○蔓延性非化膿性腎臟炎○化膿性腎臟炎○輸尿管ノ閉塞○輸尿管壓迫○膀胱炎○膀胱結石○膀胱新生物○膀胱痙攣○膀胱麻痺○攝護腺炎○攝護腺肥大○攝護腺癌○尿道閉鎖○包莖○尿道内異物○尿道狹窄○妊娠性子宮後屈症

○第八章 人工浴

- 第一 寒水浴
 - 攝氏 十乃至二十度
 - 列氏 八乃至十六度
 - 華氏 五十乃至六十度
 - 攝氏 二十乃至二十八度
 - 列氏 十六乃至二十二度
 - 華氏 六十八乃至八十一度
- 第二 冷水浴

- 第三 微溫浴
 - 攝氏 二十八度乃至三十四度
 - 列氏 二十三乃至二十六度
 - 華氏 八十一乃至九十三度
 - 攝氏 三十四乃至四十度
 - 列氏 二十七乃至三十二度
 - 華氏 九十三乃至百零四度
 - 攝氏 四十乃至四十五度
 - 列氏 三十二乃至三十六度
 - 華氏 百乃至百十三度
- 第四 溫浴
- 第五 熱浴

人工浴ノ溫度ニ關スル大別ハ斯ノ如ク又之ヲ浴法ニ從ヒ差別スレバ緊要ナル者全身浴(頭部以下全身ヲ浸スル者ニシテ其浴量大人ニハ二百)半身浴(心窩以下半身ヲ浸スル者ニシテ其量大約百乃)坐浴(腰部以下ヲ坐浴スル者ニシテ)及局所浴(其浴スベキ體至百五十リテ)ハ大體テ同ナラズ例ヘハ其足浴ニノ四種ニ外ナラズ而シテ其醫療ノ目的ヲ異ニスルニ從ヒ水ニ加フル藥品ノ種類頗ル多シト雖モ普通治療上ニ賞用スル者及ビ一回ノ浴中ニ加フル可キ其分量左ノ如シ

(一) 糠皮浴 一名タニン酸浴

イ ○タンニン酸 一〇、〇乃至五〇、〇 水 二〇〇、〇

ロ ○榎皮 五〇〇、〇 水 二リーテルニ煎出

ハ ○柳皮 同上

ニ ○榆皮 同上

ホ ○栗皮 同上

(二) 鐵浴 ○精製硫酸鐵 三〇、〇乃至六〇、〇

イ ○精製ホツタース 一二〇、〇

ロ ○精製硫酸鐵 三〇、〇 食鹽 一六〇、〇

重炭酸ナトリウム 九〇、〇

但シ小兒ニハ其四分一二テ足ルナリ

(三) 鐵泥浴

○マットニー氏泥越幾斯(殊ニマットニー氏泥鹽所謂乾性モール越幾斯ヲ良トス) 一〇〇〇、〇

○マットニー氏泥油汁(即チマットニー氏流動越幾斯) 七〇〇、〇

(四) 松葉浴

○松葉越(所謂黑色松葉越) 一五〇、〇乃至五〇〇、〇

(五) ヨード浴 浴槽ニハ桶ヲ用ユヘシ

イ ○ヨードカリウム 全身浴 五〇、〇乃至一〇〇、〇

局所浴 五〇乃至一〇〇、〇

坐浴 同上

ロ ○ヨードカリウム 二〇、〇 ヨード 一〇、〇

(六) 槽糠浴

○小麥糠 五〇〇、〇乃至一五〇〇、〇 餾水 五リーテル

右調和三十分間煮沸シテ濾過ス

(七) 麥芽浴

○麥芽浴 一〇〇、〇乃至三〇〇、〇

餾水 四乃至五リーテル

右半時間煮沸シテ濾過ス

(八) 鹽浴

イ ○食鹽 二〇〇〇、〇乃至四〇〇〇、〇

ロ ○食鹽 一〇〇〇、〇 母滴鹽 一〇〇〇、〇

ハ ○母滴汁 一リーテル

(九) 硫黃浴 浴槽ニハ必ラス桶ヲ用ユ

イ ○フレミング氏液 二〇、〇乃至五〇、〇

- ロ ○硫化カリウム 五〇、〇乃至一〇〇、〇(較強)
- ハ ○硫化カリウム 三〇、〇 粗製硫酸 一五、〇
海浴之レニ加フルニ動物性膠ニ五〇、〇乃至五〇〇、〇ヲ以テス
- (十) 石鹼浴
- イ ○常用石鹼 一〇〇、〇乃至四〇〇、〇
- ロ ○白色カリ石鹼 同上
- ハ ○芳香石鹼 同上
- ニ ○石鹼精 五〇、〇乃至一〇〇、〇
- (十一) 海水浴
- 食鹽 五〇〇〇、〇乃至八〇〇〇、〇 全身浴
- (十二) 芥子浴
- 芥子末 一〇〇〇、〇乃至二〇〇〇、〇 全身浴
右冷水ニテ攪捏シ後浴湯ニ混ス
- (十三) 曹達浴
- 炭酸ナトリウム 全身浴
局所浴 二〇〇〇、〇乃至五〇〇〇、〇
浴槽ニハ必ス桶ヲ用ユ
- (十四) 昇汞浴 浴槽ニハ必ス桶ヲ用ユ
イ ○昇汞 二、〇乃至一〇、〇 アルコホル 五、〇

水 二〇〇、〇

右調和全身浴

○昇汞 〇、一乃至〇、五以上一、〇

右局所浴

入浴時間 寒水浴ニハ四五分時冷水浴ニハ六七分時微温浴或ハ温浴ニハ二十乃至二十五分時熱浴ニハ十分乃至十五分時ヲ通例ナリトス

第九章 檢尿法

通常疾病ノ診斷上行フ可キ尿ノ檢査ハ左ニ示スガ如ク單純ノ定性分析ノミヲ以テ充分ナリトス然レドモ其精製ナランコトヲ要スルハ素ヨリ論ヲ待タザルナリ

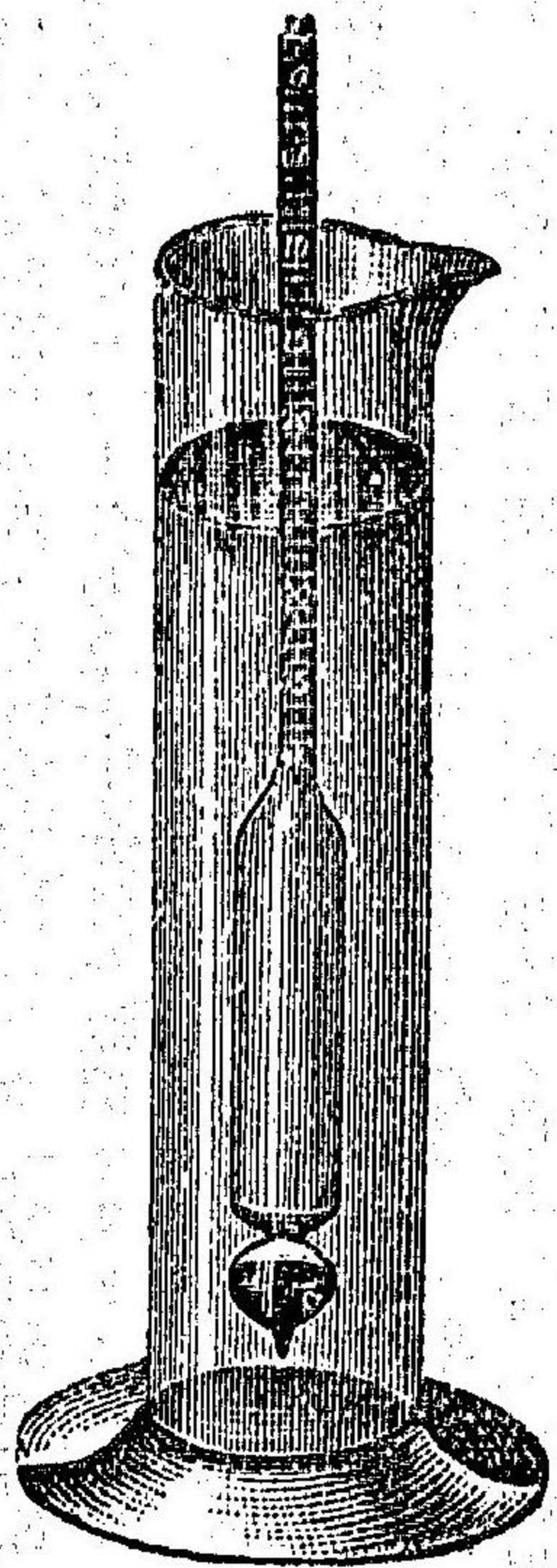
色尿 通常其稠度ニ關係ス、病的ニ諸種ノ色素ニヨリテ着色セラル、モノアリ、赤血球ヲ混ズルモノハ赤色ヲ呈シ(腎臟膀胱、尿道ノ出血、血色素尿モ亦同シ)膽汁色素ヲ混ズル尿(黄疸)ハ褐黄色又ハ帶綠色ヲ呈シ振盪ニヨリ黄色ノ泡沫ヲ生ズ、藥劑ノ吸收ニ因リテ來ルモノハ褐色乃至血赤色(大黃、センナ)帶黑色(石炭酸)ヲウルシ、レゾルチン、ナフタリン)其他キニーチ、アムチペリン、タルリン時トシテ「ズルフオナル」ノ内服ニ於テモ尿ニ著シキ種々ノ着色ヲ呈スルコトアリ、一般ニ熱性病ノ尿ハ暗色ヲ呈ス

尿色ノ稀薄トナルハ糖尿病、尿崩、慢性腎炎及貧血ニ來ル

反應 尿ハ其反應弱酸性ナルヲ常トシ、酸性ナルモノハ青色試験紙ヲ赤變シ、アルカリ性ナル者ハ赤色試験紙ヲ青變ス

沈渣 尿若シ沈渣ヲ含有スル乎或ハ濁濁スルトキハ先ツ其尿若干量ヲ硝子蓋(下方ノ細ク尖レル蓋ヲ最長ナリトス)中ニ盛リテ暫ク放置シ清濁上下二部ニ分界スルヲ待テ其上清澄部ヲ淘汰シ以テ下濁濁部即チ沈渣ヲ取り其性質ヲ檢ス(遠心器ヲ用ユレバ速カニ沈渣ヲ得)沈渣褐色ニシテ少許ノ稀薄アムモニア水ヲ

圖九十六第



計重比尿

加ヘ煮沸シテ清澄トナルトキハ其沈渣ノ尿酸ナルコト又單ニ水ノミヲ加ヘ熱シテ其清澄トナルヲ認メバ其尿酸鹽ナルコトヲ知ル可キナリ其他ノ混合成分ニシテ沈渣中ニ含有スル有形物ハ顯微鏡ヲ以テ之ヲ檢スベシ
比重 尿ノ比重ハ一〇一八乃至一〇二二ニシテ病的比重一〇〇二(多尿症)乃至

一〇四〇(密尿病)ナリ之レヲ計ルニハ尿比重計(ウロメテル)ヲ用ユ
受驗尿ヲ圓筒ニ盛リ比重計ヲ其内ニ沈メ其刻度ヲ檢スベシ但シ泡沫アルトキハ之ヲ除クベシ濾過ヲ必要トスルトキハ先ツ之ヲ行フベシ
尿ノ比重ニ由リテ一〇〇〇立方仙迷ノ尿中ニ於ケル固形成分ノ量ヲ算シ得ルノ法アリ即チ比重ノ終末ノ二數字ニヘ一セル氏數二・三三ヲ乘スルトキハ固形成分量ヲ得ベシ

蛋白

第一 検査スルノ法ニ種々アリ即チ左ノ如シ
煮沸硝酸試驗法 凡ソ尿十五ヲ試驗管ニ盛リ(酸性ナラザルトキハ一滴ノ稀醋酸ヲ加フ)之ヲ熱シテ煮沸スルニ至ルベシ煮沸スルモ透明ナルトキハ蛋白ヲ含有セス若シ濁濁ヲ生ズルトキハ之レニ(硝酸凡ソ尿量ノ十分ノ一)ヲ加フベシ而シテ濁濁尙ホ依然トシテ存スルトキハ蛋白存在ノ徵アリ(若シ其沈渣燐酸土類ノミナルトキハ煮沸シテ濁濁ヲ生ズト雖モ硝酸ヲ加フルトキハ直ニ消失ス)

第二

醋酸芒硝試驗法(バーナム氏法) 該法ハ尿ヲ試驗管ニ盛リ醋酸二三滴ヲ滴下シ尿量ニ同シキ芒硝溶液ヲ加ヘテ熱スベシ蛋白存在スルトキハ濁濁或ハ沈渣ヲ生ズ

第三

醋酸黄色血濁試驗法 該法ハ約十立方仙迷ノ尿ヲ試驗管ニ盛リ之ニ純醋酸十滴ヲ加ヘ(ムチン或ハ「マク」レオアルブミン)ノ爲メ濁濁ヲ生ズル

トキアリ此ノ際ハ之レヲ濾過スベシ。次ニ五%ノ黄色血濾液ニ二三滴ヲ滴下シ暫時放置スルトキハ蛋白ハ白色濁ヲ形成ス該法ハ便利ニシテ且ツ確實ナリ

第四 冷硝酸試験法(ヘルレル氏試験法) 該法ハ細キ試験管中ニ先ツ五瓦許ノ硝酸ヲ盛り更ニ少管(Pipette)ヲ用井テ尿ヲ徐カニ點入スベシ尿中蛋白ヲ含ムトキハ兩液上下接際ニ白色ノ濁ヲ生ズ

第五 ガリツペ氏試験法(ピクリン酸試験法) 該法ハ尿ニエスバツハ氏試験液ヲ加フルニアリ(エスバツハ氏液ハピクリン酸一〇、〇枸橼酸二〇、〇鹽水一〇〇〇)ヲ混シ微温ニ於テ徐ニ溶解ス(蛋白ヲ含ムトキハ直ニ濁ヲ生ズ但シ該法ハ尿中ニ「キニト子、タルリン、アンチピリン及ピ「カリウム鹽ヲ含ムトキハ用エベカラス

第六 硫基撒酸試験法 二十%ノ硫基撒酸液ハ各種ノ蛋白ノ少量ニ對シテモ濁ヲ生ズ

蛋白之定量 エスバツハ氏蛋白計ニヨリテ之ヲ測定ス即チ蛋白計ノUト記シタル處迄テ尿ヲ盛り試薬(ピクリン酸一、〇枸橼酸二、〇鹽水一〇〇〇)ヲRノ記號迄テ加ヘ一二回振盪シ蓋ヲナシ二十四時間室内ニ(室温攝氏十八度ヲ下ルベカラス)放置シテ沈澱ノ量ニヨリ蛋白ノ量ヲ測定ス即チ各畫線ノ數字ハ一〇〇〇、〇ノ尿ニ存在スル「一瓦ノ蛋白」ヲ意味ス故ニ

例ハバニニ至ラバ〇、二%即チ二瓦ニ至ラバ〇、三%即チ三瓦ナリ
エスバツハ氏蛋白計

圖十七第



本定量法ヲ用エルトキハ左ノ件ニ注意スベシ

- (一) 一日中ノ尿ヲ一器ニ貯ヘ十分之レヲ攪拌シタル後用ニ供スベシ
- (二) 室温ハ十八度以下ニ下ルベカラス
- (三) キニト子、タルリン、アンチピリン及カリウム鹽ヲ尿中ニ含ムトキハ用エルコト克ハス
- (四) 〇、七%以上ノ蛋白アルトキハ尿ヲ二倍若クハ三倍ニ稀釋シテ用ユベシ

糖分検査法

第一 トロンメル氏法 試験管ニ約十五ノ尿ヲ入レ其三分ノ一即約三五ノ十%カリ油汁ヲ加ヘ次ニ五%硫酸銅液ヲ滴下シ且ツ振盪シ淡青色ノ沈澱全ク溶解スルノ間ハ此ノ滴下ト振盪トヲ反覆シ新滴下ノ爲メニ生シタル沈澱

附錄 檢尿法

振盪スルモ溶解セザルニ至ルヤ火焰ヲ以テ徐々ニ液ノ上部ヲ温ムベシ
(煮沸スベカラズ)糖分存在スルトキハ液ノ上部黄赤色ノ沈澱ヲ生ズ此ノ
變色發現スルヤ直チニ加温ヲ止ムベシ加温ヲ止メタル後モ尙ホ變色ハ液
ノ下層ニ向ヒテ蔓延スベシ

トロンメル氏法ノ簡畧法ハ數立方仙迷ノ尿ヲ試験管ニ入レ之ヲ煮沸シ之
レニ二倍ニ稀釋セルフエリンガ液ノ同量ヲ加フ糖存在スルトキハ黄赤色
ヲ呈ス(但シフエリンガ液ノミニテ該變化ヲ呈スルコトアルヲ以テ豫メ
試験前ニ該液ヲ検査シ置ケベシ)

第二 ニーランド氏法 尿ニ其容積十分ノ一ノニーランド氏液ヲ加ヘテ煮
沸ス糖存在スルトキハ黒色或ハ褐色ヲ呈ス

酒石酸カリウムナトリウム 四、〇
一〇%ナトロン液 一〇〇、〇

右ヲ少シク温メツ、之レニ加フルニ
次確着 二、〇

右冷却後濾過ス(ニーランド氏液)

第三 モール氏法 尿ニ其三分ノ一、一〇%カリ滴汁ヲ加ヘ液ノ上部ヲ煮沸ス
ベシ糖アルトキハ褐色ヲ呈ス
其他醱酵法、ベツチエル氏法、ルアネル氏法アリ

エーリッヒ氏チアツク反應 本法ニハ二種ノ試薬ヲ要ス即チ(甲液)ハ
ニールフアニール劑一、〇鹽酸一〇、〇鹽水二〇〇、〇(乙液)硝酸ナトリウム〇、

五鹽水一〇〇、〇ナリ今甲液(二〇、〇)ニ乙液三滴ヲ混シ之レヲ十五(一〇、〇)
ノ尿ニ混シ更ニ其容積ノ八分ノ一アンモニアヲ加ヘ強ク振盪スルトキハ其泡
沫及液ハ深赤色ヲ呈ス特ニ其泡沫ノ赤色ナルヲ特異トス

エーリッヒ氏チアツク反應ヲ呈スルモノハ腸管扶斯、肺炎、麻疹、肺結核ノ重
症等熱アル病ナリ但シ本反應ハ腸膜炎ニハ欠如ス

血色素 尿ニ約三分ノ一ノカリ滴汁ヲ加ヘテ強アルカリ性トナシ之ヲ熱スル
トキハ血色素ハ燐酸土類ト共ニ沈澱シテ赤色或ハ褐色ヲ呈シ且ツ綠色樣ノ光

澤ヲ帶ブ但シ尿酸ノ爲メニ赤色ヲ帶フルトキハ「ナトロン滴汁」ニ由テ褐色ス

膽色素 (一)グメリン氏ピリルビン試験法先ツ試験管ニ尿ヲ盛り而シテ徐カ
ニ其上ニ注グニ發烟硝酸二三滴ヲ加ヘタル硝酸ヲ以テスベシ若シ膽色素ノ存在

スルニ於テハ上下兩液ノ接際ニ綠、青、紫、紅、黄ノ色輪ヲ順次ニ呈現スルモノナ
リ殊ニ綠色ヲ最モ著シトス或ハ吸墨紙片ヲ尿中ニ浸シ之ニ一滴ノ硝酸ヲ點スル

モ亦以テ其彩色ヲ檢シ併セテ膽色素ノ存在ヲ知ルニ足ル

(二)試験管ニ半バ尿ヲ容レ少量ノ「グロ、フオルム」ヲ加ヘ振盪シ之ヲ靜置スレ
バ「グロ、フオルム」ハ黄色トナリテ沈降ス

(三)「ヨード」ヲ幾ナ加ブレバ綠色ヲ呈ス

膽汁酸 先ツ吸墨紙ヲ線條ニ剪ミ之ヲ少許ノ蔗糖ヲ加ヘタル尿中ニ浸シテ更ニ乾燥シタル後之ニ一滴ノ硫酸ヲ貼スベシ若シ膽汁酸ノ存在スルニ於テハ美麗ナル紫色ヲ呈スルモノナリ或ハ尿中ニ少許ノ糖分ヲ加ヘテ之ヲ磁器中ニ乾燥セシメ而後一滴ノ硫酸ヲ加ヘ之ヲ廻旋スルモ亦可ナリ

インヂェカン反應 尿ニ同量ノ鹽酸ヲ加ヘ一滴乃至三滴ノ飽和クロール石灰溶液ヲ滴スレバ初メ赤線終ニ鮮青ヲ呈ス之ニ「クロ、フオルム」ヲ加ヘ振盪スレバ「クロ、フオルム」青色トナル

○第十章 胃病ノ診斷法

第一 視診、觸診、打診及ヒ聽診

胃ノ疾患アルモノニシテ其腹壁非薄ナルトキ若シ胃著ルシク膨滿スルカ或ハ胃ノ前壁ニ腫瘍ノ發生アルトキハ視診ニ由テ或ハ腫瘍ノ形狀等ヲ診斷シ得ルコトアリ幽門部ニ障礙ノ存在スルトキ或ハ胃ノ神經性疾患ニ於テ胃ノ蠕動ヲ視ルコトアリトス○觸診ニ由テ知リ得ルトコロノモノハ疼痛ノ有無胃ノ腫瘍性狀等ナリ

○打診及ヒ聽診ハ診斷上大ナル價值ヲ有セズ

第二 胃ノ膨脹法

胃ノ膨脹法ハ胃ノ位置、大小形狀ヲ明ラカニシ其他腫瘍ノ診斷ニ用ユ先ツ患者ニ半茶匙ノ酒石酸ヲ一盞ノ水ニ溶解シテ之レヲ服用セシメ次ニ一茶匙ノ重曹ヲ又一

盞ノ水ニ溶解シ之レヲ服用セシム然ルトキハ炭酸瓦斯ヲ發生シテ胃ヲ膨脹セシム該法ハ甚ダ簡便ナルヲ以テ汎ク用井ラル、モノナリ然レドモ胃消息子ヲ用井胃中ニ空氣ヲ送り膨脹セシムルノ法ヲ優レリトス膨脹シタル胃ハ視診及ヒ打診ニ由テ明カニ檢シ得ベシ

第二 吸收力検査法

朝時胃ノ空虚ナル時ニ際シ沃割○、ニヲ容レタル膠囊ヲ内服セシメ之レヨリ每一分時ニ唾液ヲ以テ澱粉紙ニ浸シ硝子棒ヲ以テ發烟硝酸一滴ヲ滴下スベシ硝酸ニ由テ澱粉紙ノ赤變若クハ青變シタルトキハ沃割ノ既ニ吸收セラレテ唾液中ニ循環シ來リタルコトヲ證ス健康時ニアリテハ十分乃至十五分ニシテ已ニ此反應ヲ認ムベシ胃ノ疾患例セバ胃痛ニアリテハ吸收ニ一時間餘ヲ要スルコトアリ(澱粉紙ハ糊狀ニ溶解セル澱粉液ニ濾紙ヲ浸ス之レテ乾燥シテ製ス)

第四 運動力検査法

患者ニ検査食餌(米飯二三碗、味噌汁一碗、鶏卵一個)ヲ與ヘ六時間ノ後消息子ヲ送入シ患者ヲシテ努責セシムルトキハ胃内内容物ハ消息子ノ上端ヨリ流出スベシ若シ流出スル物ナキトキハ漏斗ヲ消息子ニ挿入シ微温湯ヲ胃中ニ注入シ其充滿スルヲ待テ指ヲ以テ消息子ヲ壓迫シ漏斗チ一器上ニ傾置シ然ル後壓迫ヲ除ケバ微温湯ト共ニ胃ノ内容物ハ該器中ニ流出スベシ食物尙ホ胃中ニ滞留スルトキハ運動力ノ減少シタルコトヲ知ルベシ運動力ノ減少ハ胃痛胃擴張症等ニ發ス

第五 胃液検査法

化學的診斷ハ胃病ノ診斷及ビ治療上缺クベカラス
 胃ノ内容物ハ第一嘔吐物トナリ第二ニハ故意ニ攝取セラレタル液トシテ化學的檢
 査ノ用ニ供セラルル故意ニ胃ノ内容ヲ攝取スルニハガーゼル氏ノ法ニ從ヒ柔軟ナル
 ゴム管ヲ挿入スベシ而シテ診斷上ノ検査ニハ常ニ同一ノ食物ヲ與ヘ同一ノ時間ニ
 於テ之レヲ攝取検査セザルベカラズ
 此検査ヲ行フニ當リ患者ニ食セシムルトコロノ食品ハ諸家各其擇ミヲ異ニス
 第一エワルド氏朝餐ハ一椀ノ茶及ビ三五〇乃至七〇〇ノ白麵包ヲ毎朝空腹時ニ
 食セシメ一時間後胃ノ内容ヲ攝取スルニアリ
 第二リーゲル氏晝食ハ正午ソツプ一椀ビステッキ及ビ白麵包ヲ食シ五時間乃至七
 時間後内容ヲ攝取スルニアリ
 攝取シタル内容物ノ検査ハ理學的性質其反應確定後ニ於テ胃ノ固有ナル分泌液ノ
 證明ニ及ビ又食シタル營養物ノ變化如何ヲ觀察スルモノトス而シテ内容物ヲ濾過
 シ其濾過紙上ニ殘留シタル物體ニハ顯微鏡検査ヲ施スベシ
 正規ノ胃液ハ生理的的必要ナル遊離鹽酸ヲ含有ス蓋シ遊離鹽酸ノ存在スル際ニノミ
 「ペフシン」ハ其作用ヲ營ムコトヲ得レバナリ故ニ遊離鹽酸ノ有無ハ検査ノ最要點
 ナリ

○遊離鹽酸ノ検査法

遊離鹽酸ノ検査ハ二箇ノ試験ニ由テ精確ニ之レヲ結了スルヲ得ベシ
 第一コンゴール紙 ハ〇、〇一%以上ノ遊離鹽酸アルトキハ青變ス
 第二メチール紫 ハ〇、〇二四%ニテ青變ス弱紫色液ヲ製シ之レヲ兩分シテ二ツ
 ノ試験管ニ入レ其内一管内ニ被檢液ヲ加フ遊離鹽酸アルトキハ青變ス其變色ハ他
 ノ管ト比較シテ定ムベシ
 第三トロペオリン試験 トロペオリンハ〇、〇二五%以上ノ酸ニテ褐變ス〇先ツ
 胃ヨリ攝取シタル液ヲ濾過シ置キ陶器小皿ニ「トロペオリン飽和アルコホル液」二
 三滴ヲ滴下シ之レニ彼ノ濾過液ノ二三滴ヲ加フベシ即チ遊離鹽酸ノ存在ニ當テハ
 黄色ナル液ハ變シテ褐色トナル而シテ小火燭ニ皿ヲ注意シテ蒸發スレバ蒸發シ殘
 リタル液ノ線ニ於テ青色ノ部ヲ認ム
 携帶ニ便センガ爲メ「トロペオリン液」ヲ製シタル濾過紙ヲ試験紙トナスモ可
 ナリ此試験紙ハ濾過液ヲ以テ濕潤セラルレバ先ツ褐色ニ變シ之レヲ熱スレバ青色
 ニ變ズ
 第四ギエンツアルグ氏 反應藥ニハ左方ヲ用ユ
 フロトガルチン 二、〇
 ワニリン 一、〇

純粹アルコホル 三〇、〇

右混和試薬ハ〇、〇〇五%以上ノ遊離鹽酸アルトキハ赤變ス

此試驗ニ於テモ亦第一試驗ノ如ク同一ノ方法ヲ用ユ而シテ蒸發後其緣ニ於テ赤色ヲ呈スルハ遊離鹽酸ノ存在ヲ證スルナリ鹽酸ナキトキハ褐色
此反應ニ於テモ亦第三ノ如ク「フロ、ゲルチン、ロニリン紙ヲ製シ反應紙トシテ用ユルヲ便トス此反應ハ最モ確實ナリ

○乳酸ノ検査法

乳酸ハ鹽酸ニ次テ胃病化學的診斷ニ檢スベキモノナリ

(第一)過クロール鐵液ノ極メテ稀薄ナル(液其黃色ヲ知リ克ハザル)モノニ濾過液ノ一二立方仙迷ヲ加ヘ黃色ヲ呈スルハ稀多量ノ乳酸アルノ證ナリ

(第二)過クロール鐵石炭酸ノ青色液ニ第一ト同法ヲ用井テ等シク黃色ヲ呈ス過クロール鐵石炭酸液ハ左ノ如シ

- 四%石炭酸 十立方仙迷
- 蒸餾水 二十立方仙迷
- 過クロール鐵液 一滴

右混和

其他胃液内ニ病理的特ニ産出シ來ルトコロノ酸ハ醋酸及ビ牛酪酸ナリ共ニ固有ノ

臭氣ニ由テ其存在ヲ知ラシムルモ精密ナル化學的ノ證明ハ極メテ複雑ナル手數ヲ要スルモノナリ

以上諸種ノ酸類及ビ酸性燐酸鹽ノ少量ハ合シテ胃液ノ酸性反應ヲ呈出セシムルモノニシテ之レヲ總括シテ胃内容物ノ總酸性力ト云フ而シテ其變化ハ診斷上治療上共ニ重要ナル位置ヲ有スルモノナリ

○總酸性力ノ検査

十立方仙迷ノ濾過液ニ一%ノ「フェノールフタレイン」アルコホル溶液ノ一二滴ヲ加ヘ次ニ「ビュレット」ヲ以テ十分ノ一定規アルカリ液ヲ加ヘテ中性若クハ弱アルカリ性トナシ其中和後アルカリ液ノ一滴ニテモ加ハル、ヤ否ヤ忽チ無色ノ液ハ變シテ蔷薇紅色トナルベシ

該アルカリ液ノ立方仙迷ハ〇、〇〇三六五ノ鹽酸ヲ中和スルモノナルガ故ニ其液ノ分量ニ由テ十立方仙迷内ニ含有スル酸ノ量ヲ算出シ得ベシ即チ該液ノ立方仙迷ノ數ニ〇、〇〇三六五ヲ乘スベシ

今得タルトコロノ總酸性力幾部分ハ鹽酸ニ屬シ幾部分ハ他ノ酸類ニ基ツクモノナルガ故ニ之レヲ區別セザルヘカラズ然レトモ其精密ナル成績ヲ得ルニハ種々ノ裝置ヲ要スルヲ以テ其概略ヲ知ルヲ以テ足レリトセザルベカラス

○鹽酸ノ定量法

ゴアス氏ハ「コンゴ赤」ノ溶液ヲ用ニ即チ十立方仙迷ノ濾過液ニ「コンゴ赤」ノ溶液ヲ加ヘ青色トナシ後十分定規アルカリ液ヲ青色ノ消失スルマテ滴下ス而シテ今滴下シタル液ハ遊離鹽酸ヲ中和スル爲メニ使用セラレタルナリ何トナレバ「コンゴ赤」ヲ青變スルモノハ遊離鹽酸ニシテ他ノ酸類ハ唯僅ニ影響スルニ過ギザレバナリ此際用井タル「アルカリ液」ノ者ハ遊離鹽酸ノ酸性力ヲアラハスモノナルガ故ニ總酸性力ノ内ヨリ之レヲ減シタルモノハ即チ他ノ酸類ノ量ヲアラハスモノナリ

○ペプシネ及ラーブノ検査

（ペプシ子及ラーブ醗酵素ノ検査）次ニ検査スベキモノハ醗酵素即チ「ペプシ子」ト「ラーブ」醗酵素ノ二種ナリトス其法先ヅ煮タル蛋白ノ小片ヲ内容ノ十五立方仙迷ヲ盛りタル試験管ニ投シ三十七度乃至四十度ノ重湯煎内ニ入ルレバ暫時ノ後液内ニ「ペプトリン」ヲ證明シ得ベシ「ラーブ」醗酵素ハ中和セル胃液ノ一二立方仙迷ヲ同量ノ牛乳ニ加ヘ三十七度乃至四十度ノ溫度ヲ保タシムルコト十乃至十五分間ナレバ「ラーブ」ハ牛乳ヲ凝固セシム
「ペプトン」ノ検査ハ檢液ヲ強アルカリ性トナシ之レニ稀薄ノ硫酸銅液ヲ靜カニ漸次注入スレバ「ペプトン」ノ存在ニ因テ兩液境界ニ於テ赤色ノ輪ヲ生ズ

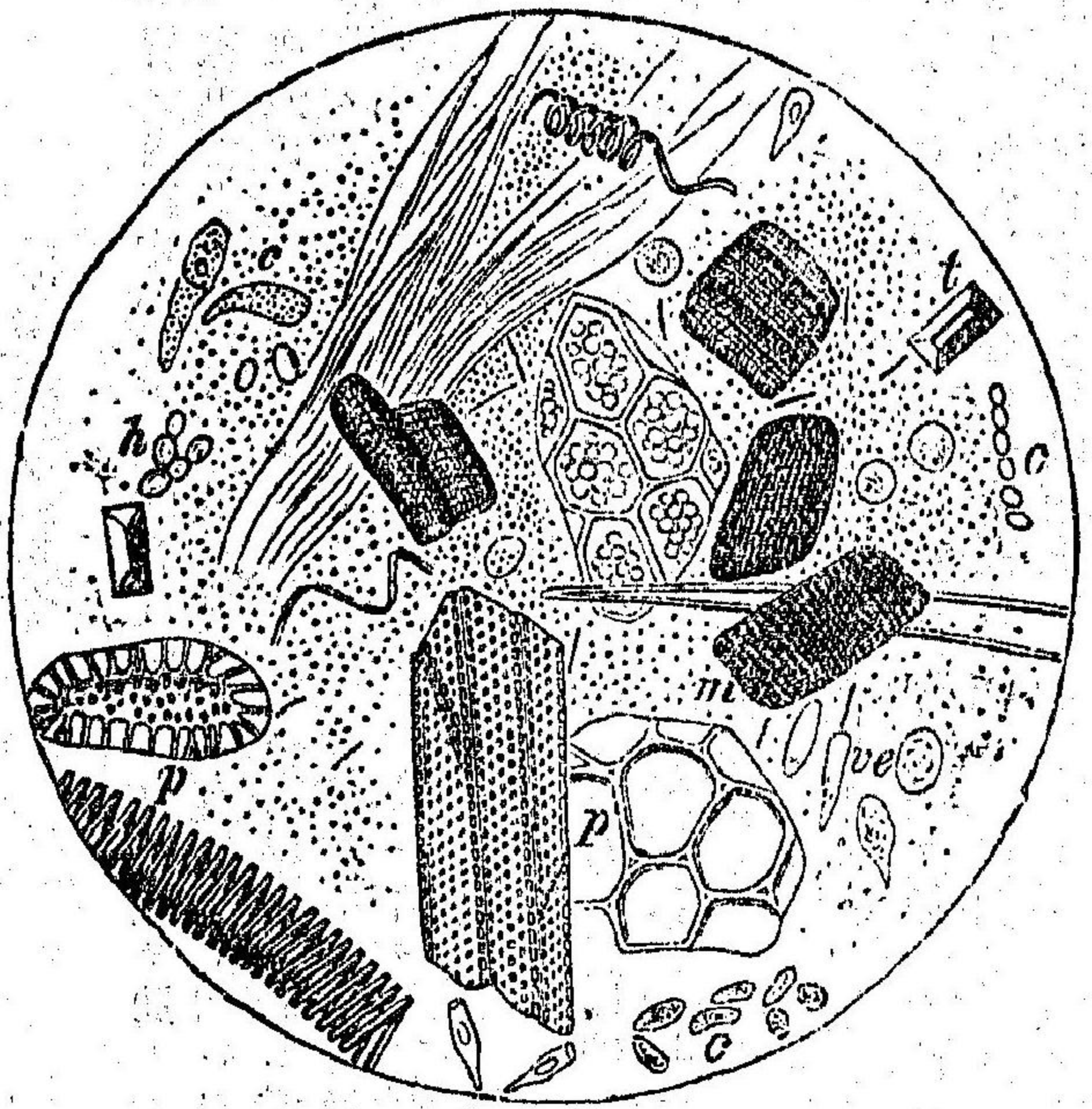
○嘔吐物ノ検査

嘔吐セル胃ノ内容物ハ其理學的性質ニ由テ又診斷ヲ助クル者ナリ乃チ膽汁ヲ混ズルモノハ綠色若クハ黃綠色ヲ呈シ新鮮ナル血液ヲ混ズルモノハ鮮紅色ニシテ久時ヲ經タル血液ヲ混ズルモノハ汁粉ノ如キ色ヲ呈ス此時ニ當テ其果シテ血液ナルヤ否ヤヲ證明スルニハ嘔吐物ノ少量ニ「エーテル」ヲ加テ濾過シ以テ脂肪ヲ除キ而シテ後遺殘物ヲ載物硝子上ニ置キ水酸及ビ食鹽ヲ加ヘ「ダイヒマン」氏ノ「ヘミン」結晶ヲ製スルコトヲ求ムベシ其他尙ホ嘔吐物ノ臭氣ヲ詳カニセサルベカラズ蓋シ糞臭ヲ放ツモノ吐糞タルヲ證スレバナリ
化學的検査ニ次テ又顯微鏡的検査ヲ必要トス乃チ食物消化狀態ニ由テ胃ノ如何ヲトシ小有機體ノ多量ニ存スルコト「サルチ」ノ存在ハ共ニ胃内容物異常ノ醗酵及ビ滯溜ヲ證明スルモノナリ（第七十一圖）ヲ見ヨ

○化學的診斷ノ應用

普通ノ鹽酸含有量即チ大凡二%ハ胃粘膜ノ深ク障害ヲ被ムラザルコトヲ示シ爾餘ノ症候ト共ニ慢性胃加答兒ト神經性胃病トノ鑑別ヲナサシムル者ナリゴアス氏ハ二%以上ノ鹽酸含有ハ又胃粘膜疾病ノ大ナラザルヲ證スルモノニシテ多クハ神經性胃病又ハ胃潰瘍ニ於テ之ヲ見ル

第七十一圖



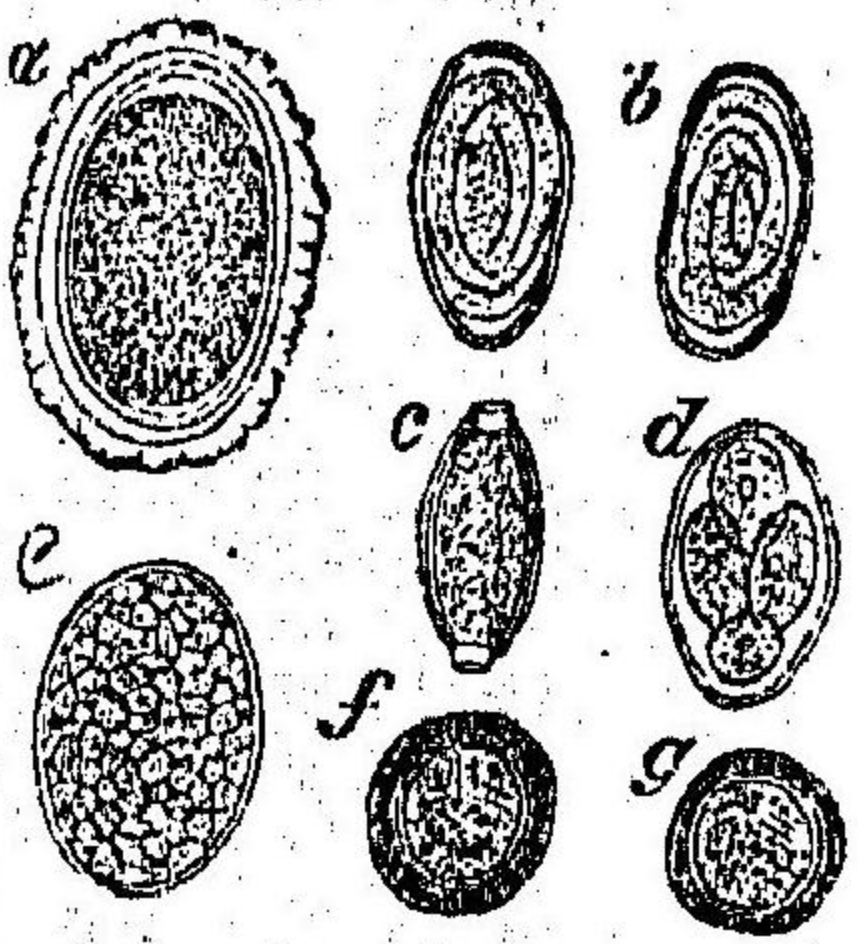
糞便ノ顯微鏡所見
 (三百五十倍)
 m 筋纖維
 e 腸上皮
 ve 其凝收シタル者
 (ノートナーゲル氏)
 c クロストリヂム氏
 h 酵母
 p 植物細胞
 t 磷酸マグネシウム
 μ アンモニウム
 結晶

鹽酸含有量ノ少キト鹽酸ノ缺乏トハ胃粘膜全部ノ疾患ヲ證スルモノニシテ多クハ慢性胃加答兒稀ニ胃潰瘍ニ於テ之レヲ見ル胃痛ニ就キテハ鹽酸ノ缺乏ヲ以テ之レヲ證スルコト能ハズト雖トモ鹽酸ノ每常缺乏スルハ胃痛ノ疑ヲ起スニ足ルモノニシテ他ニ胃痛ノ症候アレバ確診スルニ足ル(貧血、惡液質等ニ鹽酸ヲ欠乏スルコトアリ)
 朝餐後多量ニ鹽酸ヲ分泌スルハ又胃痛ノ疑アルモノナリ其他ノ場合ニ於テハ胃内異常ノ發酵ヲ示スニ過ギズ
 總テ化學的診斷ハ胃病診斷ニ當テ缺クベカラザルモノナリト雖トモ決シテ此検査而已ヲ以テ胃病如何ヲ診斷スベカラズ必ズヤ此試驗ノ外ニ尙ホ他ノ胃病診斷法ヲ並用シテ而シテ後ニ始メテ其全斑ヲ決スベキナリ

○第十一章 糞便ノ顯微鏡的検査

- 健胃體ノ糞便顯微鏡所見ハ第七十一圖ノ如シ
- 腸寄生蟲アルトキハ各其卵ヲ發見ス其形狀次ノ如シ
- 腸壁扶斯、虎列拉、腸結核ニハ各其固有ノ細菌ヲ發見ス

圖二十七第



a 蛔蟲卵
 b 蟻蟲卵
 c 鞭蟲卵
 d 十二指腸蟲卵
 e 裂頭絛蟲卵
 f 無鈎絛蟲卵
 g 有鈎絛蟲卵

○第十二章 細菌検査法總論

細菌ノ有無ヲ檢スルニ際シテハ先ツ顯微鏡ヲ用非「バクテリア」ノ存在ヲ探リ細菌ノ存在スルニ當テハ其形體的性質ヲ知リ次ニ之ヲ人工培養基ニ培養シ以テ彼ノ生理學上性質ヲ研究セザル可カラズ次ニ動物體外ニ於テ培養セル細菌ヲ適當ナル動物ニ接種シ同種ノ病態ヲ呈スルヤ否ヤヲ證明スベシ然レドモ實地醫家ハ大抵以上三検査中顯微鏡検査ヲ以テ満足セザル可カラズ顯微鏡検査而已ヲ以テ不充分ナル場合ニ於テノミ(虎列拉、望扶斯、實扶的里)培養法ヲ用ユベシ而シテ動物試驗ハ開業醫ニ於テハ實際之レヲ行フコト難シ

○染色ヲ用キズシテ細菌ヲ檢スルノ法

「バクテリア」ハ自然的狀態即チ染色セザルモ視ルコトヲ得ルモノアリ或ハ染色ニ由テ始メテ觀察シ得ベキモノアリ細菌ヲ自然ノ有機ニテ檢セント欲セバ瓦斯或ハ酒精燈火ヲ以テ熱灼シ而シテ冷却シタル白金線ヲ以テ檢知セント欲スル液體ノ一滴或ハ被檢物一小部ノ殺菌セル水中ニ摩碎セルモノヲ清潔ナル被蓋硝子上ニ置キ次テ之レヲ載物硝子上ニ載セ全體ヲ顯微鏡下ニ致スベシ細菌ノ壓迫ニ由テ生ズル所謂ブローン氏分子運動ヲ避ケンガ爲メ非染色性細菌ノ検査ハ懸滴法ノ儘施スヲ宜シトス其法試檢液ヲ滴下シタル被蓋硝子ハ其滴ヲ有スル側面ヲ下方ニ向ケ陷凹載物硝子ノ凹窩内ニ置クベシ尤モ此液ノ蒸發ヲ防グ爲メニハ豫メ黃色ワゼリンヲ凹窩縁ニ塗布シ置カザル可ラズ

○染色液ノ製法

細菌ヲ染色スルニ要スル色素ハ鹽基性色素就中大概ハ「フクシン、ゲンチアナピチレット、メチレン青」ナリ通常母液下シテ該色素ノ濃厚アルコール溶液ヲ製ス

(第一)	フクシン	一五、〇	アルコール	一〇〇、〇
(第二)	ゲンチアナ紫	七、〇	アルコール	一〇〇、〇
(第三)	メチレン青	五、〇	アルコール	一〇〇、〇

水製アニリン溶液ヲ製スルニハ母液一分ニ蒸餾水四分ヲ加フ通常時計硝子ニ盛リタル餾水ニ六乃至八滴ヲ加フレバ可ナリ

紫色色素ハ最モ強ク染色スルモノナルモ蛋白質含有スル物體ニ於テハ反テ「メチレン」アラウ「チ」賞用ス此色素ハ血清膿清等ヲ染色スルコト微弱ニシテ「バグ」テリア及ビ其他有形成分ヲ著シク顯著ナラシムルモノナレバナリ

「バグ」テリア「ハ」大概該色素ヲ數分時間内ニ吸收スルモノナルモ尙ホ「ア」ニリン色素ノ染色力ヲ増加セシムル「ト」ヲ要スル場合少カラズ之レ染色ノ時間ヲ短縮シ或ハ該色素ヲ吸收セザルトコロ「バグ」テリア「チ」モ尙ホ染色シ得ルノ利益アリ染色力ノ増加ハ長時間作用セシムル「ト」他ニ色素液ヲ熱シ若クハ一定ノ化學的物質ヲ加ヘ或ハ「ニ」ツナガラ共ニ之ヲ用ユルニ由テ得ルモノナリ此目的ニ使用スル化學品ハ次ノ藥品ヲ以テ最良トス即チ「カ」リアニリン油、石炭酸及炭染劑(明礬及ビ「タン」ニ)ナリ是等ノ藥品ヲ加ヘテ製スルトコロ「ト」色素溶液ハ實地ニ於テ最モ多ク使用ス

第一「レ」ツフレル氏アルカリ性メチレン青溶液
三十立方仙迷ノ濃厚アルコホル製メチレン青溶液ト百立方仙迷ノカリ(〇、〇一%)溶液ヲ混ズ此液ハ久時貯フルモ變化スルコトナキヲ以テ實用的ノ便益アリ

第二(甲)「エ」ールリツヒ氏アニリン水溶液

該液ハ濃厚アニリン水溶液ト濃厚アルコホル製「フ」クシン或ハ「ゲ」ンチア

ナ溶液ヲ混合シタルモノナリ「ア」ニリン溶液ヲ製スルニハ五立方仙迷ノアニリン油ヲ百立方仙迷ノ水ニ和シ強ク振盪シ後水ヲ以テ濾シタル濾過紙ヲ用井テ之ヲ濾過シ水様透明ノ濾過液(アニリン水)ニ「チ」パレスツエ「ン」ツ「チ」明ラカニ呈スルマ「フ」クシン或ハ「ゲ」ンチア「チ」ビ「チ」レツト「ノ」濃厚アルコホル溶液ヲ加フ可シ而シテ「ア」ニリン水ハ容易ニ分解スルモノナルガ故ニ毎回用ニ臨ンテ新タニ之レヲ製スルチ可トス該液ヲ保存センニハ十%ノ純粹アルコホル「チ」加フ「セ」數日間貯フルチ得

(乙)「レ」ツフレル氏アルカリ性アニリン水溶液

該溶液ハ「エ」ールリツヒ氏アニリン水百立方仙迷ニ水酸化ナトリウム「レ」一%溶液一立方仙迷ヲ加ヘテ「ア」ルカリ性トナシ後固形色素ノ四乃至五%ヲ加ヘ強ク振盪シテ製ス而シテ用ニ臨ミ染色スベキ被蓋硝子上ニ其二三滴ヲ濾過ス此強力染色液ハ一週間分解ノ憂ナクシテ貯フルコトヲ得ルモノナリ

第三石炭酸溶液

(甲)「チ」ール氏溶液 (石炭酸「フ」クシン溶液)

「フ」クシン 一、〇〇 純アルコホル 一〇〇、〇〇
結晶石炭酸 五、〇〇 餾水 一〇〇、〇〇 (久シク貯フルコトヲ得)

(乙)「キ」エー「チ」氏石炭酸メチレン青液即チ左ノ如シ

メチレン青 一、五
 アルコホル 一〇〇、〇
 結晶石炭酸 五、〇
 餾水 一〇〇、〇
 メチレン青ヲ乳鉢内ニ入レ一〇、〇ノ純アルコホルヲ注キ後五%石炭酸
 水ヲ徐々ニ加ヘ強壓ヲ避ケテ輕ク摩擦溶解ス需用多カラザル場合ニ於テハ
 半量ヲ製スルヲ便ナリトス蓋シ久シキヲ經ルニ從ヒ染色力モ亦隨ツテ減少
 スレバナリ

○デツクグラス乾燥プレバライト染色法

總テ液體内ノ「バクテリア」ヲ檢セント欲スレバ先ヅ瓦斯或ハ酒精燈火焰内ニテ白
 金線(或ハ白金線先端ヲ鐮子ニテ彎曲セシメタルモノ)ヲ熱シ其紅熾シタル後之レ
 ナ冷却シ該白金線ヲ以テ檢査液ノ一滴ヲ取リ全然清潔ニシテ殺菌セル被蓋硝子板
 上ニ之ヲ擴ゲ或ハ二個ノ被蓋硝子間ニ彼ノ滴ヲ置キ輕壓シテ相對スル二個ノ被蓋
 硝子面ニ液ヲ蔓延セシメ注意シテ鐮子ニテ之ヲ離シ而後被蓋硝子ヲ氣中ニテ乾燥
 セシメ或ハ火焰上ノ溫空氣内ニテ注意シテ乾燥シ板上ニ乾燥シタル層ヲ上面トナ
 シ瓦斯或ハ酒精燈火焰上ヲ三回通過セシム此標本ヲ染色スルニハ固着セル層ヲ下
 面トナシ時計硝子内ニ盛リタル染色液中ニ入レ或ハ「ピペット」ヲ以テ固着層ヲ上
 面トセル硝子板上ニ一二滴ノ「アニリン」染色液ヲ滴下ス後數秒乃至數分時ヲ待テ
 剩餘ノ色素ヲ水ニテ洗去シ濾紙ニテ被蓋硝子板ヲ拭ヒ乾燥セシメテ鏡檢ノ用ニ供

ス又「ナイセル」氏ニ從ヒ「カヘエ」クトグラス上ニ直チニ液ヲ乾燥セシムルヲ便ト
 スルコトアリ

血液中ノ「バクテリア」ヲ檢スルニ當リハ血球及ビ血漿共ニ染色シ大ニ其檢査ヲ妨
 害ス故ニ此障害ヲ避クルニハ「ギエン」氏法ヲ常用ス其法乾燥固定セル血液「プ
 レバライト」ヲ一乃至五%ノ醋酸溶液ニテ洗滌シ「ヘモグロビン」ヲ除去シ又血
 球ノ大部分ヲ洗ヒ再ビ「プレバライト」ヲ乾燥セシメ通常ノ法ニ從ツテ之レヲ染色
 ス之レニ由テ「バクテリア」ハ獨リ染色セラレ血球ノ妨害ヲ蒙ルコトナシ但シ
 血液ノ被蓋硝子板上ニ乾燥シテヨリ久時ヲ經タルモノハ醋酸溶液ヲ以テ血漿ヲ洗
 去スル能ハズ宜シク二乃至三%ノ「ペプシン」水溶液ヲ以テ之レヲ除クベシ
 以上記載セル着色方法ニ於テハ「バクテリア」ノ他ニ尙ホ組織ノ部分等モ亦着色
 スルヲ以テ着色後更ニ「プレバライト」ヲ染色藥中ニ置カザルヲ得ズ蓋シ脱色藥ト
 ハ「バクテリア」外ノ物質ヲ容易ニ脱色セシムルモノナリ該脱色藥ハ水、アルコホル
 酸及ビ「ヨード」(ヨード一、〇)「沃刺」二、〇「餾水」三〇〇、〇ニシテ「バクテリア」檢査
 ニハ必要ナルモノナリ

○切片染色法

組織内バクテリアノ檢査ハ實地醫家ニ取り必要ナル場合甚々多カラズ故ニ此處
 ニハ唯其概要ヲ擧ゲ切片内バクテリアノ着色ニハ「メチレン青」法ノ最モ可ナル

チ皆左ニ其法ヲ述ブ
 切片ヲ取リレツフレル氏メチレン青液中ニ放置スルコト一二分ニシテ之レチ
 ○五乃至一%ノ醋酸中ニ移シ一二秒間脱色セシメ更ニ「アルコール」中ニ移シテ水
 分ヲ除キ「ツエーテル」油中ニ透明ナラシメ「カナダ」バルサムニテ封鎖ス
 プレーゲル氏ノ改良セルキエーチ氏染色法モ甚ダ賞揚スベキモノナリ即チ「オア
 エクト」或ハ「デツク」ガラス上ニ貼シタル切片ヲ半乃至一分時キエーチ氏石炭酸メ
 チレン青ヲ以テ(場合ニ由リ温ムルコトアリ)着色シ水ニテ洗ヒ五〇%ノ「アル
 コホル」ヲ以テ淡青色ニ稍帯綠色ヲ呈スルマテ脱色セシメ後純アルコールニテ脱
 水シ「キシロール」ヲ以テ透明ナラシメ「バルサム」ニテ封鎖ス

○グラーム氏法

アニリン色素ヲ以テ着色スレバ「バクテリア」他ニ尙ホ細胞核ヲモ染色ス故ニ
 グラーム氏ハ細胞核ヲ脱色シ「バクテリア」ニハ變化ヲ及ボサザル脱色法ヲ案出シ
 テ特ニ「バクテリア」而已チ着色スルノ道ヲ開ケリグラーム氏染色法即チグラーム
 氏脱色法ハ左ノ如シ
 デツクガラス乾燥プレパレート「チ」アアニリン水ゲンチアナ紫中ニテ一二分間着色
 シ一分間ヨード沃剝液中ニ入レ核ヲ脱色シ更ニ純粹アルコール中ニ放置シ「プレパ
 ラート」ノ全然脱色スルニ至リ水或ハ「カナダ」バルサム「チ」以テ鏡檢ス切片ハ五乃

至三十分間アニリン水ゲンチアナビオレット中ニテ着色シ二三分間プレパラー
 トノ暗褐色乃至黑色ヲ呈スル迄「ヨード」沃剝液中ニ放置シ後アルコール中ニ入レ
 全ク色素ヲ出サハルニ至ルヲ待テ「香油」ヲ以テ透明トナシ「カナダ」バルサム「チ」以
 テ封鎖ス然レドモグラーム氏ノ此法タル脱色ノ過不及ヲ生ズルコトアルヲ以テ其
 中府ヲ得ルヲ難シ於是乎「オイゲン」ホートキン氏ハ「アアニリン水ゲンチアナ」ビオレ
 ット「ニテ」着色後純アニリン水ヲ以テ剩餘ノ色素ヲ洗去シ而シテ始メテ之ヲ「ヨード」
 沃剝水ニ移スノ法ヲ以テ此弊ヲ除カン「チ」賞揚ス其他ギエンテル、キエーチ氏ノ
 改良セルグラーム氏法ハ其アルコール中ニテ脱色シタル後更ニ「プレパレート」チ
 ビスマルクブラウソ中ニ入レ放置スルコト一二分間ナリ該法ハ重複染法ニモ亦應
 用セラル、ニ至レリ數多ク「バクテリア」ハグラーム氏法ニ由テ之レヲ檢出セシム
 ル如ク他ニ此法ヲ用非テ檢出シ能ハザル「バクテリア」在リ故ニ此法ハ又バクテ
 リア「ノ」種類ヲ區別スルノ用ニ供セラレ其病理學上必要ナル「バクテリア」ニガラ
 ーム氏ノ法ヲ用ユレバ着色スルモノ即チ核ノ脱色アルモノ依然トシテ着色ヲ失ハザ
 ルモノトグラーム氏法ニ由テ着色セザルモノ即チ核ト共ニ脱色スルモノトアリ此
 處ニ列擧スル其中ニ屬スル者ハ結核、癩病、破傷風、脾脱疽、バチルレン、膿腫、コッ
 ン及ビ肺炎チアロコツケン「ニ」シテ其乙ニ屬スルモノハ望扶斯、實扶的里、馬鼻疽
 及ビ「コン」マバチルレン、フリードレンタル氏肺炎バチルレン、淋毒、コッケン及ビ回
 歸熱螺旋狀菌等ナリ

○^{ガイセル}鞭毛染色法

十立方仙迷タンニン溶液(二〇ニ八〇ノ水ヲ加ヘタル者)ニ五立方仙迷寒冷飽和ノ硫酸鐵溶液及ビ一立方仙迷ノ「フクシン」或ハ「メチール」ビガレット若ハ「ウオール」
 ウルツ」ノ水溶液或ハ「アルコホル」溶液ヲ混和シ各「バクテリア」ニ對シ試驗ニ由テ
 確定シタル一%ナトロン溶液或ハ硫酸數滴ヲ加フ可シ即虎列拉「バチルレン」ガイセル
 ル」ニハ硫酸ノ半滴乃至一滴ヲ添加ス可ク「窒扶斯」^{「バチルレン」}ガイセル」ニハ一%
 ナトロン溶液ノ一立方仙迷ヲ要スルガ如シ「ガイセル」染色ノ方法ハ「レツフレル」氏
 ニ從ヘバ次ノ如シ

純粹培養ノ少量ヲ一滴ノ蒸餾水ニ浮遊セシメ豫メ白金線ヲ以テ「デック」硝子上ニ點
 滴シアル數多ノ水滴ニ此浮遊セルモノヲ播種シ空氣中ニ乾燥セシメ其他乾燥ヲ待
 チテ火焰ヲ通過セシメ固定セシムルコト常ノ如クスベシ而シテ該處置ハ最も重要
 ナルモノナリ何トナレバ「溫ムル」コト其度ニ過グレバ「ガイセル」ハ之ガ爲メニ其被
 媒染色ヲ失ヘバナリ「バクテリア」體ノ染色性モ亦高度ノ熱ニ由テ消失スルモノナ
 レハ一般ノ知ルトコロナリ而シテ「ガイセル」ハ其體ニ比シテ尙反應ノ著シキモノ
 ナリ火焰ヲ通過セシムル際「デック」硝子ヲ「鑷子」ヲ用井テ固定セズ「拇指」ト示指ノ間ニ
 之レヲ保テ「溫度」ノ高キニ失スル患ナシ指ニシテ忍ブベキ「溫熱」ハ「ガイセル」ノ被
 媒染色性及ビ着色性ヲ害スルコトナシ熱セ「レタル」^{「デック」}硝子上ニ媒染液ヲ加ヘ

其全面ヲ穹窿狀滴狀ニ於テ被ハシメ火焰上ニ更ニ「溫メテ」蒸氣ノ發生スルヲ度トス
 而シテ輕ク「デック」硝子ヲ動シ熱シタル媒染液ヲ半乃至一分時間「デック」ガラス上ニ
 放置スベシ次テ蒸餾ノ強キ水線ヲ以テ之レヲ洗去ス然レトモ尙ホ媒染液ノ殘物ハ
 「デック」ガラス線ニ止マリ染色液ニ會フテ洗滌ヲ生ズ故ニ水ヲ以テ洗去シタル後純
 粹アルコホル中ニテ更ニ洗去シ「バクテリア」ヲ含有セル滴ノ附着シタル部分ノ他
 ハ全然清澄トナルヲ待テ後「デック」ガラス」ニ染色液ヲ滴下シテ其全表面ヲ被ハシ
 メ再ビ蒸氣發生ニ至ルマテ一分間之レヲ熱シ終ニ水線ヲ以テ洗去ス

○^{スポーレン}芽胞染色法

右ニ列擧スル染色ノ諸法ハ未ダ以テ諸般ノ目的ヲ達スルニ足ラズ即チ「スポーレ
 ン」ハ硬固ニシテ抵抗ニ富ミタル膜ヲ被ムルガ故ニ色素ノ侵入困難ニシテ之レヲ
 現出セシムルコト克ハザルナリ「スポーレン」ノ染色ニ用ユル諸法中實地醫家ノ特
 ニ便益ナルモノヲ擧グレバ次ノ二法アリ

第一ハッセル氏法

三回火焰内ヲ通過セシメタル「デック」ガラス「プレート」ヲ濃厚「フクシン」水
 溶液ヲ以テ更ニ其全面ヲ被ヒ再ビ火焰上ヲ徐々ニ通過セシムルコト三十回乃
 至四十回ニシテ蒸氣發生ヲ度トナシ之レヲ止メ二五%ノ硫酸中ニ浸スコト一
 二秒次テ水ヲ以テ洗ヒ弱メ「チーレン」青液ヲ以テ染色ス

附錄 細菌検査法

第二メルレル氏

該法ハ輓近案出シタル者ニシテ速ニ善良ナル「スポーレン」染色ヲ結了セシムルモノナリ即チ空氣中ニ乾燥セル「デック」グラス「プレパラート」ヲ火焰ニ通過セシムルコト三回或ハ二分間純アルコホル中ニ入レ而シテ後二分間クロ、ホルム中ニ放置シ水ヲ以テ洗ヒ半乃至二分間五%クロム酸ニ浸シ再ビ水ヲ以テ丁寧ニ洗ヒ石炭酸フクシン「ヲ滴下シ火焰ヲ以テ一分間温メ一回沸騰スレバ石炭酸フクシン」ヲ除キ「デック」グラス「ヲ五%ノ硫酸中ニ浸シ脱色セルヲ待チテ再ビ丁寧ニ水ヲ以テ洗滌シ次テ三十秒時間メチーレン「ヲラウ若クハマラシット」グリユン」ノ水溶液ヲ作用セシメ又之レヲ洗去ス如此ニシテ製シタル「プレパラート」ニ在リテハ美麗ナル綠色若クハ青色ノ「バクテリア」體內ニ「スポーレン」ハ暗赤色ノ色ヲ呈シ炯然トシテ明瞭ナリ

○純粹培養法

顯微鏡検査ニ由テ検査シタル物體中ニ「バクテリア」ノ存在スルコトヲ認め染色法ニ由テ其形態ノ性質ヲ知悉シタルニ於テハ其オプエクト「グラス」内ニ存在スル「バクテリア」ヲ其種類ニ從ヒ相孤立セシメ之レヲ純粹ニ培養スルノ法ヲ講ゼザル可カラス

純粹培養ヲ施スニハ細菌ヲシテ可成其自然ノ關係ニ最も類似セル有様ニ於テ生活

セシメザルベカラズ此培養ニ使用スル人工培養基ニ二種アリ液體及ビ固體培養基是ナリ液體培養基中ニテハ專ラ培養肉羹汁ヲ用ユ其製法脂肪ナキ挫碎セル牛肉五〇〇〇ニ一「リーテル」ノ蒸餾水ヲ注ギ二十四時間冷處ニ靜置シ後チ清潔ナル布ヲ以テ此混合物ヲ壓搾ス而シテ抽出シタル肉水ニ一〇〇〇ノ「ペプトー」五〇ノ食鹽ヲ加ヘ濃厚炭酸ナトリウム「ヲ徐々ニ加ヘ此酸性ノ液ヲ弱アルカリ性トナス次テ此液ヲ一乃至二時間蒸氣釜内ニテ煮沸シ濾過シ濾過液ノ通常十立方仙迷ヲ豫メ殺菌シテ棉花栓ヲ以テ密閉セラレタル試験管ニ盛り後三日間毎日半時間宛之レヲ六十度ニ温ムベシ如此所置シタル完全ナル肉羹汁ハ清潔透明黄色ノ液ナリ固體培養基中ニテ一般ニ應用スルトコロノモノハ馬鈴薯培養「ガラチン」培養寒天及ビ血漿ソリ

馬鈴薯培養基ノ製法ハコツホ氏ニ從ヘバ左ノ如クナスベシ

先ヅ堅牢ナル刷毛ニテ丁寧ニ洗ヒ其表面ノ凹陷セル部分ハ刀ヲ以テ除去シ後半乃至一時間酸性昇汞液中ニ放置ス（昇汞一、〇鹽酸五、〇餾水一〇〇〇、〇）而シテ馬鈴薯ヲ鐵葉製釜内ニ入レ半時間乃至四十五分間煮沸スベシ冷却後昇汞液中ニ浸シタル左手ヲ以テ馬鈴薯ヲ取り右手ニ持スル殺菌セル刀ヲ以テ之レヲ二等分ス各等分セラレタル馬鈴薯ハ其切斷面ヲ上方ニ向ケ濕室内ニ放置ス（硝子製重覆大皿ニシテ其底面ニハ千倍ノ昇汞水ヲ以テ浸シタル濾過紙ヲ供フルモノナリ）

附錄 細菌検査法

エスマルヒ氏製法ハコッホ氏製法ニ比スレバ甚ク簡便ナリ其法馬鈴薯ノ皮ヲ去リ水ニテ丁寧ニ洗滌シ之ヲ切リテ圓板トナシ豫メ殺菌セル硝子製重複小皿中ニ入レ之レヲ蒸氣釜内ニ移シ此處ニテ四十五分間放置スルトキハ既ニ使用ニ供スベキ固體培養基ヲ製シ得タル者ナリ又馬鈴薯ノ一片ヲ楔狀ニナシ綿花ヲ以テ栓シタル試験管中ニ入レ而シテ蒸氣釜内ニテ熱シテ製スルコトヲ得

培養膠ハ左法ニ由テ製ス
即チ肉羹汁製法ノ部ニ記載シタル肉水一〇〇、〇二一〇、〇ペプトリン五、〇ノ食鹽ヲ加ヘ十% (即チ一〇〇、〇)ノ純粹ゲラチンヲ加ヘ此混合液ヲ丁寧ニ攪拌シ重湯煎ニテ膠ノ全ク溶解スルマデ温ムベシ其溶解ニ費ス時間ハ大凡二十分乃至四十五分ナリ溶解後ハ曹達液ヲ徐々ニ加ヘ赤色ヲクムス紙ノ少シク青變スルマデ中和シ不溶性蛋白質ヲ除去スル爲メニ一時間尙ホ煮沸シ其熱液ヲ濾過ス膠ハ冷却スルニ從テ固體ニ變シ從テ濾過スルコト克ハザルカ故ニ所謂熱湯漏斗ヲ用ニ熱湯漏斗ハ硝子製漏斗ト其之ヲ被覆スル銅性マンテルノ間ニ熱湯ヲ灌漑セラル、モノニシテ此熱湯ハ環狀ニ配列セル瓦斯火焰ニ由テ熱セラル、者ナリ熱湯漏斗ノナキ場合ニ於テハ濾過液ヲ受クルトコロノ瓶及ビ漏斗ヲ共ニ蒸氣釜内ニ入レ置クベシ濾液ハ清澄透明弱アルカリ性反應ヲ呈スル液ニシテ冷却スルニ從テ凝固シ膠狀透明ニシテ稍黃色ヲ帶ビタル固體ヲ形成ス濾過セラレタル液狀ノ「ゲラチン」ノ各十五立方仙迷ヲ殺菌セル硝子ピ

ペットレヲ用非テ取リ注意シテ殺菌ノ綿花栓ヲ供ヘタル試験管中ニ之ヲ盛ルベシ此ゲラチン培養基ヲ使用セシニハ先ツ三日間毎日十五分間宛之ヲ流通セル蒸氣ニ觸レシムベシ

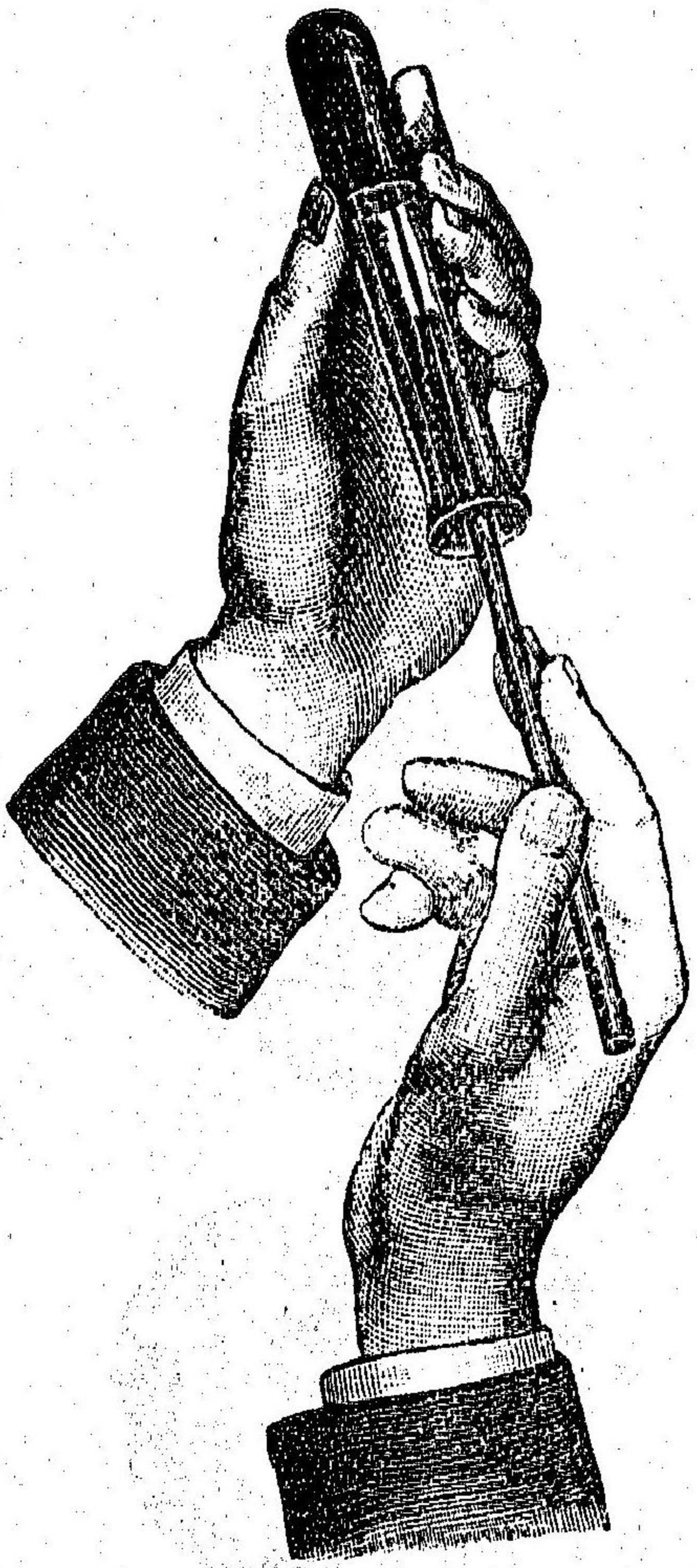
歌多ノ「バクテリア」ハ通常ノ室温ニ於テ蕃殖セザルモノニシテ其蕃殖ニハ血温ヲ要シ而シテ培養ゲラチン「ハ二十五度ニ在テ已ニ液狀トナリ固體培養ノ性質ヲ失フカ故ニ肉羹汁ニ加フルニ寒天ヲ以テス即チ上ニ記載シタル方法ヲ以テ製シタル肉水ノ一〇〇、〇二一〇、〇ノ「ペプトリン」五、〇ノ食鹽及ビ一〇、〇乃至二〇、〇ノ細切セル寒天ヲ加フ寒天ハ溶解シ難キモノナルヲ以テ先ツ一時間重湯煎ニテ煮沸シ中和シテ二時間蒸氣釜内ニ煮沸シ後濾過ス濾過液ハ清澄透明ニシテ甚ク速カニ凝固シ稍ヤ稠濁ヲ生ス
寒天ノ溶解ヲ容易ナラシメテ肉ペプトリン寒天ノ製法ヲ單一ナラシメンガ爲メチツシユットキン氏ハ寒天ヲ先ツ五%ノ醋酸液ニ十五分間浸シ水ニテ洗ヒ後ニ肉羹汁ト共ニ煮沸シ五分間ニシテ寒天ハ全ク溶解スベシ中和及ビ冷却後二箇ノ明白ヲ加ヘ此混合物ヲ三十分乃至四十分間煮沸シテ濾過ス可シ
血清ノ製法

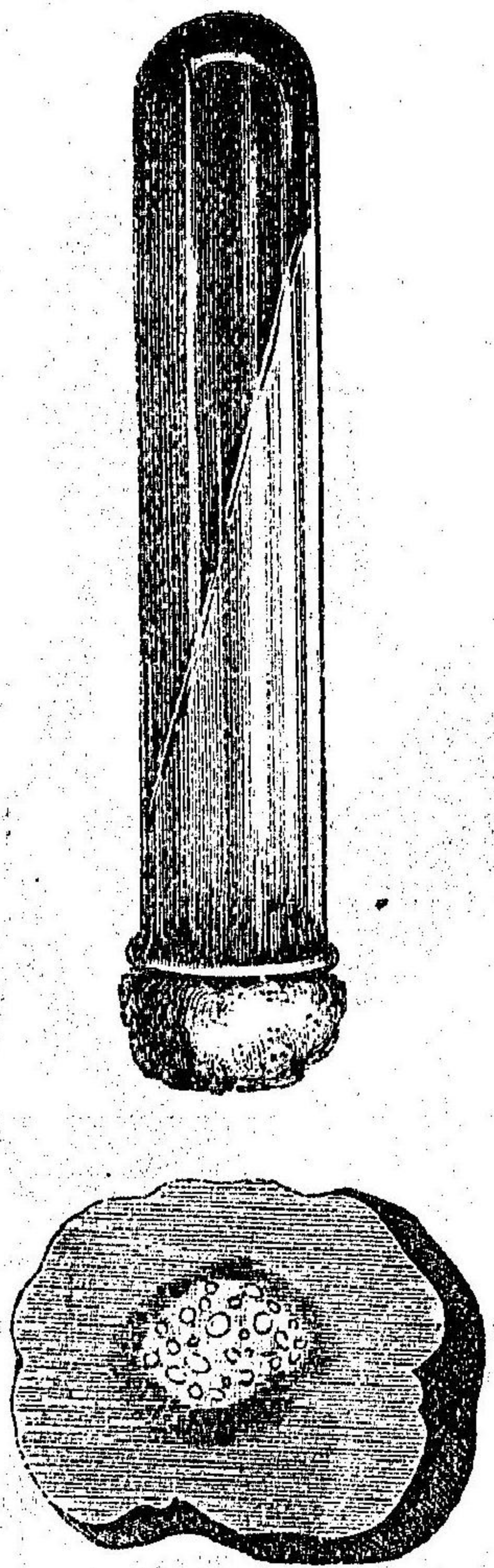
先ツ獸類ヲ屠殺スルニ當リ流出スル血液ヲ殺菌セル硝子圓筒内ニ受テ二十四時間乃至四十八時間水函内ニ放置セシメテ血清ト血餅ヲ分離セシメ清澄透明ナル血清ヲ殺菌セル「ペットレ」ヲ以テ汲ミ殺菌セル試験管中ニ移スベシ血清

ノ殺菌ニハ數日間一乃至二時間宛大凡五十八度ノ温ニ遭遇セシムベシ七十度以上ニ至レハ血清ハ凝固シ不透明トナレバナリ血餅ヲ受ケ及ヒ之ヲ充タス際深ク注意スレバ試験管ノ多數ハ萌芽ナカラシムルコトヲ得之ノ血清ヲ孵卵器内ニ三乃至四日留置セシムルコトニ由テ之ヲ知ルヲ得可シ

検査物ニ含有スル「バクテリア」ヲ互ヒニ孤立セシムル爲メニハコッホ氏ノ平板培養法ヲ用ユ可シ其法熱シタル後冷却シタル白金線ヲ以テ試験液ノ一滴ヲ取り(三十五度ノ重湯煎ニテ溶解セル)「ゲラチン」ヲ盛リタル試験管中ニ入レ暫時攪拌シテ「ゲラチン」ヲ平等ニ配分ス此第一ノ試験管所謂「オリギナル」ヨリ殺菌セル白金線ニ由テ三滴ヲ取りテ第二ノ液状「ゲラチン」試験管ニ移シ攪拌スルコト前ノ如クス稀釋ニシテ之ヨリ第三ノ液状「ゲラチン」試験管ニ移シ攪拌スルコト前ノ如クス之レ第二稀釋ニシテ之ヨリ第四ニ移シタルモノハ第三稀釋又時トシテ之レヲ第五ニ移セバ第四稀釋ヲ生ス可及的相離隔シタル「バクテリア」ノ種類ヲ固定シテ其相互ノ混合ヲナサシメザルタメニ「ゲラチン」ヲ管ヨリ可及的大ナル平面上ニ擴ゲテ凝固セシム之レニ用ユル平板ハ豫メ高熱ニ由テ殺菌セル方形硝子板ヲ用井平等ニ薄キ層ヲ其表面ニ作り氷上ニテ凝固セシム試験管ヨリ硝子板ニ「ゲラチン」ヲ注グニハ所謂平板澗注装置ヲ用ユ此装置ハ氷及ヒ水ヲ充分ニ盛リタル大皿ト其皿ヲ蓋フトコロノ硝子板トヨリナリ容易ク水平ノ位置ニ置カレ得ルモノナリ皿上ノ硝子板上ニ更ニ硝子平板ヲ置キ流動性検査物體ヲ混ツタル「ゲラチン」ヲ注キ直ニ硝子鐘ヲ

第七十三圖





以テ覆ヒ空氣ヨリ不潔物ノ入ルコトヲ防ギ第三乃至第四稀釋ノ「ゲラチン」ヲ如此
 平板上ニ注キ「ゲラチン」ノ凝固スルヲ待チテ（氷上ニハ速ニ凝固ス）細心注意シテ
 昇汞ヲ以テ濕シタル濾過紙上ニ安置スル硝子鐘内ニ入レ棚ノ如ク相重ナレル硝子
 机上ニ安置ス

此方法ハ漸々種々ノ改良ニ由テ簡單トナレリ平板ニ換フルニ扁平ナル瓶ヲ用井其
 平面ナル部分ニ「ゲラチン」ヲ送り圓形ナル瓶ノ頸ニ棉花ヲ送入シ閉鎖ス検査物ヲ
 如此ニシテ分配シタル後ハ此瓶ヲ單純ニ水平ノ位置ニ置キ其凝固ヲ待ツエスマル
 ビ氏ハコツボ氏ノ法ヲ變シ上述ノ如ク試験物ヲ有スル「ゲラチン」ヲ平板上ニ注ガ
 ズシテ試験管中ニ凝固セシム凝固セシムルニハ「ゴム栓」ヲ以テ密閉シタル試験管
 ナ殆ンド水平ノ位置ニ保チ冷水若クハ氷水中ニ入レ「ゲラチン」ノ管壁ニ凝結固着
 スルマテ絶ヘス廻轉ス

第一法若クハ第二法ニ由テ「ゲラチン」表面上ニ各細菌ノ種類ヲ孤立セシメタルト
 キハ更ニ各種類ニ就キ精密ノ攻窮ヲナチンガ爲メ各自更ニ新ラシキ培養基ニ移シ
 テ其培養ヲ謀ルベシ此培養ヲ行フニハ先ツ孤立セル集落ノ一點ヲ白金線ヲ以テ他
 ニ移スニアリ其法ヲハ穿刺培養ヲ用ユルト擦過培養ヲ施サントスルニ從テ異ナリ
 穿刺培養法ヲ施スニハ「ゲラチン」若クハ寒天ヲ盛ルトコロノ試験管ノ棉花栓塞ヲ
 廻轉弛緩トナシ試験管ヲ左手ニテ取り管口ヲ上方ニ向ケ右手ノ第四及ビ第五指ヲ
 以テ棉花栓塞ヲ除キ右手ノ拇指及示指ノ間ニ持スルトコロノ硝子棒ノ白金線ヲ以

テ「ゲラチン」ニ穿刺ヲ施スコト圖ノ如クス而シテ後白金線ヲ拔去シ試験管口ヲ下方ニナシタル儘再ビ棉花栓ヲ施シ終ニ使用シタル白金線ヲ灼熱殺菌スベシ
 擦過培養法ヲ行フニハ穿刺ニ代フルニ豫メ斜面狀ニ凝固セシメタル培養基ノ表面ヲ白金線ヲ以テ擦過ス可シ
 馬鈴薯上ニ培養スルニハ接種ス可キ物體ヲ殺菌セル刀柄ノ尖端ニ附着セシメ馬鈴薯ノ表面ニ塗擦スベシ後ニ此部ニ種々ノ集落ヲ生ス圖ニ就テ看ルベシ馬鈴薯ヲ持スル指ハ昇永液ヲ以テ濕シ置カザル可ラズ又刀柄ハ馬鈴薯ノ縁ヨリ一乃至二三仙迷隔リタル部ニ接種スベシ
 空氣ヲ忌ムトコロノ「バクテリア」ヲ培養スルニハ種々法アリト雖トモ要スルニ酸素ニ觸レシメザルニアリ簡單ニシテ實地醫家ニモ亦用ユルコトヲ得可キ方法ハ「ヒチル」諸氏ノ法ナリ「アルカリ」性焦性沒食子酸液ニ由テ酸素ヲ吸收スルニアリ其培養法ヲ廣キ試験管中ニ於テシ其試験管ノ底面ニ一、〇ノ乾燥セル焦性沒食子酸ヲ入レ一%ノ「カリ」滴汁ノ十立方仙迷ヲ加ヘ試験管口ヲ「ゴム」栓ヲ以テ密閉スルニアリ
 終リニ臨ンテ尙ホ一言ス可キハ總テ細菌學的ノ事ニ從フニ當テハ嚴重ナル殺菌ヲ其使用ノ諸物品ニ行フコトヲ要スルニ他ナラス殺菌ニハ熱ヲ用ユルヲ最良トス硝子製物品ハ先ツ千倍ノ昇永水ヲ以テ洗ヒ次テ酒精ヲ以テ尙ホ清潔トナシ乾燥シテ「オートクレーン」後焙管内ニテ一時間熱スベシ刀柄白金線等ノ如キ諸器械ハ瓦斯火焰若クハ酒精燈

火焰内ニテ熾熱スルヲ最良トス

第十三章 細菌検査法各論(卷末彩色圖參照)

結核「パチルレン」検査法

(甲) 咯痰ノ検査

咯痰中結核「パチルレン」ヲ檢スルニハ瓦斯燈或ハ酒精燈ヲ以テ紅織シタル白金線(硝子等ヲ柄トナシタル者)ヲ用井テ先ツ其検査スベキ咯痰ヨリ帽針頭大ノ膿樣或ハ乾酪樣ノ小片ヲ取り之ヲ清潔ナル二個ノ「デック」グラス間ニ挾ミ兩硝子板ヲ互ニ壓迫シテ可及的痰層ヲ平等ナラシメタル後再ビ兩板ヲ離シテ先ツ空氣中ニ乾燥シ後ニ火焰内ヲ通過セシムルコト一回ニシテ「デック」グラス「乾燥」標本ヲ完成ス其染色ノ順序左ノ如シ

「チール」氏「チール」氏法

- (第一)「カル」ボールフクシン、(「デック」グラス「標本」ヲ鏡子ニテ水平ニ固定シ其表面ニ「カル」ボールフクシン「ヲ」滴下シ酒精燈ニテ温ムルコト三乃至五分)
- (第二)五%硫酸(三秒時)赤
- (第三)七十%酒精ニテ洗ヒ
- (第四)水性「メチール」青(二分)

- (第五)水(ニテ洗ヒ)
 - (第六)吸黒紙(ニテ乾カシ)
 - (第七)カナダバルサム(ニテ封ス)
- ガッベット氏法

- (第一)石炭酸フクシン(二分間、温チ加フベシ)
- (第二)水(ニテ洗ヒ)
- (第三)硫酸(メチレン青(一分間)メチレン青二〇二十五%硫酸一〇〇、〇)

- (第四)水(ニテ洗ヒ)
 - (第五)吸黒紙(ニテ乾シ)
 - (第六)カナダバルサム(ニテ封ス)
- (乙)切片ノ検査

- チール氏チールデン氏法ニ於テハ(第一)ヨリ(第六)ガッベット氏法ニ在テハ
- (第一)ヨリ(第四)マテ略痰検査ニ同シ但シ石炭酸フクシン中ニ五分間ヲ要ス
 - (第五)九十六%酒精(三乃至五分)
 - (第六)無水アルコール(三乃至五分)
 - (第七)キシロール或ハコベルガモット油
 - (第八)カナダバルサム

○癩病バチルレン染色法

結核バチルレント同法ヲ用ユルヲ可トス但シ本菌ハ單純ナル「アニリン色素水溶液」ニモ亦容易ニ染色ス又グラーム氏法ニ由リ染色ス

○腸窒扶斯バチルレン染色法

デックグラスプレパラートヲ製シレップレル氏メチレン青溶液ニ五乃至十分間浮ベ水ヲ以テ洗滌スベシ(アルコール)ヲ用ユ可ラス)○グラーム氏法ニ依リ脱色ス

○破傷風バチルレン染色法

レップレル氏溶液ヲ以テ染色スベシ○又グラーム氏法ニ由ルモ染色ス得ベシ

○虎列拉バチルレン染色法

蒸留水ヲ時計硝子ニ盛リ一二滴ノチール氏液ヲ加ヘ其中ニ「デックグラスプレパラート」五分乃至十分間放置スレバ染色ス○グラーム氏法ニ由リ脱色ス

○インフルエンザバチルレン染色法

膿樣痰ヨリ「テックガラスプレート」ヲ製シチール氏石炭酸フクシン溶液内ニ
十乃至二十分間放置シ洗滌乾燥ノ後カナダバルサム」ヲ以テ之ヲ封ス

○寶扶的里パチルレン染色法

膿膜ノ下面ヨリ小片ヲ取リ「テックガラスプレート」ヲ製シレッフレル氏メチ
ーレン青溶液ヲ以テ五乃至十分間染色スベシ又グラーム氏法ニ由リ染色ス

○ペスト菌検査法

膿腫ヲ穿刺シテ採取シタル組織液（末期ニ至リテ膿腫化膿スルトキハ「ペスト菌
ヲ認ムルコト稀レナリ）膿胞及糞ノ組織及組織液肺「ペスト」ノ咯痰、扁桃腺、眼結膜
ノ分泌物、血液（初期ニハ稀レナリ）屍體ニアリテハ脾、肺下腔液等ヨリ法ノ如ク標
本ヲ製シ普通アニリン色素就中リエフレル氏メチーレンブラウ液ニテ着色スベ
シ
尙之ヲ確定センニハ次テ培養及動物試験ヲ行ハザルベカラズ培養ニハ普通寒天斜
面培養基及二乃至三%食鹽ヲ含有スル寒天斜面培養基ヲ用ユ甲ハ本菌正當ノ發育
状態ヲ示シ且ツ動物試験材料ヲ作り乙ハ食鹽過量ノ爲メニ生ズル本菌ノ特異ナル
變形態ヲ示ス
動物試験トシテハ南京鼠「モルモット」等ニ諸般ノ接種法ヲ行ヒ以テ特異ノ病的變

化ヲ檢ス

○回歸熱螺旋狀菌染色法

發熱發作間ニ指頭ヨリ血液ヲ取リ之レヲ檢スルナリ
之ヲ染色セント欲スルトキハ左法ヲ用ユ

- (第一) 五%醋酸（十秒間洗滌）
 - (第二) 強アンモニア液（醋酸ヲ取リ「プレート」ノ表面ヲ下方ニ向ケ數秒
間アンモニア液ノ上方ニ保持ス）
 - (第三) アニリン水溶液（ニテ染色）
 - (第四) 水（ニテ洗ヒ）
 - (第五) 吸墨紙（ニテ乾シ）
 - (第六) カナダバルサム（ニテ封ス）
- グラーム氏法ニ由リ脱色ス

○膿膿菌及丹毒菌ノ染色法

ゲンチアナヒオレット」ノ水溶液ヲ以テ染色ス又グラーム氏法ヲ用ユルヲ可ト
ス

○麻病球菌染色法

(甲) オアエクトグラスニ膿ヲ薄ク塗り乾燥固定シ半分間レツフレル氏メチーレン青液ニテ染メ水ニテ洗ヒ吸墨紙ニテ水ヲ去リ火焰上ニテ乾シ十分乾キタルトキハ「デック」グラスヒテ用井ズ油浸鏡檢ス或ハ

(乙) 石炭酸フクシン液ヲ二分間作用セシメ水ニテ洗滌鏡檢ス

○ミクロスポーション、フルフルノ検査法

此菌ヲ檢スルニハ爪甲若クハ刀ヲ以テ患部ノ皮膚ヲ輕ク摩擦シ落屑ヲ生セシメ之ヲ取りテ載物硝子上ニ置キ一滴ノ「カリ」滴汁ヲ加ヘ十分乃至十五分時ノ後即チ表皮細胞ノ膨脹透明トナルヲ待テ之ヲ檢スベシ○又タ小斑點部ヲ十%ノ「カリ」滴液ニテ拭ヒ暫ラクシテ軟化シタル表層ヲ板匙ヲ以テ抓取シ三百五十倍ニ増大スレバ風曲分枝シタル菌纖維及光線ヲ屈折スル芽胞ノ葡萄狀ニ集簇スルヲ見ル

○シエンライレ氏アヒヨリオンノ検査法

此寄生菌ハ非常ニ多數ニ存在スルモノニシテ白癬小甲二十%カリ液ヲ加ヘテ鏡檢

スレバ本菌ヲ見ルベシ○又タ水或ハ少許ノ「アンモニア」ヲ含メル「アルコホル」ヲ以テ片塊ヲ潤シ「グリセリン」ヲ用井テ檢スベシ

○トリビヒートン、トングランヌノ検査法

一毛ヲ拔キ「カリ」滴汁若クハ「グリセリン」ヲ加ヘ又タ少シク醋酸ヲ加ヘ鏡檢スベシ

○第十四章 視機検査法

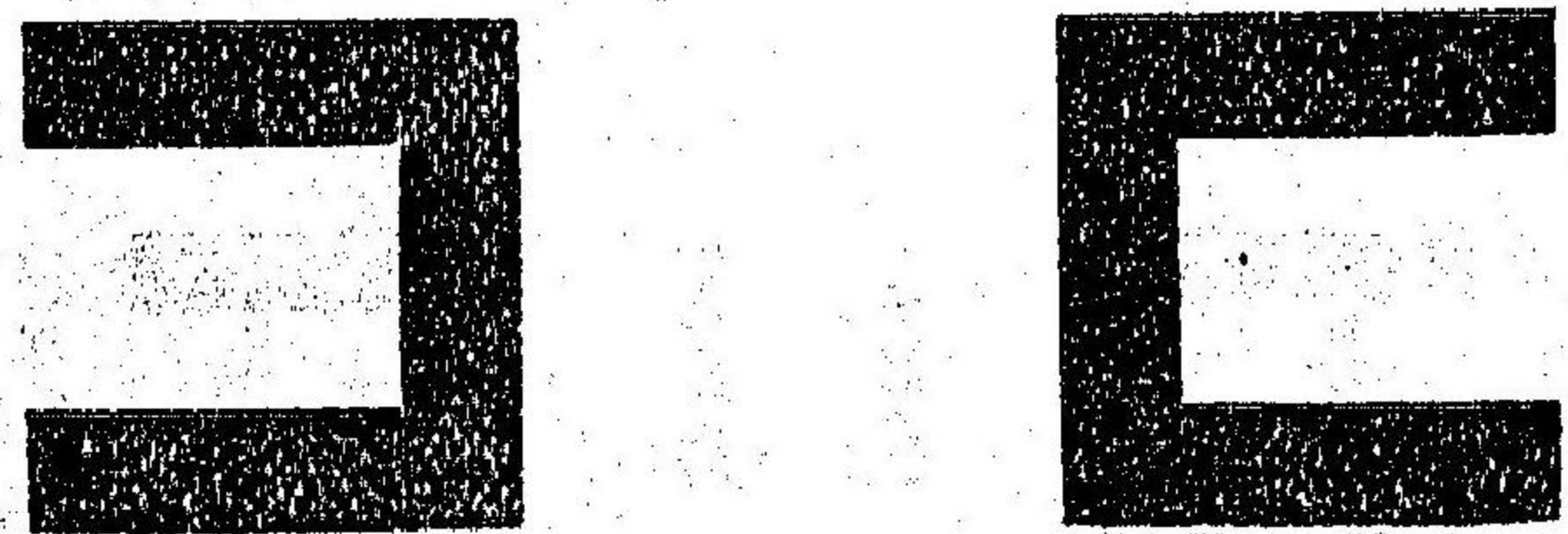
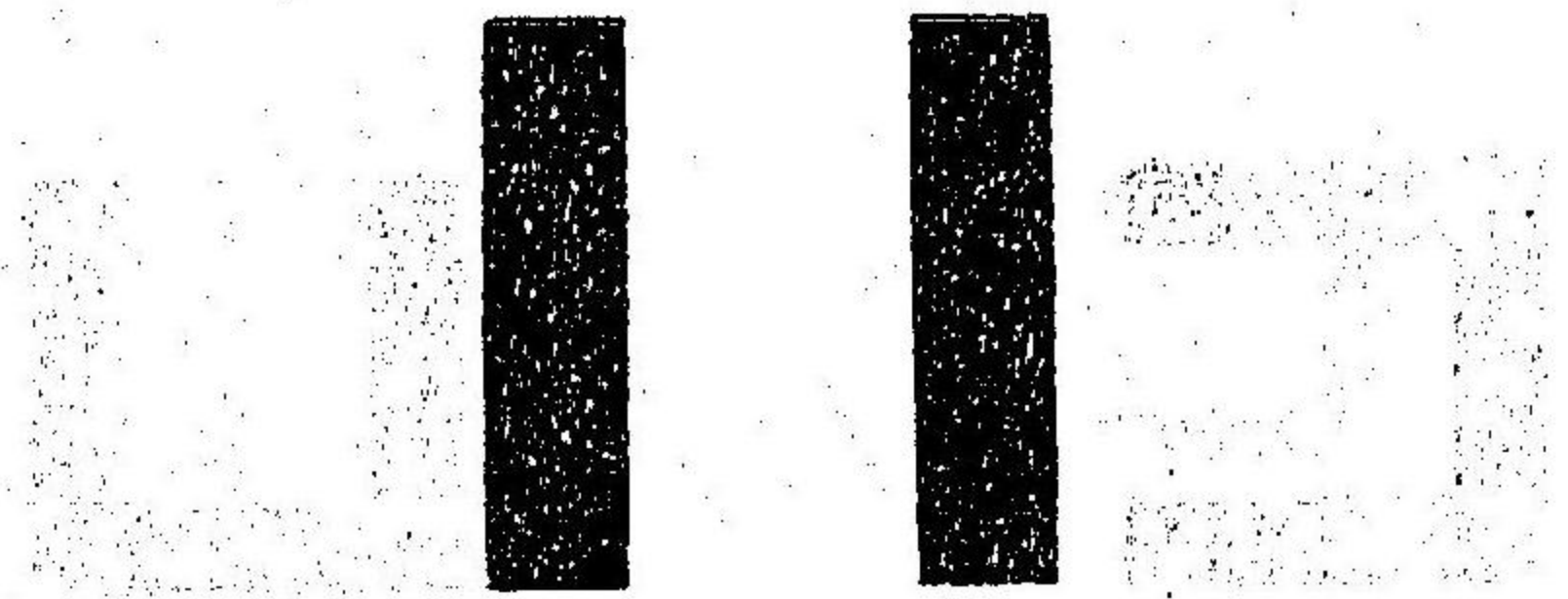
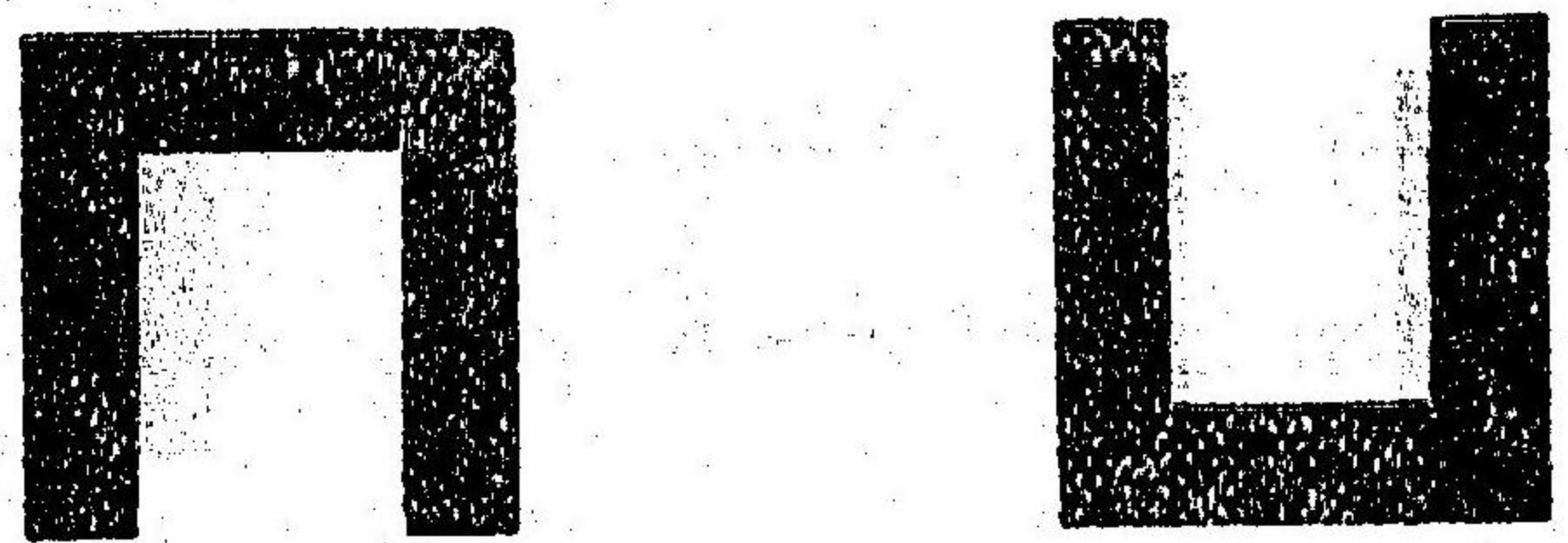
第一 視力検査

スチルレン氏表ヲ壁ニ懸ケ壁ヨリ二十フート(六メートル)ノ距離ニ被檢人ヲ置キ醫師ハ表ノ傍ニ在リテ最モ大ナル圖ヨリ最モ少ナル圖ニ至ルマテ漸次之レヲ指シ四角形ノ内「ド」ノ線が缺ケテアルカヲ問フベシ(兩眼視力ヲ檢シタル後ハ輕ク片眼ヲ蔽ハシメ各眼ニ就キ其視力ヲ檢スベシ)

(I) 二十フートノ距離ニ於テ第二十號ヲ明視スルモノハ視力健全ナリ舊式ヲ用ユレバ二十分ノ二十ニシテ $\frac{20}{20}$ 新式ナレバ $\frac{6.0}{6.0}$ 凡テ分子ハ距離ニシテ分母ハ表中ノ號數ナリ、視力 $\frac{20}{40}$ 凡テ分子ハ距離ニシテ分母ハ表中ノ號數ナリ、視力 $\frac{20}{40}$

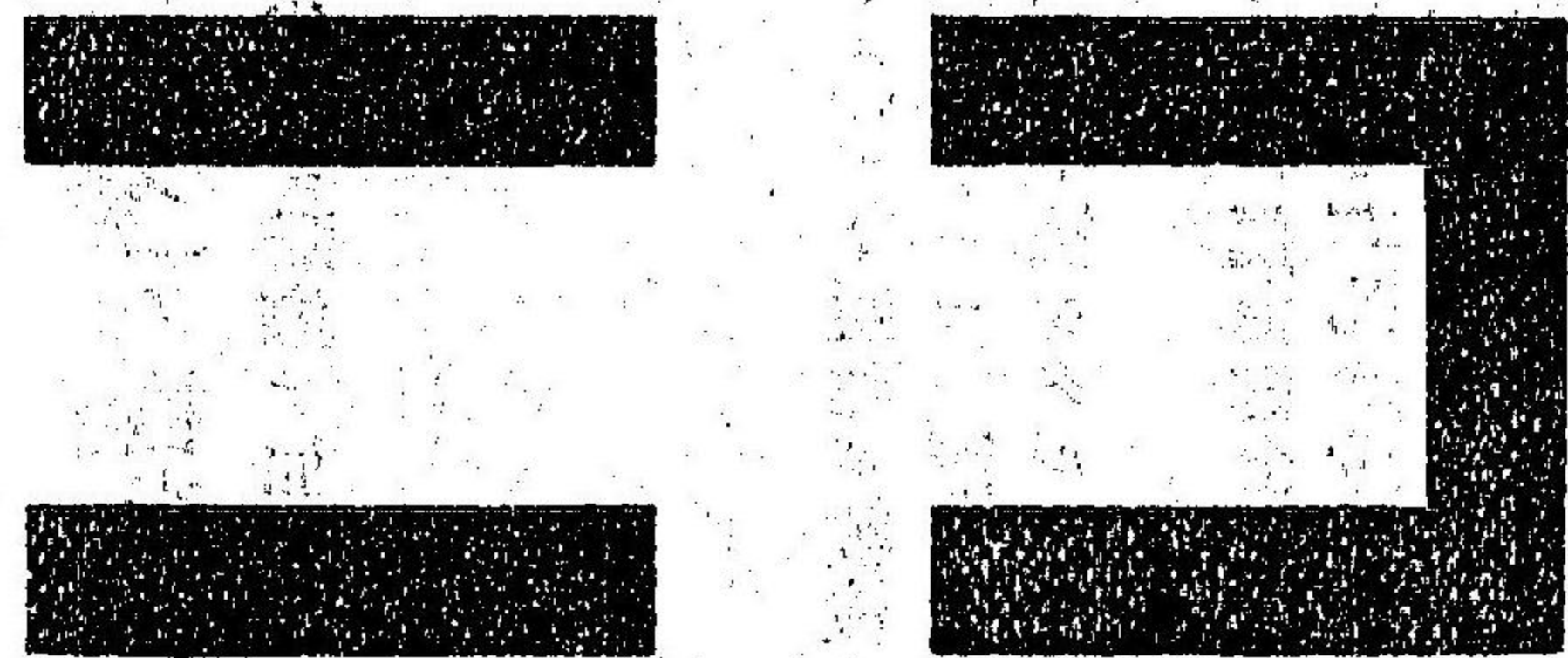
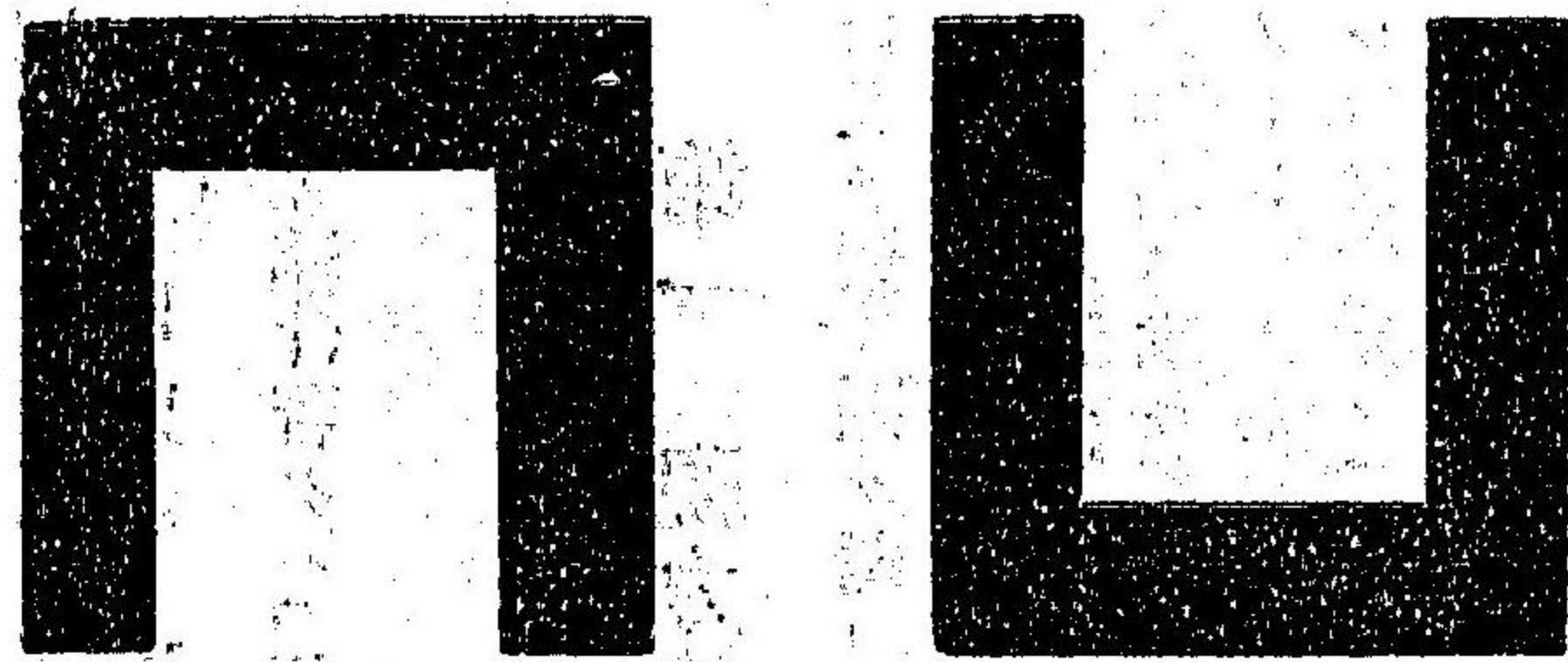
(2) 二十フートノ距離ニ於テ四十號ヲ明視スル者ハ $\frac{20}{40}$ 視力四十分ノ二十

第七十六號 圖



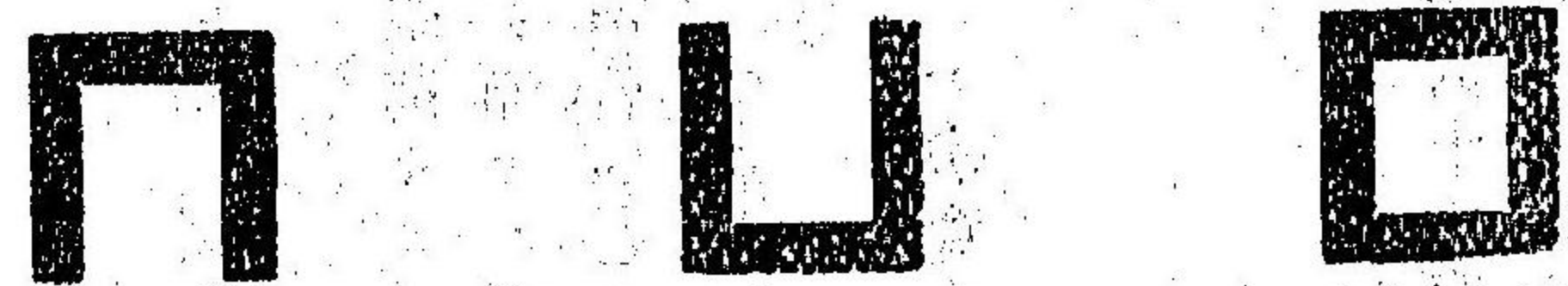
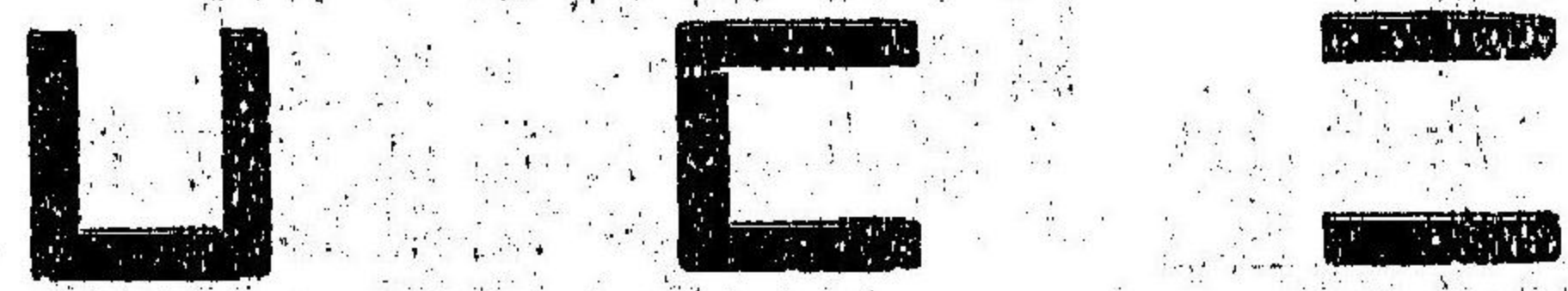
ス子ルン氏表

第七十五號 圖



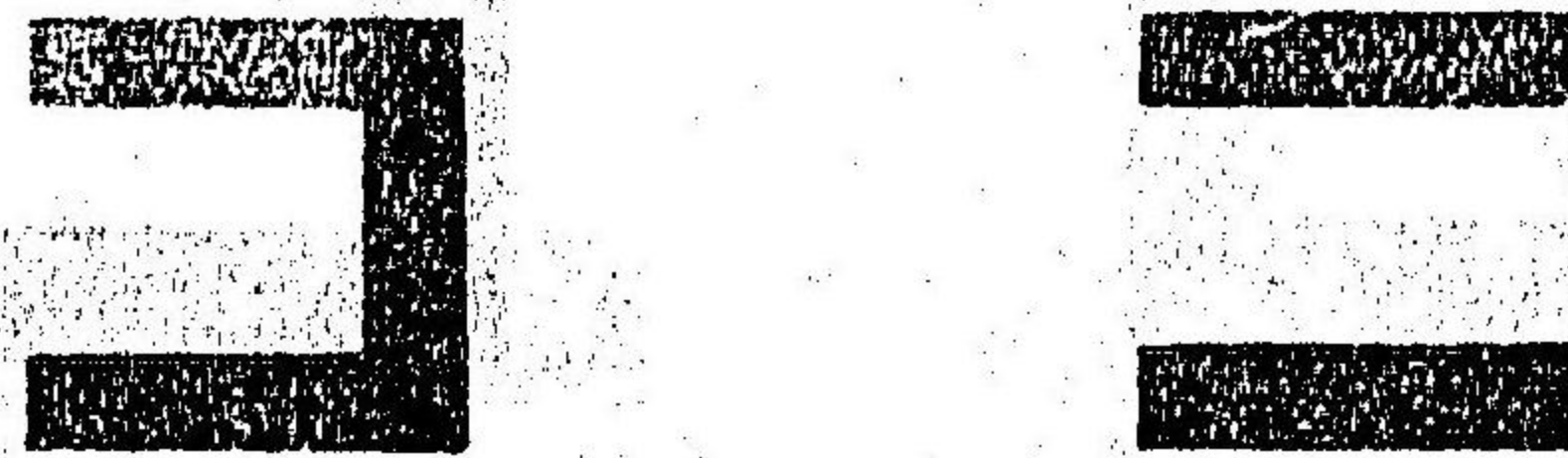
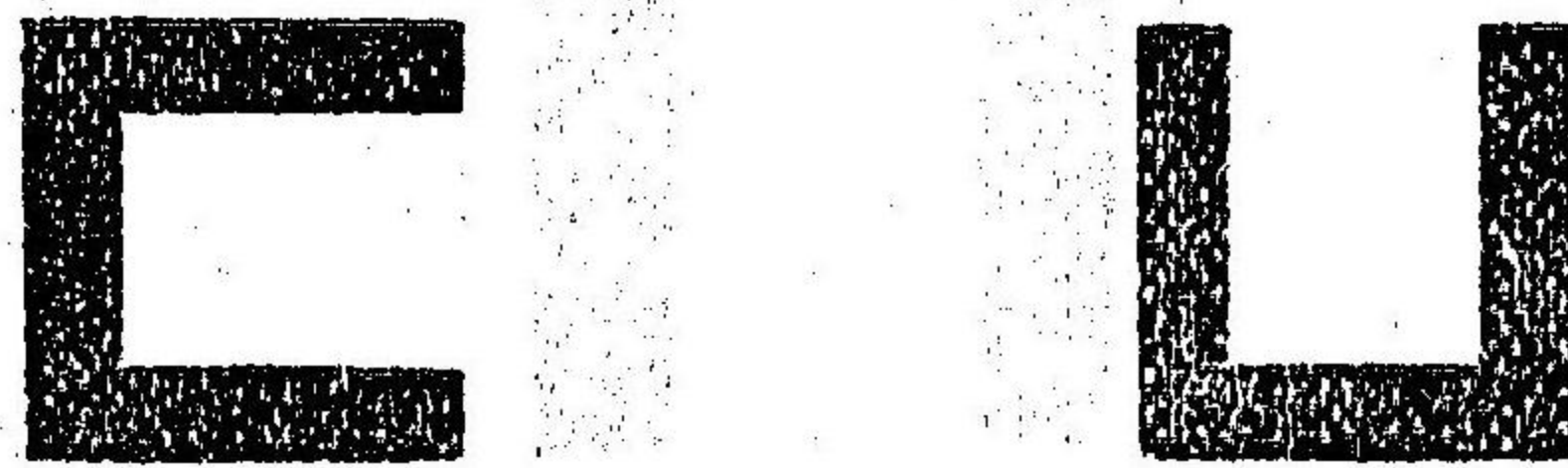
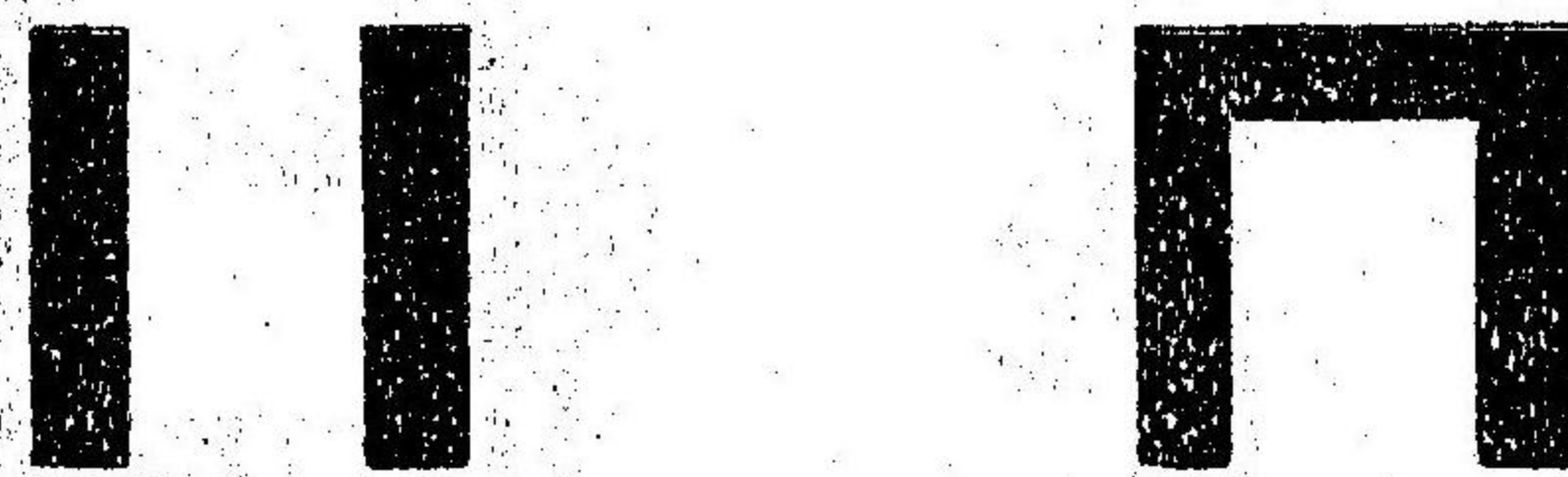
ス子ルン氏表

第七十八圖
第十二號



ス子ルン氏表

第七十七圖
第三十號



ス子ルン氏表

即チ二分ノ一ナリ

第二 光神(光覺力)検査

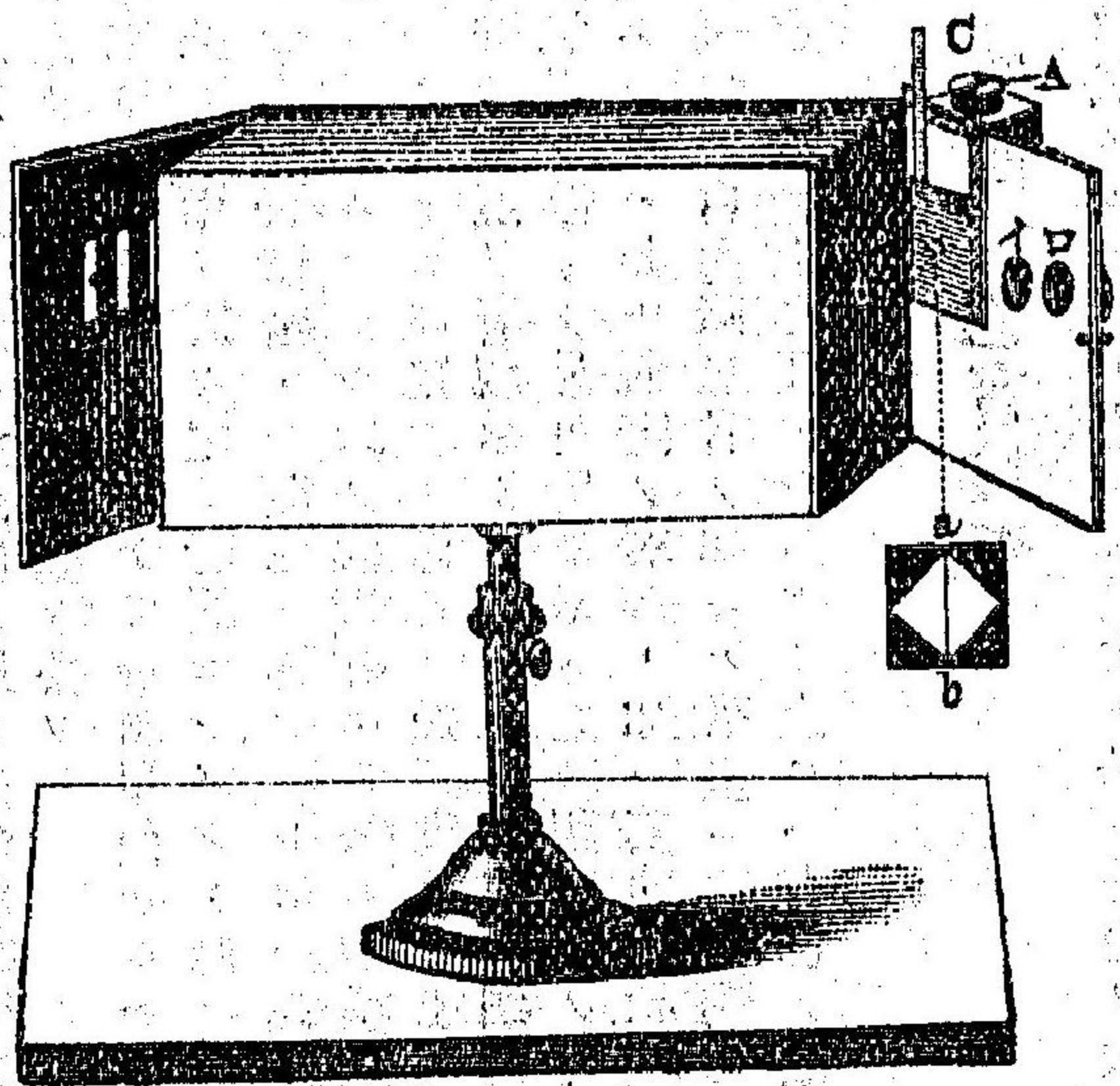
光神ト視力トハ似テ非ナルモノナリ之ヲ検査スルニハ通常フヨルスデル氏光神計ヲ用ユ此器ハ長方形ノ木函ニシテ内面ヲ黒塗シ函内ヲ窺フニ(イ)(ロ)ナル兩孔ヲ設ケ其對壁ニ黑白兩線ヲ劃セル紙ヲ貼シ(イ)(ロ)ノ兩孔ヨリ各眼別々ニ之ヲ窺視セシメ(A)ナル螺旋裝置ヲ以テ角窓ヲ開縮セシメテ燭光ヲ加減シ僅カニ對壁ノ黑白兩線ヲ辨知シ得ルヲ以テ度ト爲ス今角窓ノ縱徑(a)(b)ヲ測計桿(C)ニ由テ知レバ角窓ノ幅員ハ $\frac{ab}{c}$ ナリ而シテ之ヨリ出ヅル數ヲ八密迷平方ト假定シ健眼ハ普通ニ密迷平方マテ辨知シ得ルトセバ其光覺力ハ $\frac{2}{8}$ ナリ

本検査ハ常ニ暗室内ニテ之ヲ行フベシ若シ明處ヨリ來リタルモノハ検査前十分間眼ヲ閉ジテ網膜ヲシテ應調セシメザルベカラズ

第三 視野測定

視野(或ハ視界又ハ周邊視力)トハ黃斑部以外ノ網膜ノ視力ヲ謂フモノニシテ健體ニ於テ外方最モ廣クシテ凡ソ九十度内方六十度上方五十五度下方六十五度ヲ算ス然レニ病的ニハ之が種々ニ變化ヲ來スモノナリ例之ハ周圍ヨリ均シク縮小ヲ來スアリ(同心性狹縮)又周圍ノ一方ヨリ截痕狀ニ欠損ヲ來スアリ或ハ視野ノ全半欠損

第七十九圖



フヨルスデル氏光神計

スルアリ(半盲性視野欠損)其他又視野ノ一部斑點狀ニ欠損スルアリ之ヲ暗點ト云フ健體ニ於テ視野ノ外方大凡十五度ノ所ニ生理的暗點アリ之ハ視神經乳頭ニ相當スル所ニシテ之ヲマリオツト氏暗點ト云フ
 之ノ視野ヲ測定スルニ種々ノ方法アリ最モ單簡ナルハ檢者ト患者ト近ク且正シク相對坐シテ中央ニ一指ヲ置キ之ヲ着視セシメツ、他ノ一手ヲ動シテ上下左右ヨリ之ガ廣狹ヲ知ル尙一層精密ナル測定ヲ遂ケントセハ視界計ヲ用ユ之ニシワイゲル氏手用視野計トフヨルステル氏ノ視野計アリ共ニ半環狀ニシテ前者ハ患者ノ手ニ持タシメ後者ハ一ノ台上ニ固定シテ患者ノ頭ヲ支持台上ニ置キ他眼ハ閉チ檢眼ヲ恰モ半環ノ正中即チ零度ヲ着視セシメ環ヲ上下左右ニ廻轉シテ此ノ環ニ沿ヘ檢査子ヲ移動シテ其視得ル限リノ最外點ヲ求メ之ヲ視野表ノ當該經線上ニ記入シ各點ヲ傳ヘテ線ヲ割スルキハ即チ視野ノ廣狹ヲ知ル其他板狀視野計アリ又視力甚シク減弱シタルモノ例之ハ白內障患者ノ如キハ暗室ニ於テ燭光ヲ以テ畧ホ其廣狹ヲ知ル色神視野ノ測定モ診斷上必要ナルコトアリ之ニハ有色ノ檢査子ヲ用井其方法前述ノ法ニ同シ

第四 色盲檢査

眼ニハ色彩ヲ辨識スル力アリ之ヲ辨色力ト云フ此力ノ欠クルヲ色盲ト云フ色盲ニ先天性ト後天性トアリ先天性色盲ハ一名ダルトン氏病ト云フ後天性ノモノハ視神

經網膜ノ疾病又ヒステリーニ來ルコトアリ此色盲ノ類別ハ色感學說ノ異ナルニ從テ同カラス

ヨング、ヘルムホルツ兩氏ノ假說ニ色ニハ種々アルモ赤綠紫ノ三原色ヨリ成リ吾人ノ網膜ニモ此三原色ニ應スル甲乙丙三ツノ纖維アリテ甲ハ原赤色ニ由リ最モ強ク乙ハ原綠色ニ丙ハ原紫色ニ由リ最モ強ク刺戟セラレ或ハ赤色或ハ綠色或ハ紫色ヲ感ス又三纖維ニ刺戟セラレハ白色トナリテ現ハル依テ此纖維ノ欠乏ニ從テ赤色盲綠色盲紫色盲ヲ來スト云フ

ヘーリング氏ノ假說ハ最モ世ニ行ハル、說ニシテ赤綠青黃ノ原色アリ前後ノ二色ハ互ニ補色ヲナス又吾人網膜ニハ甲乙丙ノ化學的特異ノ視質アリ此ノ生滅ニ由リ色ヲ生ス即チ甲質ハ赤ノ爲ニ滅シ綠ノ爲ニ生ス乙質ハ青ノ爲ニ滅シ黃ノ爲ニ生ス丙質ハ黑白ノ爲ニ生滅ス今甲質欠如セハ赤綠色盲乙質欠如セハ青黃色盲ヲナス以上二種ヲ不全色盲トナス甲乙二質欠如セハ全色盲ト云フ

檢査法ハ最モ普通ナルハホルムゲン氏ノ色糸檢査法ナリ之ハ六十乃至七十種ノ色糸ヨリ一糸ヲ取り患者ヲシテ之ト同色ニ感スルモノヲ撰出セシムルニ色盲アレバ他色ノ糸ヲ以テ之ニ應ス例之ハ綠色ニ應ズルニ灰白色或ハ赤色ヲ以テスルハ即赤綠色盲ナリ又紫ニ應スルニ紫又ハ青ヲ以テスルハ赤色盲ナリ青色ヲ綠トシ黃色ト赤ト誤ラハ此レ黃青色盲ナリ蓋シ此ノ種ハ甚々稀ナリ全色盲ハ諸色ノ別只黑白明暗ニ止ル

其他ダイエ氏色彩表ハ十種ノ異色ナルモ糸チ地平ニ排列シ同一ナル色ヲ云ハシム
 スナルリソグ氏ノモノハ地紙ト文字トノ色ヲ補色ニ染メ出シタル故ニ色盲者ハ此
 文字ヲ讀ムコト能ハズ
 其他マイエル氏薄紙試験表ブリユーゲル氏色彩表アリ最モ確ナルハ其スベクトル
 ムヲ健眼ノスベクトルムト對比スルニアリ

○第十五章 眼鏡ノ度、近視遠視ノ度及眼鏡撰定法

眼鏡ノ度ヲ記スルニ新式及舊式アリ

(甲)舊式ハ焼距一ツアルノ者チ一位トシ之チ一番ト稱ス二番ハ焼距二ツアルニ
 シテ其屈折力ハ1/2ナリ三番ハ焼距三ツアルニシテ屈折力ハ1/3ナリ而シ
 テ普通ハ八十番(焼距八十ツアル屈折力1/80)チ最モ弱キモノトス

(乙)新式ハ焼距一迷即一〇〇仙迷ノ者チ一位トシ之チ一D、(1 Dioptrie) 曲
 光力或ハ1.0)ト稱ス二Dニ二倍三倍……ノ屈折力チ有スルモノチ二D、
 三D、……ト稱ス二D以上ノ焼距チ知ルノ方ハ一〇〇仙迷チ其Dノ數ニ
 チ除スベシ例令バ二Dノ焼距ハ100 即チ五十仙迷ナリ

注意新式ノ一Dハ舊式ノ100ナリ故ニ四十ナル數チ
 新式ノD數ニテ除スレバ
 舊式ノ番號チ得
 新式ノD數チ得

例令バ二Dハ100 即チ二十番ナリ 〇二十番ハ100 即チ二Dナリ
 新舊比較表

新式	舊式
0.5	= 80
0.75	= 60
1.0	= 40
1.25	= 30
1.5	= 24
1.75	= 22
2.0	= 20
2.6	= 16
3.0	= 13
3.5	= 11
4.0	= 10
4.5	= 9
5.0	= 8
6.0	= 6.5
7.0	= 5.5
8.0	= 5
9.0	= 4.5
10.0	= 4
11.0	= 3.5
12.0	= 3.3
13.0	= 3
15.0	= 2.5
20.0	= 2
30.0	= 1.5
40.0	= 1

近視ノ度ハ遠點ノ距離チ以テ定ム遠點二十ツアルニ近視ノ度ナレバ12ニツガ
 ルニナレバ12ナリ遠點ヲ定ムル簡便法ハ細字ノ了視セラルベキ最大距離ヲ求メ
 テ以テ遠點トスルニアリ其他眼鏡ヲ用井テ之チ定ム例令バ一D一、五D一、七五D
 ノ凹鏡ヲ用ユルモ視力100ニ達セズ二D及二、五Dノ凹鏡ハ共ニ視力チ100トナ
 ストキハ二鏡中ノ弱キ者即チ二Dノ凹鏡ハ適度ノ眼鏡ナリ其焼距ハ100 即チ50仙
 迷ニシテ遠點ハ五十仙迷即チ二十ツアルニナリ
 二D以下チ輕度トシテ二D乃至六Dチ中度トシ六D以上チ強度トス
 遠視ノ度ヲ定ムル法スネルレン氏試視力表チ二十フットトニ置キ最大視力チ與フ
 ル凸鏡ヲ求メ其中最モ強度ノ者ヲ適度トス例之バ三D、四D、五D共皆視力20
 20チ出シ之レヨリ上リテ視力却テ損セバ五D即チ適度ノ凸鏡ナリ而シテ其焼距ハ
 100 二十仙迷ナレバ眼ノ遠點ハ二十仙迷(八ツアル)後方ニアルチ知ルナリ
 近視眼

(1) 弱度ノ近視(二D以下)ニハ遠用トシテ矯正眼鏡ヲ與フ近用ニハ眼鏡ヲ用井ズ
 (2) 中度ノ近視(二乃至六D)ニハ遠用トシテ矯正眼鏡近用トシテ弱度ノ眼鏡ヲ與
 フ(即チ就業距離十二ツオアルレナルトキハ矯正眼鏡ノ度ヨリ若シ十六ツオ
 ルレナルトキハ十ツヲ減シタル者)然レドモ如此ナルトキハ遠近ヲ見ルニ毎回
 眼鏡ヲ交換スルノ不便アルヲ以テ遠近兩用トシテ矯正眼鏡ヨリ一、二Dヲ減
 シタル者ヲ與フ
 (3) 強度ノ近視(六D以上)ニハ近用眼鏡ヲ常用セシメ遠望ノ際ニハ補正眼鏡(ロ
 ル子ツト)ヲ可トス)ヲ加フ例令ハ八Dノ近視ナレバ五Dヲ常用トシ三Dヲ補
 正眼鏡トス

遠視眼

(1) 遠視者眼精疲勞ヲ訴フル者ニハ先ツ遠視ノ度ヲ定メ其矯正眼鏡ヲ與ヘ暫時使
 用セシメテ(例令ハ讀書)疲勞去ラザレバ眼鏡ノ度強キモノヲ漸々ニ與ヘテ全
 ク疲勞ナキニ至ルベシ而シテ其最後ノ度ヲ適度トナス
 (2) 真正遠視ハ遠望モ亦不明ナルガ故ニ遠用近用共ニ眼鏡ヲ與ヘ毎回之ヲ交換
 スルヲ要ス交換ノ繁ヲ除クニハ遠用眼鏡ヲ常用トシ近業ヲ執ルニ當リテ補正
 眼鏡(ロル子ツト)ヲ加フベシ
 (3) 老視眼ニハ十二ツオアル即チ三十仙迷ノ距離ニ於テ細字ヲ了視シ得ベキ凸鏡
 ヲ檢出ス今通常年齢ト其適度凸鏡トヲ示セバ左表ノ如シ

年 齡	眼 鏡 度	
	舊	新
45	+ $\frac{1}{20}$	+ 0,5D
50	+ $\frac{1}{15}$	+ 1 D
60	+ $\frac{1}{10}$	+ 2 D
70	+ $\frac{1}{7}$	+ 3 D
80	+ $\frac{1}{5}$	+ 4 D
90	+ $\frac{1}{3}$	+ 5 D

近視ニシテ老視ヲ合併スルトキハ近用トシテ凸鏡ヲ與フコトアルモ其度正視ニ於
 ケルヨリモ弱ナリ近視一D即チ患者六十歳ナルトキハ一Dノ凸鏡ヲ要スル
 ガ如シ、遠視眼ニ老視ヲ合併スルトキハ其近用凸鏡ノ度ハ遠視ノ度ニ正視者ノ老
 視ニ要スル度ヲ加ヘタルモノナリ例令ハ五十歳ノ遠視患者ニシテ遠視二Dナルト
 キハ之ニ正視者ノ五十年ノ度一D(老視参照)ヲ加ヘ即チ三Dノ凸鏡ヲ與フ
 亂視眼
 近眼或ハ遠視ヲ兼メル患者ニハ先ツ適當ノ眼鏡ヲ以テ之レヲ矯正シ而後凹或ハ
 凸圓柱鏡ヲ採リテ度ヲ畫シタル棒ニ籍入シ徐ニ回轉スヘシ患者最大視力ヲ得ル

トキニ當リ梓ニ就キテ軸ノ方向ヲ定メテ其主經線ノ方向ト度トヲ知悉スベシ

(一)單性亂視 ニハ凹面若ハ凸面柱鏡ヲ處ス

(二)複性亂視 ニハ凹面或ハ凸面球面鏡ニ更ニ圓柱鏡ヲ加フベシ

例令ハ凹面二D兼凹面圓柱鏡一D軸七十五度洋式(−2Ds(−1.1De))

(三)雜性亂視 ニハ複雙圓柱鏡ヲ與フ

例令ハ甲主經線ハ近視二Dニシテ乙主經線ハ遠視三Dナラバ二D凹面圓柱

鏡ト三Dノ凸面圓柱鏡ノ軸ヲ九十度ニ交叉シテ相合セル者即チ眼鏡ノ一面

ハ圓柱狀ニ凸曲シ一面ハ圓柱狀ニ凹曲シテ軸ノ相直角セル者ヲ用ユ洋法略

式(−2De + 3De)

或ハ甲主經線ニハ二Dノ凹球面レンスヲ裝置シテ主經線ニ對シテハ二D

ノ凸圓柱鏡ヲ用ユ(−2Ds + 5De)

第十六章 血液検査法

検査ニ用ユベキ血液ヲ採取スルニハ豫メ指頭若クハ耳垂ヲ清洗シ乾燥セル後銳刀
尖若クハ銳鍼ヲ以テ深ク穿刺シ自然ニ湧出セル第一ノ血滴ハ之ヲ拭ヒ去リ第二以
下ノ血滴ヲ以テ検査ノ目的ニ使用ス血液採取ノ時期ハ毎食ノ中間時ヲ良シトス食
後直ニ行フヲ嫌フ之レ食後ニ於テハ血液成分ノ變常ヲ來セバナリ
血液検査上注意スベキハ

(1)血液ノ肉眼的検査

(2)新鮮血液ノ顯微鏡検査

(3)血球ノ計算

(4)血色素含量ノ檢定

(5)染色血液標本ノ調製及ヒ其ノ顯微鏡検査

此外血液ノ反應、比重、乾燥容積分光鏡検査等ノ檢定ヲ要スルコトアレドモ其ハ成
書ニ譲リ之ヲ略ス

第一 血液ノ肉眼的検査

肉眼的ニハ血液ノ色澤ヲ鑑識スルヲ要ス即チ健康ナル人ノ血液ハ鮮紅色ヲ呈スル
モ病的ニ存リテハ其紅色ノ度減少シ透明水様ニマテ變化スルニ至ル

第二 新鮮血液ノ顯微鏡的検査

少シク加温(人ノ體温ニ適セル位ノ度ニ)セル「チアプエクトグラス」ニ血滴ヲ取り之
ニ注意シテ「テックグラス」(同シク加温セル)ヲ接着シ其乾燥スルヲ豫防センガ爲
メ「ワゼリン」ヲ其周縁ニ塗布シ通例廓大ノ弱キ顯微鏡下ニ於テ之ヲ檢ス此際注意
スヘキハ次ノ如シ

(1)赤血球ノ形状 健康ナル人ノ赤血球ハ圓板狀ニシテ中央兩面ヨリ凹陥ヲ呈

ス此形状ハ諸種ノ重症貧血ニ在リテ變形ヲ來シ或ハ棍狀トナリ或ハ楔狀ビ
スタツト狀或ハ腎臟形トナル (Poikilocyten).

- (2) 赤血球ノ大サ 赤血球ハ白血球ト異リテ其大サ通例一様ナルモノニシテ平均 7.5 ミクロン^レノ直径ヲ有シ同一ノ人ニ在リテハ其大サ均一ナリトス然ルニ重症貧血患者ノ血液ニ在リテハ異常ニ其大サノ大小ヲ呈シ所謂ミクロチーテン^レ Microcyten^レノ種類ニ在リテハ通例ノ赤血球ノ半バニ達スルニ過ギザルアリ又之ニ反シテ「レ」クロチーテン^レ Macrocyten^レニ至リテハ 10-15 ミクロン或ハ其以上ノ直径ニ達スルコトアリ

注意 赤血球ノ大サヲ精確ニ測定スルニハ接眼鏡ニ「ミ」クロメートル^レヲ附着セシメテ計算スルモノニシテ此ノ際ノ尺度ノ單位ハ「ミ」クロン^レニシテ千分ノ一密迷ナリトス

- (3) 縊線狀排列 健常ナル赤血球ハ縊線狀 (Geldrollenartig)ニ排列スルモノナルドモ悪性貧血其他ノ重症貧血ニハ此排列ヲ認ムル^レ能ハザルニ至ル
- (4) 赤血球ノ色 健常ナル赤血球ノ色ハ帶紅黃色ナルドモ萎黃病其他ヘモグロビン^レノ減損スル疾患ニハ帶青白色トナル
- (5) 白血球 ハ其大サ種々ニシテ「ト」ミクロン^レノ直径ヲ有ス細胞體內ニハ多數ノ顆粒ヲ顯ハシ一個若クハ數個ノ核ヲ認ムルコトヲ得ベシ而シテ健康ナル人ノ血液ニ於テハ赤血球三百ニ付白血球一ノ比例ニシテツアイス氏D

ノ顯微鏡下ニテハ一視野ニ白血球三乃至五箇ヲ見出スニ過ギズ然ルニ一定ノ疾病ニ有リテハ其數増加シ來ルモノニシテ甚シク白血球増加(白血球ト赤白血球ノ比一ト五十乃至一二五至ルアリ)スルハ白血病ニ見ル所ニシテ少シク白血球ノ増加(白血球一ニ付赤白血球百前後)スルハ所謂白血球增多症 (Leucocytose)ト稱セラレ

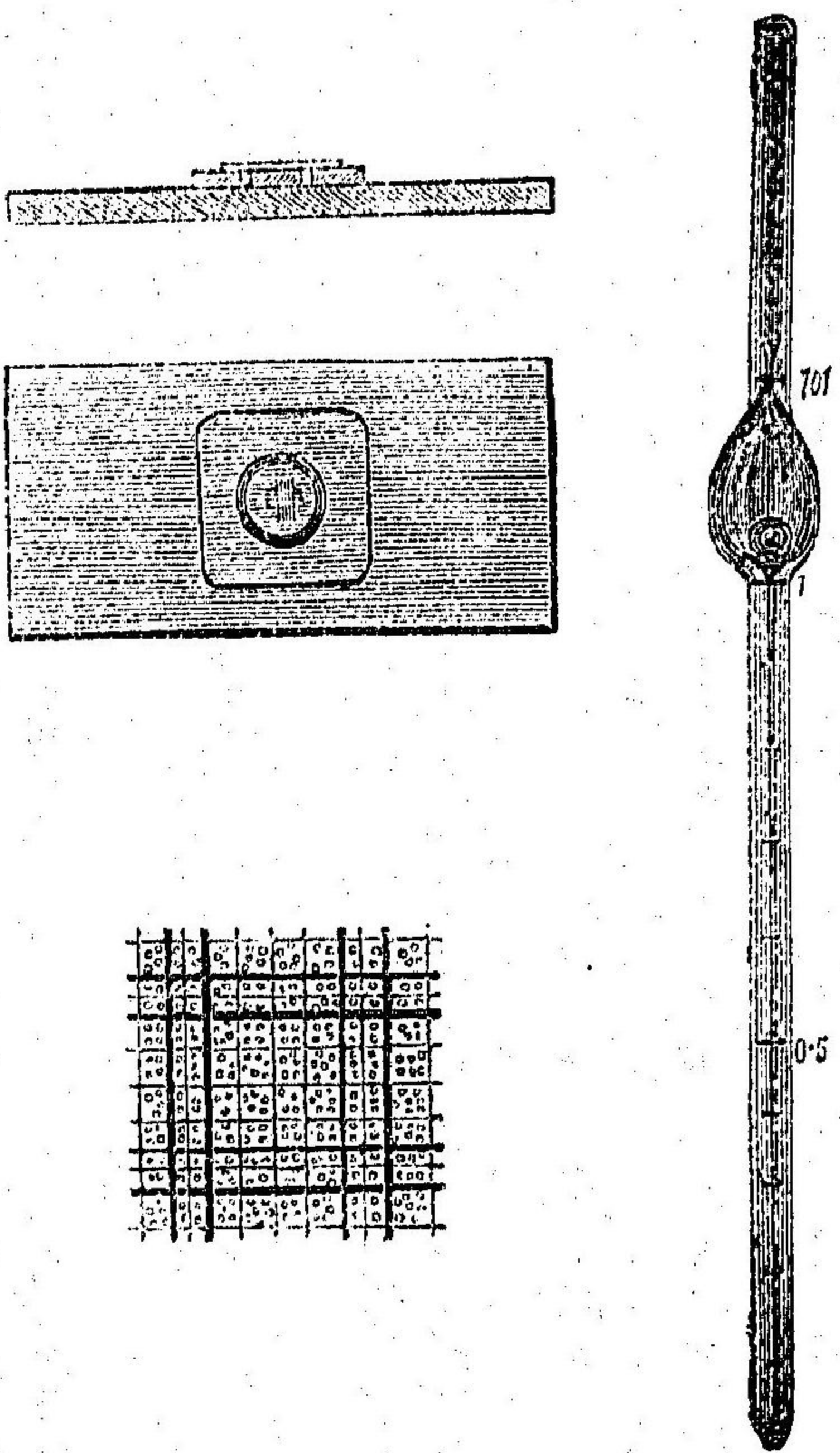
○第三 血球ノ計算

(1) 赤血球ノ計算

此目的ニハトーマ、ツアイス氏ノ計算器ヲ用ユ此器ハ一ノ膨大部ヲ有ス硝子製毛細管ト計算室トヨリナル(硝子製毛細管ハ即チ血液ヲ吸收シ適度ニ稀釋スルノ用ニ供スルモノニシテ其毛細管ニハ十箇ノ劃度ヲ示シ之ニ 0.5 及 1.0 ノ數字ヲ二箇所ニ記入セリ尙之ニ膨大部ヲ界シテ 101 ノ數字ヲ記入ス又膨出部内ニハ血液混和ヲ促進セシメンガ爲メ小硝子球ヲ具備セリ、計算室ハ 0.1 密迷ノ深サヲ有シ其底面ハ顯微鏡下ニ看取スベキ平方ニ區分セラレ其平方ノ面積ハ各四千分ノ一平方密迷ニ該當ス)

今此計算器ヲ用非テ血球ヲ計算セント欲セバ毛細管ノ 0.5 或ハ 1.0 ノ符號(血液ヲ 0.5 マテ取レバ 300 倍又 1.0 マテ取レバ 100 倍ノ稀釋トナル)マテ血液ヲ吸引シ次テ其管ノ尖端ニ附着セル過剰ノ血液ヲ濾紙ニテ除去シ次ニ豫

第八十圖



メ作り置キタル稀釋液ナ「H」符號マテ吸收シ（是迄ノ處作ハ可成手早ク行フ
 ナ可トス）能ク振盪混和シ大テ計算室ニ其混和液ヲ移スベシ而シテ其上ニ「
 ツクアラ」スヲ接着セシム此際計算室内ニ氣泡ノ生ゼザル様注意スベシ如此シ
 テ鏡檢ノ準備成ラバツア「H」氏接眼鏡「D」若クハ「L」氏接眼鏡六號ヲ用
 ヒ計算室ノ中央ヲ鏡下ニ致シ可成的多數ノ平方内ニ存スル血球數ノ平均數ヲ
 算出スベシ、其一平方内ニ存スル血球ノ數ヨリ一立方密迷内ノ血球數ヲ計算
 センニハ次ノ如クスヘシ

血液ノ稀釋二百倍ナラバ 800,000 ナ乗スヘク
 百倍ナラバ 400,000 ナ乗セヨ

血液稀釋液 ハ種々アリ或ハ生理的食鹽水ヲ用ヒ或ハ

昇汞 0.5 硫酸ナトリウム 5.0

食鹽 1.0 餾水 200.0（ハイエム氏液）ヲ用ヒ

或ハ次ノ液ヲ用ユ之ニテハ白血球着色スルガ故一見之ヲ識別シ得テ便ナリ

餾水 160.0 カリセリン 30.0

硫酸ナトリウム 8.0 食鹽 1.0 （トアソン氏液）

メチール紫 0.025

赤血球ノ數ハ健態ニテハ男子ハ一立方密迷中ニ五百萬女子ハ四百五十萬ヲ有
 ス諸種ノ貧血、白血病等ノ重症ニテハ其數著シク減少ス

附錄 血球ノ計算

(2)白血球ノ計算

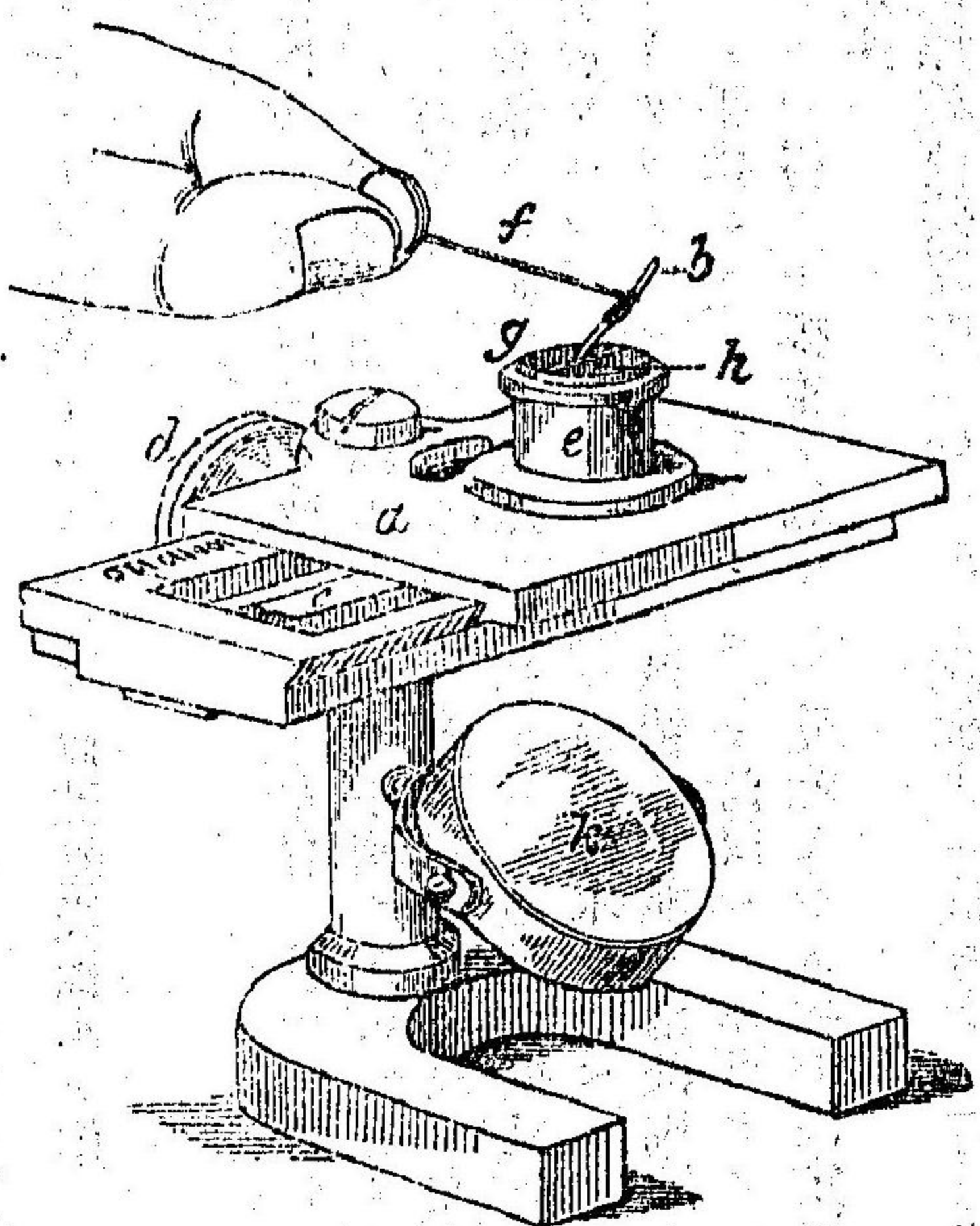
此法ハ赤血球ノ計算ト同様ナリ只白血球ハ其數少ナキガ故ニ稀釋ヲ弱ク(通例十倍乃至二十倍ニ稀釋ス)セザルベカラズ之ガ爲メ通例他ノ毛細管ヲ用ユ即チ十倍マテ稀釋シ得ルモノヲ使用ス而シテ白血球ノ計算ニ際シテ用ユル稀釋液ハ或ハトアソシ氏液ヲ用ヒ或ハ生理的食鹽水ニ「メチール紫ヲ加ヘシ者ヲ用ヒ或ハ赤血球ヲ破壊シテ白血球ヲ見易カラシムル爲メニ 0.5%ノ醋酸液ヲ以テ稀釋スルノ法ヲ取ルコトアリ

白血球ノ數ハ健態ニ在リテハ一立方密迷中五千乃至八千ヲ算ス

○第四 血色素含量ノ檢定

ガワ―氏血色素計 指頭ヲ消毒穿刺シC管內 50 迄血液ヲ取り少量ノ水ヲ入レタル管ニ移シ更ニB管ヨリ水ヲ加ヘBト同色トナルニ至ル假令B100ニテ同色ナレバ正當 50 ナレバ五十%○フライシエル氏器 水ニ溶解セル血液ノ色ヲ紅色ノ硝子楔ト比較スルモノニシテ血液ヲ一定容ノ毛細管ニ採リ二ツニ區分セル硝子底ヲ有スル圓筒ノ一半ニ於テ水ニ溶解シ他ノ一半ハ單ニ水ヲ充シ之ヲ暗室ニテ石油燈ノ光ヲ該圓筒ノ下方ニ裝置セル義布斯板ヨリ受ケシメテ上方ヨリ伺ヒ着色セル硝子楔(之レハ水ニテ充セル圓筒半側ニ該當ス)ヲ螺旋ニヨリテ左右ニ移動セシメ其色彩ト水ニ溶解セル血液ノ色ト相一致スル所ヲ求メ側方ノ刻度ニヨリテ血色素

第十八圖



ノ百分比ヲ得ベシ

○第五 血液染色標本ノ調製及其顯微鏡検査

血液ノ染色標本ヲ作り之ヲ検査センニハ先ツ血液乾燥標本ヲ作り之ヲ固定シ染色セザルベカラズ

(1) 乾燥標本ノ製法

先ツ二枚ノ清淨ナル載物硝子ヲ取り其各ヲ左右ノ手ニ一個ツ、保持シ右手ノ「デツキグラス」ノ中央ヲ新ニ湧出セル血液小滴ニ接觸セシメテ血液ノ小量ヲ附着セシム次ニ右手ノ「デツキグラス」ノ血液附着面ヲ以テ左手ノ「デツキグラス」面ヲ覆ヒ血液ヲ兩板間ニ自然ニ擴延セシム血液ガ擴延シ終リシ瞬間ニ兩板ヲ左右ニ引放ツベシ、カクシテ二枚ノ血液標本ヲ得ベシ

注意 デツキグラス「ヲ取扱フニハ酒精ニテ能ク清洗脱脂スルヲ要ス然ラザレバ手指ニテ「デツキグラス」ヲ汚染シテ不可ナリ

上述ノ如クニシテ得タル標本ヲ氣中ニテ乾燥セシメ次テ固定法ヲ行フ

(2) 血液標本固定法

之ニハ或ハ乾熱殺菌裝置内ニ於テ或ハ銅板上ニ置キテ 110—120°Cノ熱ニ當ラシムルコト半乃至二時間ニシテ之ヲ取り出シ冷却スルヲ待ツ

最も簡便ニシテ速成ナルハ無水酒精或ハ無水酒精及ビ「エーテル」ノ等分ナル

混合液ニ五分乃至二十分浸漬固定スルノ法ナリトス

(3) 乾燥血液標本染色法

血液標本ノ染色ニハ單純ノ染色ヨリハ好シテ複染法ヲ用ユ此目的ニ用ユル染色法ハ種々アリ通例臨床上ニ使用スルハ次ノ如シ

第一法 1%エオジン酒精溶液ニ五分間浸漬シ之ヲ洗ヒ去リ次テ「レフル氏」メチレン青液ニ短時間複染シ標本ガ肉眼ニテ紫色ヲ呈スルニ至ル

チ度トシテ清水ニテ洗ヒ乾燥シ「バルザム」ニテ固封シ鏡檢スベシ

第二法 チエンチンスキー氏法

メチレンアラウ飽和水溶液 3—5分

二百倍エオジン酒精(10%モノ)溶液 1分

蒸餾水 2分

第三法 ウイツレブランド氏法

エオジン 0.5

稀酒精 (70%) 各25.0

メチレンアラウ濃水溶液 10—15滴

稀醋酸液 (1%) 右使用ニ臨ミ濾過シテ用ユベシ

此液ニヨルトキハ核ハ暗青色ニ赤血球ハ紅色ニ中性顆粒ハ紫色ニ染色スベシ
第四法 ロマノフスキー、チーマン氏法(改良)

第一液 メチレンブラウ

硼砂

第二液

エオジン
靛水

1.0
2.5
100.0
0.1
100.0

右第一ト第二トナ₁ノ割合ニ混シ時計皿ニ盛リテ五分間作用セ
シメ後濃青紫色ニ染色セシ標本ヲ取り出シ稀醋酸(極メテ稀キモ
ノ)ニ浸シテ標本ノ赤色トナルマデ脱色シ次テ洗滌乾燥シ「バル
サム」ニテ固封ス

第五法 エールリヒ氏三酸液

之ハカリエブレル會社ニテ製造セラレシ者ヲ以テ十五分間染色スレ
バ美麗ナル染色標本ヲ得ベシ核ハ帶綠青色ニ「エオジン」嗜好細胞ハ
紅色ニ赤血球ハ橙黄色ヲ呈ス

第六法 エオジン、ヘマトキシリン後染法

之レハ「ヘマトキシリン」ニテ染色シ次テ「エオジン」ニテ染色スルモ
可ナレドエールリヒ氏ハ次ノ處方ニテ混合液ヲ作レリ

結晶エオジン

0.5

ヘマトキシリン

3.0

無水酒精

靛水
グリセリン

各100.0

氷醋酸

10.0

明礬

過剰ニ加フ

右ニ半乃至一時間浸漬作用セシム

此液ハ核ノ染色著明ナリ顆粒ノ染色ニハ不適當ナレトモ永久標本トシテ保存
シ得ルノ利アリ

(4)顯微鏡検査

染色標本ニ就キテ顯微鏡検査ニ際シ注意スベキハ次ノ如シ

(I)白血球

淋巴球 其大サ小ニシテ核ハ比較的大ニシテ濃染シ原形質ハ極メ

テ狭シ此種ハ健態ニテハ15%ニ至ルヲ含ム

大單核白血球 之ハ赤血球ヨリ二三倍大ニシテ核ハ橢圓形ニシテ

大多クハ中心ヨリ偏シテ位シ染色淡ナルヲ常トス原形質モ比較的

豊富ニシテ顆粒ヲ有セズ此種ハ約1%ヲ含ム

- ① 移行性細胞 前者ト相似タレドモ核ハ分裂セントスルカ如クニシテ馬蹄形ヲ呈シ原形質ニハ稀數ノ中性顆粒ヲ具有ス之ハ10-15%ガ正常ナリ
- ② 多核並ニ多形中性白血球 前者ヨリハ稍小ニシテ數個ノ核ヲ有スルカ或ハ不規則ニ分裂セル核ヲ有シ原形質ニハ中性顆粒ノ多數ヲ具有ス之ハ約70%ヲ含ム
- ③ エオジン嗜好細胞 之ハ前者ト相似タレド其特有ナルハ粗大ナル「エオジン」ニ強ク着色スル顆粒ヲ有ス之ハ健態ニテハ10-15%ナリ
- ④ 肥胖細胞 核ハ多形ニシテ原形質内ノ顆粒ハ粗大ニシテ鹽基性アニン色素(メチレン青メチール紫ノ如キ)ニ着色スル特性アリ之ハ健態ニハ極メテ稀ニ顯ハル以上ハ健態ニ呈ハル、モノニシテ病的狀態ニノミ呈ハル、ハ次ノ如シ
- ⑤ 單核中性細胞又ハ骨髓細胞 之ハ大ナル細胞ニシテ核モ大ニシテ弱染性ニシテ原形質ハ中性顆粒ヲ有ス
- ⑥ 單核エオジン嗜好細胞又ハ「エオジン嗜好骨髓細胞」之ハ其形前者ノ如クニシテ只顆粒粗大ニシテ「エオジン」ニヨリテ強ク染色サ

ルルヲ異トス

- ① 中性假性小淋巴細胞 小ナル單核細胞ニシテ核ハ強ク染色シ原形質ニ中性顆粒ヲ有スルモノナリ

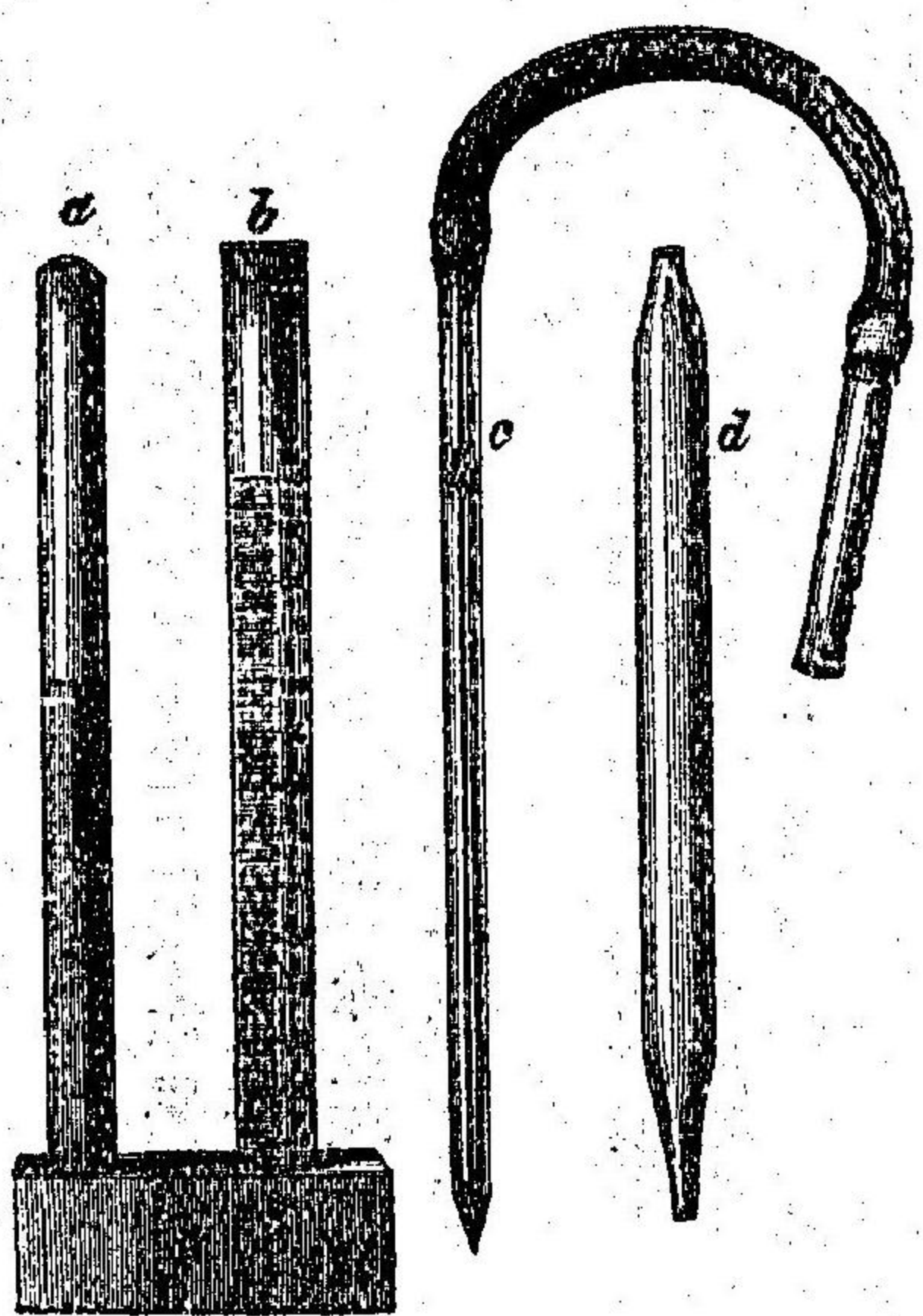
② 赤血球

赤血球ニシテ其形ノ異常ニ大小ヲ呈ハスハ前ニモ述ベシ所ナルモ其外有核赤血球アリ之ハ即チ赤血球ニシテ一個若クハ數個ノ核ヲ具有スルモノニシテ其大サ赤血球ト同等ナルチ「ノルモブラステン」(Normoblasten)ト稱シ赤血球ニ對シニ二三倍大ナル者ヲ「メガロブラステン」(Megaloblasten)ト名ク

⑤ マラリア寄生蟲検査

血液中ノ「マラリア寄生蟲」ヲ檢出スルノ法ハ發作ノ起ル前數時間ニ(此時期ニ寄生蟲ハ最モ大ナリ)耳垂ニ刺傷ヲ作ル小血滴ヲ「デツキガラス」ニ着ケ薄ク之ヲ「チアエクトガラス」トノ間ニ擴延セシメテ得タル標本ヲ強キ廓大力ノ鏡下ニテ検査スベシ
或ハ又前記ノ法ニ從テ血液乾燥標本ヲ作り固定シ染色鏡檢スルモ可ナリ而シテ検査ノ目的ニハ血液標本染色法中ノ第四法若クハ第一法ヲ應用スベシ然レバ寄生蟲ト白血球核トハ青色ニ染ミ赤血球ハ紅色ニ染ムベシ

第八十二圖
ガツ氏血色素



a 1% 血液標準液
b 血液稀釋管
c 血液吸採管
d 常水吸採管

第十七章 三輪博士ノ年齢鑑定法

生體死體ノ別ナク法醫學上年齡鑑定ノ必須ナルハ言ヲ要セズ例令刑法第三百四十六條同第三百四十七條同第三百四十九條及同第三百五十二條並民法人事篇第三十條民事訴訟法第三百十條ノ場合ニ於ケルガ如シ三輪德寬氏茲ニ見アリ多年研究ノ結果一万四百九十八ニ對スル身長及頭部ノ周圍徑ヲ計測シ且ツ身長ト身長及頭圍ノ百分比(身長ニテ頭圍ヲ除ス)ヲ表示シ而シテ被鑑定者ノ身長ト身長及頭圍ヲ測リ其百分比ヲ以テ表中ノ百分比ニ對比シ其最モ近似セル數ノ年齢ヲ取リテ鑑定スルコトヲ案出セラレタリ今博士ノ許諾ヲ得該表ヲ摘錄スルコト左ノ如シ計測法 身長ハ生體ニアリテハ起立位ニ於テ、三歳以下及死體ニアリテハ仰臥位ニ於テ計測シ頭圍ハ外後頭結節ト眉間トノ間ニ於テ測定セリ

左表ハ各年齢ノ中間數ヲ掲出セルモノニ付同表中例之六年乃至七年ノ身長百〇六仙迷トアルハ六年六七ヶ月ニ相當スルモノナルヲ以テ若シ被鑑定者ノ身長百〇五仙迷ナルトキハ該兒ノ年齢ハ六年半ヨリハ年少ナルモノト計測スルガ如シ又百分比ノ對比ニ付一二ノ實例ヲ擧グレバ左ノ如シ

第一例 一男子身長百二十九、五仙迷頭圍五十三仙迷ニシテ其%數四十、九仙迷ノ者アリ今之ヲ表ニ對照スルニ百二十九、五仙迷ノ身長ハ十二歳乃至十三歳ノ間ヨリ稍年少ニシテ四十、九%數ハ十一歳乃至十二歳ノ間ニ相當スル

年齡鑑定標準表 女子ノ部

年 齡	身長	頭 圍	百分比例% 身長頭圍
初生兒	47,8	32,8	68,6
六ヶ月—七ヶ月	62,7	40,9	65,2
一年——一年六ヶ月	69,6	44,2	63,5
一年七ヶ月—二年	72,2	44,4	61,5
二年——二年六ヶ月	78,7	46,5	59,1
二年七ヶ月—三年	83,7	47,4	56,6
三年——三年六ヶ月	89,7	47,2	52,6
三年七ヶ月—四年	90,8	47,9	52,7
四年——四年六ヶ月	93,9	48,4	52,6
四年七ヶ月—五年	97,8	48,4	49,5
五年——五年六ヶ月	98,2	48,7	49,6
五年七ヶ月—六年	101,5	48,7	47,9
六年——七年	105,4	49,4	46,8
七年——八年	109,7	49,5	45,1
八年——九年	113,9	50,0	44,1
九年——十年	118,7	50,5	42,5
十年——十一年	123,0	50,9	41,3
十一年——十二年	127,0	51,3	40,4
十二年——十三年	132,4	52,0	40,3
十三年——十四年	138,0	52,6	38,1
十四年——十五年	142,2	53,2	37,4
十五年——十六年	144,4	51,3	37,3
十六年——十七年	146,4	54,4	36,7
十七年——十八年	145,4	52,9	36,3
十八年——十九年	146,5	55,4	37,8
十九年——二十年	146,3	53,0	36,2

年齡鑑定標準表 男子ノ部

年 齡	身長	頭 圍	百分比例% 身長頭圍
初生兒	49,2	32,9	66,9
六ヶ月—七ヶ月	62,3	41,9	67,2
一年——一年六ヶ月	70,4	45,8	65,3
一年七ヶ月—二年	74,4	46,1	61,9
二年——二年六ヶ月	79,1	47,5	60,6
二年七ヶ月—三年	82,8	48,2	58,2
三年——三年六ヶ月	89,5	48,4	54,1
三年七ヶ月—四年	91,8	48,5	52,8
四年——四年六ヶ月	94,1	48,8	51,1
四年七ヶ月—五年	96,6	49,4	51,1
五年——五年六ヶ月	100,9	49,3	58,9
五年七ヶ月—六年	104,9	50,0	48,6
六年——七年	106,4	50,4	47,3
七年——八年	111,8	50,6	45,3
八年——九年	115,6	50,8	43,9
九年——十年	120,4	51,1	42,4
十年——十一年	123,1	51,2	41,6
十一年——十二年	127,4	51,3	40,3
十二年——十三年	132,8	51,9	39,1
十三年——十四年	139,3	52,5	37,6
十四年——十五年	144,7	52,8	36,5
十五年——十六年	150,4	53,5	35,5
十六年——十七年	154,7	53,8	34,7
十七年——十八年	156,6	54,6	34,8
十八年——十九年	158,2	55,3	34,6
十九年——二十年	158,4	54,6	34,5

ヲ以テ其平均數即チ十一歳六ヶ月ト鑑定センニ其實際ノ年齡ハ十一歳ナリ
12歳 11歳 10歳 9歳 8歳 7歳 6歳 5歳 4歳 3歳 2歳 1歳

第二例 一女子身長百二十五、五仙迷頭圍五十、二仙迷ニシテ其%數四十仙迷ノ者アリ之ヲ同上ノ表ニ照スニ百二十五、五仙迷ノ身長ハ十一歳ニ相當シ四十%數ハ十二歳ニ相當スルヲ以テ其平均數即チ十一歳六ヶ月ト鑑定センニ其實際ノ年齡ハ十一歳ナリ
11歳 10歳 9歳 8歳 7歳 6歳 5歳 4歳 3歳 2歳 1歳

本法ノ始ニ掲ケタル刑法ハ本書法律規則摘錄ノ條項ニアリ

○第十八章 水ノ検査法

水ノ化學的検査法

水ノ良否ヲ鑑別シテ其飲料ニ供シ得ベキヤ否ヲ定ムルニハ化學的及細菌學的ノ検査ニ由ラザル可カラズ而シテ其化學的及細菌學的ノ精密ナル検査ハ共ニ熟練ナル専門家ノ技術ニ屬スルガ故ニ普通ノ場合ニ於テハ不充分ナルモ次ノ化學的検査ニ満足セザルヲ得ズ

飲料水ハ透明無色無臭ニシテ清涼ナル味ヲ有シ中性若クハ弱アルカリ性ノ反應ヲ呈シ次ノ化學的検査ノ方法ニ從ヒ左ノ限界量ヲ超過ス可カラザルモノトス
第一 痕跡ダモ含有スベカラザルモノ

- (一) アンモニア
- (二) 亞硝酸

第二 一定ノ限界量ヲ超過スベカラザルモノ

- 検査 千分(一〇〇〇、〇〇〇)中
- (一) クロール 〇、〇二乃至〇、〇三分
- (二) 硝酸 〇、〇〇五乃至〇、〇一五分
- (三) 硫酸 〇、〇八乃至〇、一分
- (四) 硬度 一八乃至二〇度
- (五) 有機物質 カメレオンノ消費量〇、〇〇六乃至〇、〇一分
- (六) 總残渣 〇、五分以下

○第一 アンモニア

試薬ハチツスレル氏試薬ヲ用ユ

検査水五十立方センチメートルヲ直径二乃至三立方センチメートルノ硝子圓筒ニ注キ一立方センチメートルノ「ナトロン」満汁(一ト四)及二立方センチメートルノ炭酸「ナトロン」溶液(一ト三)ヲ加ヘ大約一時間ノ後其上澄液ヲ同大ノ硝子圓筒ニ分取シ一乃至二立方センチメートルノ「チツスレル」氏液ヲ混和スベシ「アンモニア」分混在スルトキハ無色ノ検査水黄色乃至黃褐色ヲ呈スベシ

チツスレル氏試薬ハ二分ノ「ヨードカリ」ヲ五分ノ水ニ溶解シ其溶液ニ少許宛赤色ヨード赤ヲ溶解セザルニ至ルマデ混和シ之ニ二十分ノ水及四十分ノ苛性カリ(一ト二)ヲ加ヘ静置シテ其上清ヲ石綿ニテ濾取スベシ

〇第二 亞硝酸

試薬ハ「ヨードカリ濃粉溶液」若クハ異性フエニールンヂアミン」ヲ用ユ

檢水五十立方センチメートルヲ硝子圓筒ニ盛リ一乃至二立方センチメートルノ稀硫酸(一ト五)ヲ加ヘ之ニ大約〇、五立方センチメートルノ「ヨードカリ濃粉溶液」ヲ加フベシ亞硝酸分混在スルトキハ淡藍色若クハ黒藍色ヲ呈ス而シテ此際一立方センチメートルノ異性フエニールンヂアミン」ヲ應用スルトキハ無色ノ檢水黃色ヲ呈スルモノトス

ヨードカリ濃粉液ハ二分ノ濃粉ヲ五十分ノ水ト共ニ煮沸シ糊化スルヲ待テ〇、二分ノ「ヨードカリ」ヲ混シ更ニ留水ヲ追加シ全量ヲ百分トナスベシ
異性フエニールンヂアミン溶液ハ〇、五分ノ鹽酸異性フエニールンヂアミン」ヲ稀硫酸々性ノ留水百分ニ溶解ス

〇第三 クロール

試薬ハ硝酸銀ヲ用ユ

十乃至二十五立方センチメートルノ檢水ヲ試験管ニ盛リ硝酸二三滴ヲ加ヘ硝酸銀液(一ト二)〇五滴ヲ加フベシ之ニ由リ檢水中ノ格魯兒分ハ鹽化銀ヲ化生シ含量ノ多少ニ從ヒ蛋白石濁又ハ乾酪狀ノ沈澱ヲ生ズベシ故ニ其概量ヲ測定セント欲セバ次テ更ニ對照液ノ(クロールナトリウム)〇、三二九瓦留水一〇〇〇、〇(瓦)十乃至二十五立方センチメートルヲ同大ノ試験管ニ取リ二三滴ノ硝酸ヲ加ヘ同強度ノ硝酸銀液五滴ヲ注ギ生成スル濁濁又ハ白澱ノ濃淡及多少ヲ檢水ノモノト比較スベシ此際檢水ヨリ生成セシ濁濁濃ナルカ或ハ其沈澱多量ナルトキハ檢水ハ「クロール」ノ限界量ヲ超過スルモノトス

〇第四 硝酸

試薬ハ「アルチン溶液」ヲ用ユ

檢水二十五立方センチメートルヲ硝子圓筒ニ取リ「アルチン溶液」四五滴ヲ加ヘ器壁ニ沿フテ靜ニ同容量ノ濃厚硫酸ヲ注加スベシ此際其接界面ニ於テ美赤色ヲ呈スルトキハ硝酸分ヲ含ムモノトス

アルチン溶液ハ一分ノ「アルチン」ヲ五分ノ硫酸ニ溶解シ留水百分ヲ加ヘテ稀釋スベシ

前述ノ方法ニ由リ檢水硝酸分ノ存在ヲ徵スルトキハ更ニ對照液(硝酸カリ二、八〇四瓦留水一〇〇〇、〇(瓦)ノ二十五立方センチメートル)ヲ取リ之ニ前記ト同量ノ「アルチン」溶液及濃厚硫酸ヲ注加シ茲ニ現出スル美赤色ヲ檢水ノモノト對比シ對

照液ノ美赤色淡ナルトキハ檢水ニ於ケル硝酸ノ含量ハ限界量ヲ超過シタルモノト認ムベシ

○第五 硫酸

試薬ハ鹽化バリウムヲ用ユ
硫酸及其鹽類ハ鹽酸々性ノ溶液ニ於テ鹽化バリウムニ觸ル、ヤ硫酸バリウムヲ
化生シ含量ノ多少ニ從ヒ白濁若クハ白塗ヲ生ズ故ニ今檢水二十立方センチメートル
ルニテ試験管ニ取り二三滴ノ鹽酸ヲ加ヘテ之ニ鹽化バリウム液ヲ加フベシ此際白
濁若クハ白塗ヲ生ズルトキハ檢水ハ硫酸分ノ存在ヲ示スモノトス而シテ其概量ヲ
測定セント欲セバ他ノ試験管ニ對照液タル〇、〇一%ノ硫酸液二十立方センチメ
ートルニテ取り同一ノ操作ヲ施シ生成スル潤濁ノ濃淡若クハ白塗ノ多少ヲ比較ス
ベシ檢水ニ於ケル潤濁若クハ白塗淡ナルカ若クハ少量ナルトキハ限界量ヲ超過セ
ザルモノトス鹽化バリウムハ一分ノ鹽化バリウムニテ十九分ノ留水ニ溶解スベシ

○第六 硬度

試薬ハ碳酸アンモニウムヲ用ユ
硬度トハ水千分中ニ混在スルカルシウム及マグネシウム鹽類ヲ酸化カルシウム
ニ改算シタル數量ヲ云ヒ之ヲ計測スルニハ一定ノ方法ヲ要スルハ勿論ナリト雖ド
モ簡便ニ檢定セント欲セバ左ノ方法ヲ用井「カリシウム」ノ存否ヲ試ムベシ

カルチウム鹽類ハ「アンモニア、アルカリ性」ノ溶液ニ於テ碳酸若ハ碳酸アンモニ
ウムニ觸ル、ヤ碳酸カルシウムヲ化生シ含量ノ多少ニ從ヒ白色ノ潤濁若クハ白
塗ヲ生ズ故ニ今檢水五十立方センチメートルヲ硝子圓筒ニ取り五六滴ノ「アンモ
ニア水」ヲ加ヘ之ニ碳酸アンモニウム液(一ト二)十二、九六ヲ注加スベシ此際潤
濁若クハ白塗ヲ生ズルトキハ「カルシウム」ノ存在ヲ示スガ故ニ其概量ヲ知ラント
欲セバ他ノ硝子圓筒ニ對照液(硫酸カルシウム六、一四二瓦留水一〇〇〇、〇五)五
十立方センチメートルヲ取り同一ノ操作ヲ施シ生成スル潤濁ノ濃淡及ビ白塗ノ
多少ヲ比較スベシ檢水ニ於ケル潤濁淡ナルカ若クハ白塗少量ナルトキハ限界量ヲ
超過セザルモノト認ムベシ

○第七 有機質分

試薬ハ過マンガン酸カリ液(過マンガン酸カリ〇、三二瓦留水一〇〇〇、〇五)ヲ用
ユ
檢水ニ於ケル有機質分ヲ檢知スルニハ大凡其五十立方センチメートルヲ「ペー
ル」ニ取り稀硫酸ノ二、五立方センチメートルヲ加ヘ〇、五立方センチメートル
ノ過マンガン酸カリ液ヲ混和シ銅網上ニ於テ五分間煮沸スベシ此際淡赤色ノ溶液
脱色スルトキハ有機質分ノ存在ヲ徵ス故ニ其概量ヲ檢知セント欲セバ更ニ檢水百
立方センチメートルヲ「ペーヘル」ニ取り之ニ稀硫酸(一ト三)五立方センチメ
ートルヲ加ヘ銅網上ニ於テ五分間煮沸シ次テ火ヲ去リ大約九十度ニ冷ユルヲ待

チ無色ノ溶液混濁セサル蓋被紅色ヲ呈スルニ至ル迄過マンガン酸カリ液ヲ滴加シ
茲ニ消費セル容量ヲ檢知シ置キ更ニ對照液 蓆酸〇、〇五瓦縮水一〇〇〇、〇五〇百
立方センチメートルヲ他ノ「ペーヘル」中ニ取り同上操作ヲ施シ茲ニ持續性ノ蓋被
色ヲ呈スルニ至ルマテ消費セシ(理論上三、一六立方センチメートル)ノ過マンガ
ン酸カリヲ要ス)過マンガン酸カリ液ノ容量ヲ檢水ニ要セシ容量ト比較スベシ檢
水ニ於ケル過マンガン酸カリ液ノ消費量三、一六立方センチメートル以上ナルト
キハ限界數ヲ超過セル有機質分ヲ含有スルモノト認ムベシ

〇第八 總殘渣

凡ソ百二十立方センチメートルヲ入ルベキ清淨ナル磁皿ヲ乾燥シテ豫メ秤量シ
次テ之ヲ重湯煎上ニ上セ更ニ二百五十立方センチメートルノ檢水ヲ硝子圓筒中
ニ秤取シ該圓筒ノ流出口邊ニ薄ク脂肪ヲ塗リ硝子棒ヲ以テ適量ツ、ヲ磁皿ニ注ギ
悉ク蒸發乾燥スルヲ待テ乾燥器ニ移シ百十度ノ溫ヲ與ヘ大凡三時間放置スル後硫
酸乾燥器中ニ放冷シテ秤定シ不變量ヲ得ルニ至リ之ヨリ磁皿ノ量ヲ減シ其差量ニ
四乗スルトキハ千分中ノ含量ヲ得ベシ

〇第十九章 諸關節損傷之類症鑑別

輓近エツキス光線ヲ骨折及ビ脱臼等諸種ノ診斷ニ應用スルニ至リテ骨折脱臼等ノ
診斷ハ此エツキス光線ニ由リテ最モ精密ニ之レヲ診斷シ得ベシ其他該光線ニ因テ

異物ヲ證明シ得ルコト卷末挿圖ノ如シ即チ指内ニ震彈ノ在ル寫眞版是レナリ

肩胛關節損傷之類症鑑別

〇第一 肩胛關節ノ打撲

- 第一 年齡 年齡ニ關セズ
- 第二 損傷發生 直達劇力ニ因テ生ズ
- 第三 肩頭圓隆 全肩胛部著シク平等ニ腫起ス逐日輕減シテ八日後ニ消失
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋ノ狀態肩峰突起著シク突隆セズ
- 第五 肩頭突起ノ軟部 溢血ヲ壓排スレバ虛性凹窩ヲ覺ユルコトアリ
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 肩頭突起ノ前後ニ於テ屢關節血腫ノ隆起スルヲ見ル
- 第七 疼痛 關節部ニ劇痛アリ肩胛突起ノ下方關節ノ前後面及ビ腋窩ヨリ壓
チ加フレバ疼痛増劇ス
- 第八 上肢軸ノ方向 關節内ニ達ス
- 第九 上肢ノ位置 變化ナシ肘頭ヲ強ク内轉スルコトヲ得又手ヲ容易ニ健側
ノ肩下ニ置キ其際肘關節ヲ胸廓ニ觸接セシムルコトヲ得
- 第十 上肢ノ長サ 上膊ノ長サ變化ナシ
- 第十一 上肢機能 初メ著明ノ機能障害アリ然レドモ速カニ恢復ス
- 第十二 關節頭ハ 關節内ニ運動スルコト常ノ如シ

- 第十三 軋音 ハ缺如ス
- 第十四 異常運動或ハ固定ナシ
- 第十五 整復ハ短小時日内ニ按摩法ニ由テ腫起著シク減少ス

○第二 肩頭突起上鎖骨脫臼

- 第一 年齡 専ラ中年
- 第二 損傷發生 直達劇力ニ因ル
- 第三 肩頭圓隆 著明ノ變化
- 第四 肩頭突起及三角筋狀態 異常ナシ
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 肩頭突起下ニ皮膚ノ凹窩ナシ
鎖骨外端肩頭突起上ニ位スルガ故ニ著明ノ隆起ヲ呈ス此外端肩頭突起ト誤認スルコトアルヘント雖ドモ鎖骨外端ハ肩頭突起ヨリモ遙カニ狭ク平滑ニシテ又疼痛劇甚ナラズ突隆下ノ凹窩内ニ於テ肩胛全部ハ前下方ニ下垂ス
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸
- 第七 疼痛 三角筋損傷アルトキ突隆部ノ頂點ニ疼痛アリ其他該部ヲ壓迫スル際ニ方テ井ニ上肢ヲ強ク運動スル時ニハ疼痛ヲ發ス
- 第八 上肢軸ノ方向關節ニ違ス

- 第九 上肢ノ位置 體側下垂、上端介轉スルコトアリ
- 第十 上肢ノ長サ 外觀的著明ノ延長アリ
- 第十一 虛動及實動共ニ容易
- 第十二 關節頭 關節頭ハ肩頭突起下ニ於テ營ムコト如常
- 第十三 軋音ナシ
- 第十四 異常運動、鎖骨ハ諸方ニ異常運動ヲ呈ス
- 第十五 整復 肩胛ノ上方運動及ビ肩頭突起上突起ノ下方壓迫ニ因テ直ニ變形ヲ除クコトヲ得

○第三 肩頭突起下鎖骨脫臼

- 第一 年齡 中年
- 第二 損傷發生 直達劇力
- 第三 肩頭圓隆 稍扁平トナリタル外觀アリ然ドモ全ク扁平ナラズ鎖骨上窩及ビ下窩共ニ消失ス
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋ノ狀態銳ク突出關節面ハ軟部ヲ隔テ、觸知ス
- 第五 肩頭突起下ノ軟部ニ凹窩ナシ
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸(鎖骨外端ニ由テ肩頭突起下ニ前方突隆ヲ見ルコトアリ)
- 第七 疼痛 虛動實動ノ際疼痛ヲ發ス、上肢ニ於テ時トシテ蟻走ノ感アリ

附錄

諸關節損傷之類症鑑別

- 第八 上肢輔ノ方向關節内ニ達ス
- 第九 上肢ノ位置 體ニ密接ス
- 第十 上肢ノ長サ 稍延長セルガ如キ外觀ヲ呈ス
- 第十一 上肢機能 障害著シ
- 第十二 關節頭 異常ナシ
- 第十三 軋音ナシ
- 第十四 異常運動 鎖骨外端ニ異常運動アリ
- 第十五 整復上膊ヲ外方ニ牽引シ鎖骨ヲ前上方ニ壓セバ容易ナリ

○第四 肩頭突起骨傷

- 第一 年齡 中年ニ最モ多シト雖ドモ老幼共ニ之レニ罹ルコトアリ
- 第二 損傷發生 大概直達劇力ニ因テ生ズ
- 第三 肩頭圓隆 肩頭扁平
- 第四 肩頭突起及三角筋ノ狀態 肩頭突起健側ニ比シテ稍低シ
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 凹窩ナシ
- 第六 肩胛異常凹凸 肩頭部突隆ノ増加ヲ證明スルコトアリ或ハ上肢ヲ上方ニ牽引スル際折骨部ニ角度狀屈折ヲ生ズルコトアリ
- 第七 疼痛 肩頭突起ニ劇痛アリ壓迫及ビ上膊強度ノ外轉ニ由テ増加ス

- 第八 上肢軸ノ方向 關節ニ達ス
 - 第九 上肢ノ位置 體側ニ下垂ス手ヲ健側肩胛部ニ置クコトヲ得
 - 第十 上肢ノ長サ 外觀的延長ス
 - 第十一 上下機能 實動的舉上不能或ハ困難ナルモ廻轉ニハ害ナシ
 - 第十二 關節頭 異常ナシ
 - 第十三 軋音 通常證明容易
 - 第十四 異常運動 通常容易ニ證明スルコトヲ得
 - 第十五 整復 上膊ノ鉛直舉上ノ際變形ハ消失ス然レドモ其他ノ位置ニハ再現ス
- 第五 肩胛骨頸骨傷
- 第一 年齡 中年及ビ老年
 - 第二 損傷發生 直達劇力
 - 第三 肩頭圓隆 甚ダ扁平ノ外觀アリ且ツ下垂ス
 - 第四 肩頭突起及ビ三角筋ノ狀態 肩頭突起著シク突出ス三角筋其中央部ニ於テ緊張甚ダシ
 - 第五 肩頭突起下ノ軟部 肩頭突起下ニ或ハ前方ニ於テ一ノ凹窩アリ凹窩内ニ容易ク指頭ヲ以テ挿入スルヲ得
 - 第六 肩胛部異狀ノ凹凸 肩頭突起ノ下方深部ニ於テ平滑ナル關節窩ノ位置ニ於テ骨折端ノ鋸齒狀ナルヲ觸知ス

- 第七 疼痛劇甚ナリ
 - 第八 上肢軸ノ方向 關節内ニ違ス
 - 第九 上肢ノ位置 弘緩状ニ下垂シ或ハ稍輕度ノ内轉アリ疼痛ヲ發スモ尙ホ手ヲ健側肩ノ上ニ置ケコトヲ得
 - 第十 上肢ノ長サ 後方ヨリ觀察スルトキハ延長ノ觀、鷹嘴突起ハ稍下方ニ位ス
 - 第十一 上肢機能 實動殆ンド不能虛動ハ疼痛ヲ發スルモ容易ナリ
 - 第十二 關節頭 腋窩ニ於テ殆ンド觸知セラル、關節内ニ運動ス
 - 第十三 軋音 證明容易ナリ
 - 第十四 異常 運動アリ
 - 第十五 整復 上肢鉛直舉上ニ由テ容易ニ恢復ス然レモ之ヲ止ムレバ變形再現ス
- 第六 鳥嘴下上膊骨脫臼
- 第一 年齡 小兒期ニ於テハ甚ダ稀有ナルモ其他ノ年齡ニハ多シ
 - 第二 損傷發生 通常介達劇力時トシテ直達劇力或ハ筋收縮ニ因テ生ズ
 - 第三 肩頭圓隆 形消失シテ扁平トナル
 - 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 著シク突出ス三角筋緊張シ該筋附着點ニ於テ上膊屈曲ノ外觀ヲ呈ス

- 第五 肩頭突起下ノ軟部 肩頭突起ノ下方ニ軟部ノ凹窩ヲ見且ツ觸知スルコトヲ得其深部ニ於テ關節窩ヲ觸知ス
 - 第六 肩胛部異常ノ凹凸 モーレンハイム氏窩ニ於テ鳥嘴突起ノ下方ニ當リ關節頭球隆起ヲ呈ス又腋窩ヨリシテ之レヲ觸知スルコトヲ得
 - 第七 疼痛 劇甚ナリ特ニ運動ヲ試ムル際ニ強シ
 - 第八 上肢ノ軸方向 關節窩ヨリ内方ヲ經過ス
 - 第九 上肢ノ位置 外轉ノ位置ニアリ肘頭ヲ軋幹ニ近接スルコト能ハズ手ヲ健側ノ肩ノ上ニ置ケコト能ハズ
 - 第十 上肢ノ長サ 稍延長セルノ觀アリ
 - 第十一 上肢機能 異常固定アリテ其位置ヲ變セズ運動ヲ認ムレバ彈力性抵抗ヲ感ズ但結節ノ骨折ヲ合併スルトキハ可動性ナリ
 - 第十二 關節頭 鳥嘴突起下ニアリ關節窩内ニ存在セズ
 - 第十三 軋音 缺如ス
 - 第十四 異常運動 無シ却テ異常ノ固定アリ
 - 第十五 整復 特種ノ還納法ニ因テ整復スルコトヲ得而シテ整復セバ再歸セズ
- 第七 上膊骨々頭ノ骨折傷
- 第一 年齡 老年ニ多シ

- 第二 損傷發生 直達劇力
- 第三 肩頭圓隆 變化ヲ見ザルアリ或ハ僅カニ扁平トナル
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋ノ狀態 肩頭突起突隆セス
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 凹窩ナシ
- 第六 肩胛狀異常ノ凹凸 異常ノ突隆ナシ
- 第七 疼痛關節内ニアリ
- 第八 上肢軸ノ方向 關節内ニ達ス
- 第九 上肢ノ位置 胸側ニ下垂ス稀レニハ稍外轉ス
- 第十 上肢ノ長サ 變化ナシ
- 第十一 上肢機能 虛動自在ナリ實動モ亦障害ナキコトアリ
- 第十二 關節頭 骨頭ハ骨折端嵌入ノ爲メ常ニ上膊ノ運動ニ隨伴ス
- 第十三 軋音 關節内ニ存在スルモ明瞭ニスルコト難シ
- 第十四 異常運動 異常運動ヲ證明セズ
- 第十五 轉位 殆ンドナク或ハ輕度

○第八 上膊骨橫顆節骨傷

- 第一 年齡 老年者ニ見ル
- 第二 損傷發生 直達劇力

- 第三 肩頭圓隆 少シク扁平
- 第四 肩頭突起及三角筋狀態 稍々突起
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 關節ノ近傍ニ淺窩アリ
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 上膊骨上端著シク其幅ヲ増ス
- 第七 疼痛 骨折部關節部ヲ壓迫シ或上肢ヲ強ク運動ヲ營シメバ劇痛ヲ發ス
- 第八 上肢軸ノ方向 關節ニ達ス時トシテ稍内方ニ至ル
- 第九 上肢軸ノ位置 肘頭軋聲ニ密接ス手ヲ健側肩上ニ置クコト容易ナリ
- 第十 下肢ノ長サ 楔狀嵌入ニ於テノミ稍短縮ス
- 第十一 上皮機能 障碍少シ
- 第十二 關節頭 骨頭關節窩内ニアルモ上膊ノ廻轉ニ隨伴スルコトナシ但楔狀嵌入ノ際ハ此限ニアラズ
- 第十三 軋音 關節ヲ固定シ而シテ後上肢ヲ廻轉シ或ハ俄然外轉スルノ際軋音ヲ知ル
- 第十四 異常運動 關節ノ直下ニ異常運動アリ
- 第十五 整復 骨端轉位甚シカラズ

○第九 大顆節骨折傷

- 第一 年齡 殊ニ中年ニ來ル

附錄 諸關節損傷之類症鑑別

- 第二 損傷發生 斷裂ニ由ル
- 第三 肩頭凹隆 肩胛部前後ノ直徑増加ス
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 強ク突出スルコトアリ
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 淺キ陷凹アリ
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 肩頭突起ノ後方及ビ下方ニ於テ骨折片ヲ觸知ス此
骨折片ハ移動シ易シ
- 第七 疼痛 上肢ヲ強ク舉上シ及ビ後方ニ位スル大顎節上ヲ壓スレバ劇甚ノ
疼痛ヲ發ス
- 第八 上肢軸ノ方向 關節内ニ達ス
- 第九 上肢ノ位置 變化ナキコトヲ得時トシテ肘頭稍外轉ス
- 第十 下肢ノ長サ 異常ヲ認メス
- 第十一 上肢機能 水平線下ノ運動ヲ認ムルコトヲ得外旋不能
- 第十二 關節頭 稍内方ニ轉位シ腋窩ヨリ觸知シ得ベシ
- 第十三 軋音 直角ニ外轉セル上肢ヲ廻轉シ其際顎節ヲ固定セバ軋音ヲ覺ユ
- 第十四 異常運動 顎節移動容易ナリ
- 第十五 整復 直達移動ニ因テ整復スルコト容易ナルモ其位置ヲ保續セシムル
コト困難ナリ

○第十 鳥嘴脫臼兼大顎節骨折傷

- 第一 年齡 中年者ニ限ル
- 第二 損傷發生 上肢過度ノ外轉ニ因ス
- 第三 肩頭凹隆 肩頭脫臼ノミノ如ク著シキ扁平ナシニケノ突隆アル爲メ著
シク其幅ヲ増加ス
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 肩頭突起突隆スルコト微ナリ
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 扁平著明ナラス
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 大顎節ハ異常ノ隆起ヲ呈シ關節頭ハモーレンハイ
ム氏窩内ニ突隆ス
- 第七 疼痛 脫臼ノ關節内ニ烈シキ疼痛ナシ
- 第八 上肢ノ方向 關節窩ヨリ内方ニ偏ス
- 第九 上肢ノ位置 肘頭ノ外轉脫臼ノ際ヨリモ微ナリ而シテ胸側ニ近接セシ
ムルコト容易ナルモ手ヲ健側肩頭上ニ置クコト能ハズ
- 第十 上肢ノ長サ 稍延長セル外見アリ
- 第十一 上肢機能 脫臼アルニモ關節運動ヲ警ムコトヲ得
- 第十二 關節頭 肩頭鳥嘴突起下ニアリ腋窩ヨリ觸知スルコト容易ナリ
- 第十三 軋音 髌節ヲ骨頭ニ向ケ壓迫シ後移動スレバ時トシテ軋音ヲ感ズ
- 第十四 異常運動 脫臼ニ於ケルガ如ク上肢ノ固定強度ナラズ髌節ヲ移動スル
コトヲ得

第十五 復位 單純脱臼ニ於ケルヨリモ容易ナリ

○第十一 小顆節骨折傷

- 第一 年齡 老年者ニ來ル
- 第二 損傷發生 脱臼合併症トシテ生ス
- 第三 肩頭圓隆 肩頭扁平トナルコト微ナリ上膊ハ三角筋附着點ニ於テ屈折セル外觀アリ
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 肩頭突起突出セズ
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 肩頭突起下ニ凹窩ヲ呈セズ
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 上膊骨上端ノ兩側ニ當テ移動シ易キ突起ヲ觸知ス突起ト大顆節間ニ一溝アリ
- 第七 疼痛 移動シ易キ突起部ニ劇痛アリ上肢外旋ノ際又劇痛ヲ發ス
- 第八 上肢ノ位置 關節内ニ達ス
- 第九 上肢ノ位置 上肢稀ニ外轉外旋ヲ呈ス
- 第十 上肢ノ長サ 變化ヲ認メス
- 第十一 上肢機能 機能ニ障害ヲ呈スルコト著シ
- 第十二 關節頭 骨頭時トシテ内方ニ偏スルコトアリ
- 第十三 軋音 軋音ヲ固持シテ後移動ヲ試ムレバ軋音ヲ著明ナラシム

第十四 異常運動 關節ニ異常運動アリ
第十五 還納 容易ニシテ上膊ノ前方ニ脱臼セントスルノ傾向アリ

○第十二 解剖頸骨折傷

- 第一 年齡 中年者及ビ老年者ニ多シ
- 第二 損傷發生 直達劇力ニ因テ生ズ
- 第三 肩頭圓隆 扁平微ナリ
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 肩頭突起突隆スルコト著明ナラズ
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 肩頭突起下僅カニ陷凹スル部アリ
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 時トシテ腋窩内ニ骨折下端ヲ觸知ス
- 第七 疼痛 關節部ヲ壓スレバ劇痛アリ虛動ノ際亦然リ
- 第八 上肢軸ノ方向 上肢軸關節ニ達ス
- 第九 上肢ノ位置 上肢ノ體側ニ下垂ス稀ニハ肘頭ノ稍外方ニ轉ズルヲ視ル手ヲ健側肩部ニ置クコト容易ナリ
- 第十 上肢ノ長サ 變化ナシ稀ニハ僅微ノ短縮アリ
- 第十一 上肢機能 運動ニ變化ナシ
- 第十二 關節頭 關節内ニ存在ス時トシテ前内方ニ移動ス
- 第十三 軋音 軋音アリ

第十四 異常運動 時トシテ異常運動アリ時トシテ之レヲ缺如ス
第十五 整復 腋窩内ニ枕子ヲ送入スレバ變形消失ス

第十三 外科頸骨折傷

- 第一 年齡 横骨傷トシテ專ラ老人ニ斜骨傷トシテハ幼年者ニ發ス該骨折ハ上膊骨上ニ於テ最モ見ルトコロノ骨傷ナリ
- 第二 損傷發生 横骨傷ハ直達劇力斜骨傷ハ介達劇力ニ因テ生ズ
- 第三 肩頭圓隆 稍扁平ノ外觀アリ
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 肩頭突起著シク突起ス
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 肩頭突起下數仙迷ニシテ一ノ凹窩アリ
骨折ノ下端烏嘴突起ノ内下方ニ於テ軟部ノ隆起ヲ惹起ス而シテ按ズルトキハ鋸齒狀ノ骨折面ヲ觸知スルコトヲ得
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸
- 第七 疼痛 肩頭突起下骨折部ニ劇痛アリ
- 第八 上肢軸ノ方向 關節窩ノ内方ヲ通過ス
- 第九 上肢ノ位置 肘頭外轉ス然レドモ之レヲ内轉スルコト容易ナリ手ヲ健
- 第十 上肢ノ長サ 著シク短縮ス

- 第十一 上肢機能 疼痛ヲ發スルモ虛動ヲ營ムコトヲ得
- 第十二 關節頭 骨頭ハ關節窩内ニアリ上肢ヲ迴轉スルモ之レニ隨伴セズ(楔狀嵌入ノ際ハ此限ニアラス)
- 第十三 軋音 軋音ヲ發セシムルコト容易ナリ
- 第十四 異常運動 運動異常ナク角度性屈折ヲ呈セシムルコトヲ得
- 第十五 整復 困難ナラザルモ轉位再ビ發シ易シ

第十四 烏嘴下脫臼兼外科頸或ハ解剖頸

骨折傷

- 第一 年齡 中年及ビ老年者ニ多シ
- 第二 損傷發生 介達劇力ノ加ハルニ因ス
- 第三 肩頭圓隆 起頭強度ノ扁平ヲ呈ス
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 著シク突起ス
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 肩頭突起直下ニ深窩ヲ生シ窩底ニ關節面ヲ觸知ス
- 第六 肩頭部異常ノ凹凸 烏嘴突起下ニ肩頭固定セララル
- 第七 疼痛 全肩胛部劇痛アリ
- 第八 上肢軸ノ方向 内方ヲ通過ス

- 第九 上肢ノ位置 (一) 上肢多クハ弛緩下垂ス稀レニハ稍外轉ス手ヲ健側健上ニ達セシムルコトヲ得
- 第十 上肢ノ長サ 上肢短縮ノ外觀アリ
- 第十一 上肢機能 上肢機能廢止ス
- 第十二 關節頭 骨頭ハ關節ノ前内方ニ位シ上肢ヲ回轉スルニ之レニ隨伴セズ
- 第十三 軋音 骨折片ヲ近接セシムレバ軋音ヲ生ズ
- 第十四 異常運動 諸方向ニ異常運動ヲ呈ス
- 第十五 整復ハ固有ノ方法ヲ要ス

○第十五 骨端部骨傷或ハ骨端離開

- 第一 年齡 二十年以下ノ幼者ニ見ル
- 第二 損傷發生 專ラ介達劇力ニ因テ生ス
- 第三 肩頭圓隆 肩頭扁平微ナリ
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 肩頭突起隆起ス
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 (一) 肩頭突起下ニ乃至三仙迷部ニ淺窩ヲ呈ス即チ該淺窩所在ハ解剖頸骨折ノ際ヨリモ下方ニ位シ外科頸骨傷ノ際ヨリモ上方ニアリ
- 第六 肩頭異常ノ凹凸 下骨折片ハ上膊骨上端前内側ニ隆起ス

- 第七 疼痛 損傷部ニ當テ疼痛アリ壓迫及ビ運動ニ因テ増加ス
- 第八 上肢軸ノ方向 軸位大ナルトキハ關節面ノ内方ヲ通過ス
- 第九 上肢ノ位置 上肢體側ニ下垂シ強度ニ轉位セハ稍ヤ外轉シテ後方ニ向フ
- 第十 上肢ノ長サ 輕度ノ短縮アリ
- 第十一 上肢機能 機能廢絶ス
- 第十二 關節頭 骨頭肩頭突起下ニ位シ上肢運動ニ隨伴セズ
- 第十三 軋音 軟骨軋音アリ
- 第十四 異常運動 異常運動ヲ呈ス
- 第十五 整復 整復容易ナリ骨折片ノ固定困難ナリ

○肘關節損傷ノ類症鑑別

○第一 顆節上骨折傷

- 第一 外副腕節ヨリ肩頭突起ニ至ルノ長ヲ計リテ上膊ノ著シク短縮スルヲ見ル
- 第二 肘關節ハ屈曲シ手ハ前轉ス
- 第三 上膊ノ軸肘窩ニ達セズ
- 第四 關節ノ橫徑變化ナシト雖トモ關節前後徑増加ス
- 第五 三頭筋腱凹形ヲナシ前方ニ開口セル角度ヲナシテ經過ス
- 第六 膊肘窩ニ於テ肘皺變ノ上方ニ狹キ突起ヲ觸知ス

第七 驚嘴突起及ヒ橈骨小頭ハ著シク後上方ニ位ス

第八 驚嘴突起ト兩副髌節ノ關係ハ左ノ如シ

第九 前膊ハ諸方向ニ異常虛動ヲ呈ス(疼痛ヲ發スルモ)

第十 異常運動アリ

第十一 軋音アリ

第十二 前膊ヲ牽引スレバ容易ニ變形ヲ消失セシムベシト雖トモ牽引ヲ廢スレバ變形再現ス

○第二 頰節上髌節間骨傷

第一、二、三、五、六、九、十、十一、及ビ第十二ハ髌節上骨折ニ同シ

第四 關節ノ橫徑著シク増加ス

第七 骨端髌節間ニ楔狀ニ嵌入スルキハ時トシテ驚嘴突起ノ缺如セル者ノ如シ

第八 兩髌節相互ノ距離増加ス又驚嘴突起ヨリ離ル、コト甚シ

○第三 骨端部骨傷

第一、二、三、四、五、七、八、九及ビ第十二ハ髌節上髌節間骨傷ニ同シ

第六 膊肘窩内ノ關節ニ近ヅキ其幅ヲ増加ス

第十 異常運動ハ關節部ニ近ヅキ又過度ノ伸展ヲナスコトヲ得

第十一 軋音アルトキハ軟骨ノ軋音ナリ

○第四 肘頭突起骨傷

第一 上膊短縮證明ス可カラズ

第二 骨端骨傷ニ同シ

第三 上膊軸ハ關節ニ違ス

第四 肘關節部前後徑異常ナシ然レトモ前膊ヲ牽引スレバ大凡三仙迷増加ス

第五 前膊ヲ牽引スレバ三頭筋腱前方ニ緊張ス

第六 肘頭皺襞ハ關節腫脹ノ爲メ多クハ消失ス

第七 肘頭突起ノ折レタルヲ觸知ス

第八 肘頭突起尖端ハ兩髌節ヨリ上方ニ位ス

第九 前膊ハ運動ヲ營ム能ハズ

第十 副髌節ハ直下關節線ノ上ニ異常運動ヲ證明ス

第十一 軋音特ニ前膊ヲ側方ニ運動スルノ際

第十二 整復容易ナリ

○第五 後脫臼

第一 上膊ノ長サニ變化ナシ

附錄

諸關節損傷之類症鑑別

- 第一 小兒ニ來ルコト少シ
- 第二 伸展外轉外旋ニ因テ生ズ
- 第三 著明ナル挫傷ノ症候ナシ
- 第四 格別ノ疼痛ナシ
- 第五 異常固定アリ
- 第六 軋音ナシ
- 第七 上肢一二仙迷(短縮卵圓孔脱臼ニハ延長ス)
- 第八 大轉子ハ内方ニ轉位シ白ノ前ニアリ
- 第九 下肢外轉外旋
- 第十 大腿趾骨頭ヲ趾骨上ニ觸知ス

○第四 囊韌帶内頸骨折傷

- 第一 殆ンド老人而已ニ之ヲ發ス
- 第二 強大ナラザル外力ニ因テモ生ズ
- 第三 關節周圍ニ著明ナル挫傷ノ症候缺如ス
- 第四 安靜位置ニ於テハ疼痛少ク運動セバ劇痛アリ
- 第五 下肢廻轉ノ際大轉子ノ盡ク固ハ稍ヤ小トナル等
- 第六 短縮ヲ除キタルトキハ軋音ヲ發見シ得ベシ

- 第七 短縮輕度ナル後ニ増加スルコトアリ
- 第八 大轉子ハローセル子ヲトン氏線ヨリ稍ヤ上方ニアリ
- 第九 下肢外旋ス
- 第十 骨頭ハ髌臼内ニアリ

○第五 囊韌帶外頸骨折傷

- 第一 老人ニ多キモ幼年者ニモ亦發スルコトアリ
- 第二 大概大轉子上ニ劇力ノ作用ニ因テ生ズ
- 第三 大轉子部ニ著明ナル挫傷ノ諸症候アリ
- 第四 安靜ノ位置ニ於テモ疼痛アリ運動ハ疼痛ノ爲メ營ムコト能ハズ
- 第五 大轉子ハ麻醉中虛動ヲナスニ當リテ大腿骨長軸ノ周圍ニノミ廻轉ス
- 第六 大轉子上ニ手掌ヲ接スレバ軋音ヲ發スルコト容易ナリ
- 第七 下肢短縮スルコト大約六仙迷ナリ
- 第八 大轉子ハローセルネラトン氏線ノ上部ニアリ或ハ扁平或ハ粉碎ス
- 第九 下肢ノ外旋スルコト甚ダシ
- 第十 大腿骨髌臼内ニアリ

○第六 楔狀嵌入外頸骨折傷

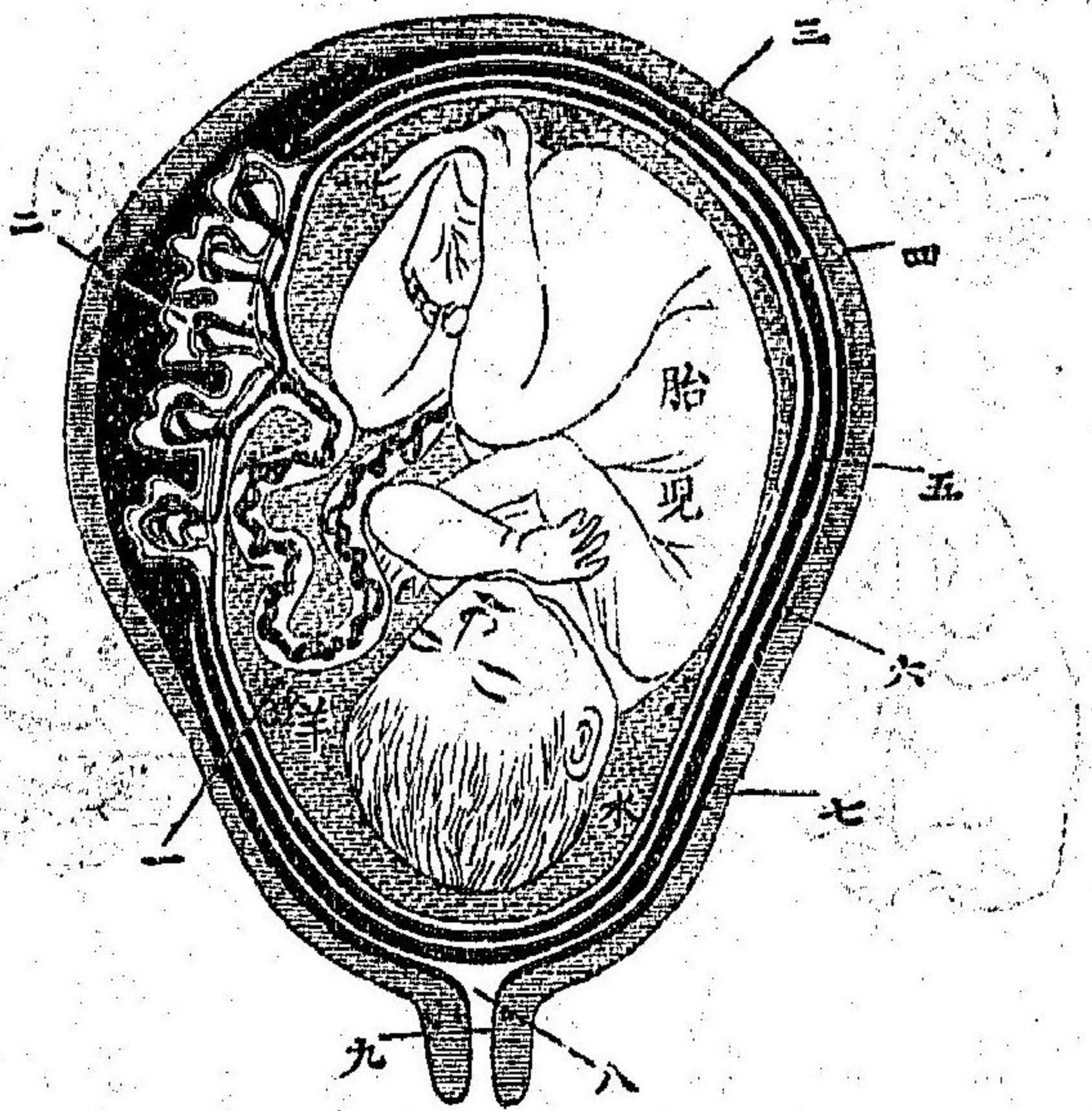
附錄 諸關節損傷之類症鑑別

- 第一 老人ニ發生ス
- 第二 大轉子ニ跌仆スルニ因テ生ス
- 第三 股關節部ハ挫傷ノ著明ナル諸徴アリ
- 第四 大概劇痛アリ
- 第五 下肢ハ著シキ運動ノ固定ヲ呈ス
- 第六 軋音ナシ
- 第七 下肢短縮ハ三仙迷ニ達スコトアリ然レトモ屢々極メテ僅微ナルコトアリ
- 第八 大轉子ハ通常扁平トナリ或ハ片碎ス
- 第九 下肢少シク外旋ス
- 第十 大腿骨頭ノ位置變化ナシ

第二十章 妊娠及卵ノ發育

女ノ卵男ノ精蟲ト結合ス受胎是ナリ母ハ受胎卵ヲ約二百八十日其體內ニ養育ス妊娠是レナリ妊娠終レハ胎兒出産ス分娩是レナリ
 受胎卵ノ一部ヨリ胎兒ヲ完成シ他部ハ其附屬器トナル故ニ成熟卵ハ五部ヨリ構成ス(一)胎兒(二)臍帶(三)胎盤(四)卵膜(紙ノ如ク薄キノ三膜ノ密着セルモノナリ内層ハ羊膜、中層ハ絨毛膜、外層ハ鰾轉脱落膜)第八十三圖ノ如キ是レナリ

第八十三圖
 成熟卵
 (ル據ニ氏ゲンル)



- 一 臍帶
- 二 胎盤
- 三 羊膜
- 四 絨毛膜
- 五 鰾轉脱落膜
- 六 眞脱落膜
- 七 子宮壁
- 八 子宮内口
- 九 頸管
- 十 子宮外口

第 八 十 四 圖
初 期 胎 兒 之 自 然 大 小
(ル 由 ニ 氏 ス ヒ)



各月末胎兒ノ状態(八十四圖ヲ看ヨ)

第一月末 卵ハ鳩卵大ニシテ卵内ノ胎兒ハ一×一〇〇〇即チ一仙迷ノ長サヲ有シ他ノ哺乳動物ノモノト異ナル形状ナシ頭ト軀幹ト同大ニシテ眼ハ漸ク生ス四肢僅カニ其ノ兆ヲ呈スルノミ

第二月末 卵ハ鷄卵大ニシテ卵内ノ胎兒ハ二×二〇〇〇即チ四仙迷ノ長サヲ算ス

人體ノ形已ニ顯ハレ四肢各三部ニ分レ臍帶漸ク長シ胎盤ノ形成ハ第二月ノ中旬ニ始マル

第三月末 卵ハ鶩卵大ニシテ卵内ノ胎兒ハ三×三〇〇〇即チ九仙迷ノ長サヲ算ス指趾ヲ形成シ臍帶胎兒ヨリ長シ陰莖ナルカ陰核ナルカ不明ニシテ男女判スベカラス

第四月末 身長ハ四×四〇〇即チ十六仙迷男女ノ別分明シ毳毛發生ス胎盤完成ス

第五月末 身長ハ五×五〇〇即チ二十五仙迷頭髮ヲ生ス

第六月末 身長ハ六×六〇〇即チ三十仙迷皮下脂肪組織生スルモ皮膚尙ホ皺

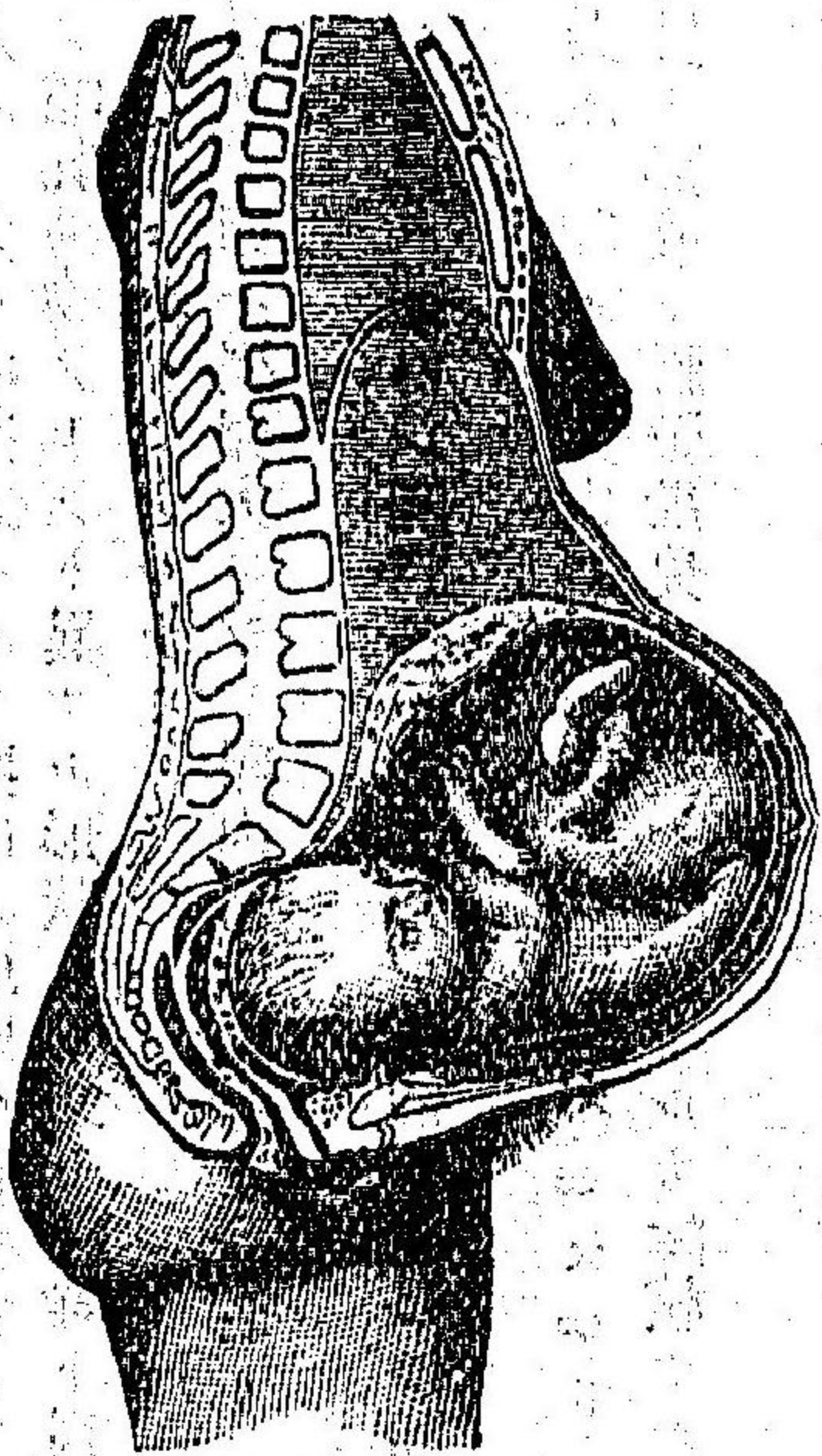
變ニ富ム

第七月末 身長ハ七×七〇〇即チ三十五仙迷ヲ算ス皮膚皺變ニ富ム出產スレバ啼クモ直チニ死ス未ダ生活スルコトヲ得ス

附 錄 妊 娠 及 卵 ノ 發 育

第八月末 身長 40 x 31 厘米 即チ四十仙迷皮膚尙ホ皺襞ニ富ム注意十分ナレ
 出產生活シ得
 第九月末 身長 45 x 34 厘米 即チ四十五仙迷ヲ算ス皮下脂肪發育シテ皺襞ヲ
 呈セズ出產十分ニ生活スルコトヲ得
 第十月 身長 50 x 37 厘米 即チ五十仙迷
 (以上各月ノ身長ハ獨逸人ニ就キテ概算セルモノ日本人ニ於テハ稍ヤ小ナルモ)

第五十八圖



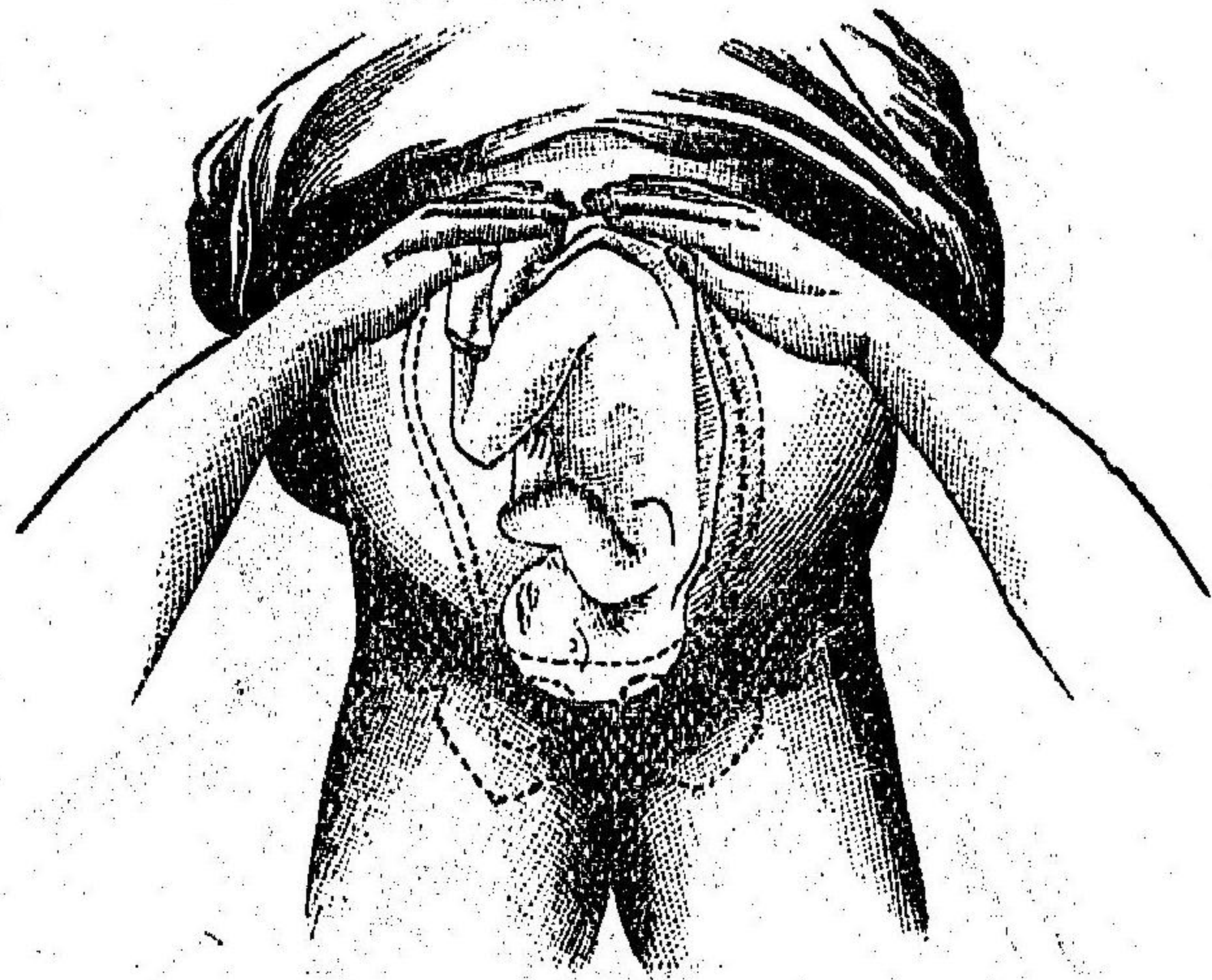
第一頭蓋
 位ノ正規
 胎勢ヲ示
 ス(妊娠
 末期)
 (ル由ニ氏ツルニシ)

ノト知ルベシ) 皮膚ニ胎脂ヲ着シ體肥ヘ高聲ニ啼キ尿ヲ泄ラシ胎尿ヲ排ス
 胎位、胎向及胎勢 胎位ニ縱位横位ノ二種アリ胎兒子宮内ニ縱ナルトキハ縱位ニ
 シテ之レヲ普通トス横位ハ稀ニシテ〇、六%ニ過キズ〇胎兒ノ背母體ノ左側ニ向
 フトキヲ第一胎向トシ右側ニ對スルトキヲ第二胎向ト云フ第一ハ第二ヨリ多シ〇
 胎勢ハ胎兒ノ姿勢ヲ云フ通常第八十五圖ノ如ク背ヲ屈シ頭ヲ胸ニ接シ四肢ヲ屈シ
 テ胸腹ノ前ニ置キ左右ノ前膊及下腿ヲ交叉ス此姿勢ニ異ナルトコロアレバ之レヲ
 異常胎勢ト云フ

第二十一章 妊婦ノ診察

妊婦ノ診査 先ツ姓名年齢職業既往ノ狀態(疾病月經妊娠)等ヲ尋子現時ノ一般狀
 態(體格營養歩行狀態)ヲ明カニシ乳房、乳頭、乳腺ヲ診シ次ニ妊婦ヲ仰臥セシメ下
 肢ヲ屈セシメ腹部一般妊娠線(第八十六圖)、及臍窩ヲ視診シ次ニ診者ハ妊婦ノ一
 側ニ坐シ第八十七圖ノ如ク兩手掌ヲ上腹ニ接着シ子宮底ノ位置及是ニ存スル胎兒
 ノ體部ヲ診シ次ニ第八十八圖ノ如ク兩手ヲ子宮ノ側部ニ送り胎兒ノ脊部及ヒ小體
 部ヲ觸診シ次ニ第八十九圖ノ如ク一手ヲ以テ恥骨上ニ在ル體部ヲ觸診ス次ニ若シ
 下方ノ體部深ク骨盤内ニ存スルトキハ診者ハ坐テ妊婦ノ頭首ノ方ニ移シ第九十圖
 ノ如ク骨盤内ニ兩手ヲ深ク送りテ觸診スベシ以上ノ外診ニ依リテ胎兒ノ大小、胎
 向胎位移動ヲ知悉スベシ次ニ聽診ヲ行フ即チ聽診器ヲ以テ左ノ諸音ヲ診ス

圖 七 十 八 第



ス 診 觸 ヲ 部 胎 及 底 宮 子

(ル 由 ニ 氏 ド ル ボ オ レ)

圖 六 十 八 第

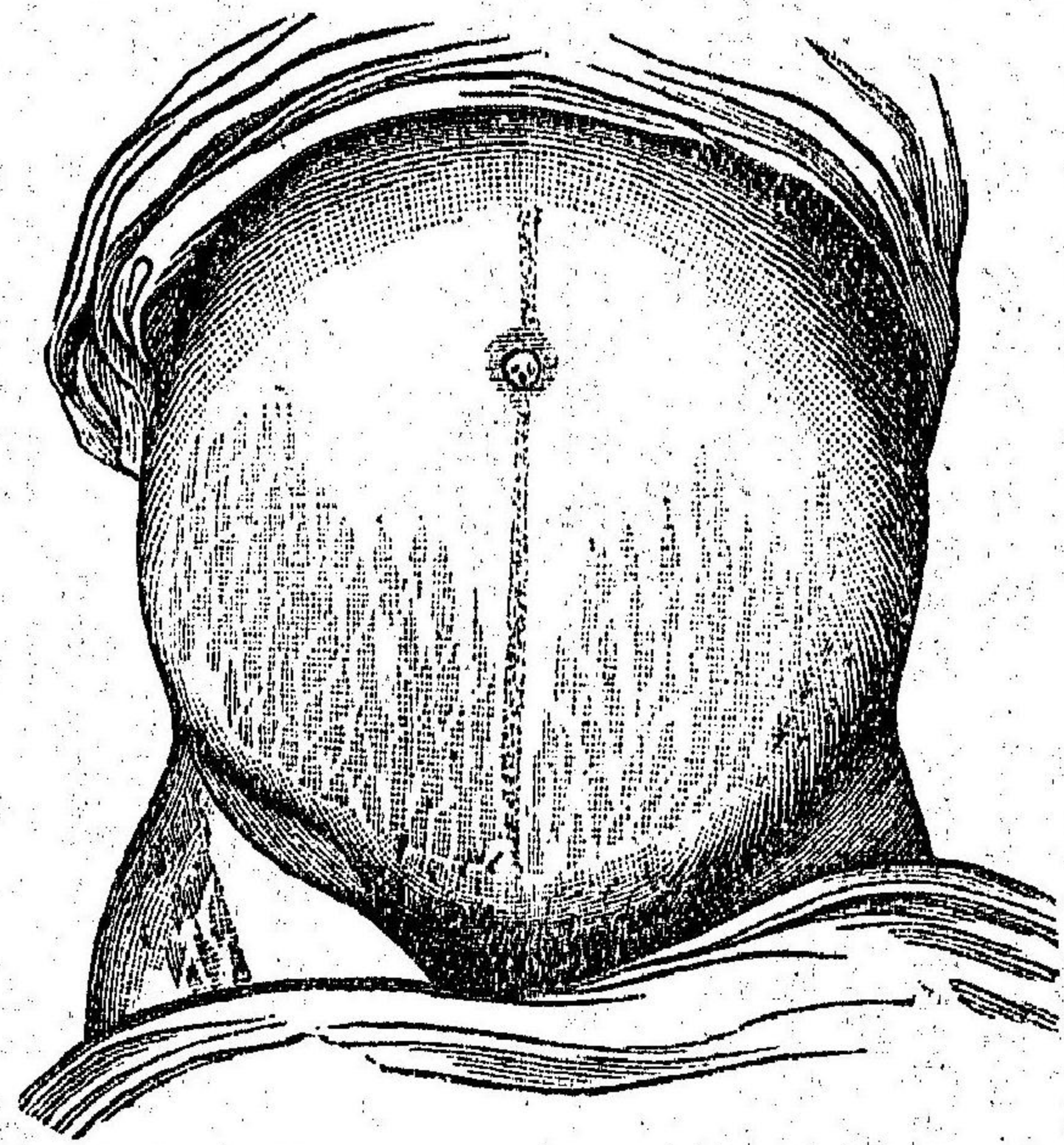
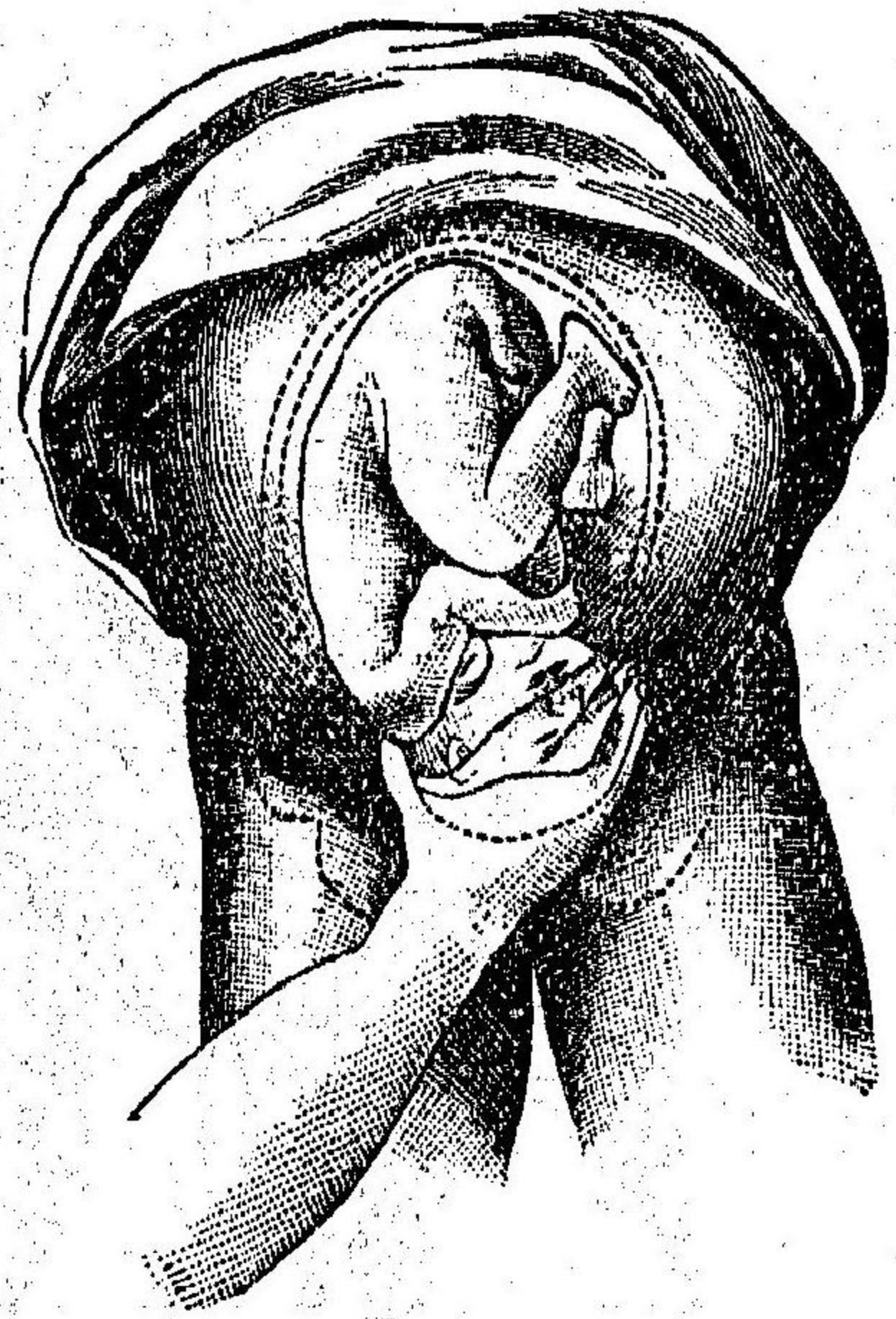


圖 ノ 線 娠 妊

(ル 由 ニ 氏 ゲ ン ル)

圖 九 十 八 第



ス 診 觸 ナ 頭 ノ 兒 胎
(ル 由 ニ 氏 ド ル ポ オ レ)

圖 八 十 八 第



診 ス 體 部 ナ 觸
ノ 背 及 小 側 及 胎 兒 子 宮 ノ 兩
(ル 由 ニ 氏 ド ル ポ オ レ)